

CLUSTERPRO[®] X SingleServerSafe 3.1 **for Linux**

操作ガイド

2013.10.31
第8版

CLUSTERPRO

改版履歴

版数	改版日付	内 容
1	2011/10/11	新規作成
2	2011/11/30	内部バージョン 3.1.1-1 に対応
3	2012/3/31	内部バージョン 3.1.3-1 に対応
4	2012/6/30	内部バージョン 3.1.4-1 に対応
5	2012/9/30	内部バージョン 3.1.5-1 に対応
6	2012/12/10	内部バージョン 3.1.7-1 に対応
7	2013/4/1	内部バージョン 3.1.8-1 に対応
8	2013/10/31	内部バージョン 3.1.10-1 に対応

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいせん。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

CLUSTERPRO[®] X は日本電気株式会社の登録商標です。

FastSync[™]は日本電気株式会社の商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における、登録商標または商標です。

RPMの名称は、Red Hat, Inc.の商標です。

Intel、Pentium、Xeonは、Intel Corporationの登録商標または商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Turbolinuxおよびターボリナックスは、ターボリナックス株式会社の登録商標です。

VERITAS、VERITAS ロゴ、およびその他のすべてのVERITAS 製品名およびスローガンは、VERITAS Software Corporation の商標または登録商標です。

Oracle、JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の 米国およびその他の国における商標または登録商標です。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

Novellは米国および日本におけるNovell, Inc.の登録商標です。

SUSEは米国Novellの傘下であるSUSE LINUX AGの登録商標です。

Citrix、Citrix XenServerおよびCitrix Essentialsは、Citrix Systems, Inc.の米国あるいはその他の国における登録商標または商標です。

WebOTX は日本電気株式会社の登録商標です。

JBossは米国Red Hat, Inc.ならびにその子会社の登録商標です。

Apache Tomcat、Tomcat、Apacheは、Apache Software Foundationの登録商標または商標です。

Androidは、Google, Inc.の商標または登録商標です。

SVFはウイングアークテクノロジーズ株式会社の登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに	ix
対象読者と目的	ix
本書の構成	ix
本書で記述される用語	x
CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系	xi
本書の表記規則	xii
最新情報の入手先	xiii
セクション I マネージャ操作リファレンス	15
第 1 章 WebManager の機能	17
WebManager を起動する	18
WebManager とは	18
WebManager を起動するには	19
WebManager の画面	20
WebManager のメイン画面	20
WebManager の動作モードを切り替えるには	22
WebManager でアラートの検索を行うには	23
WebManager を使用してログを収集するには	24
WebManager の情報を最新に更新するには	28
WebManager の画面レイアウトを変更するには	28
WebManager から時刻情報を確認するには	28
WebManager から統合マネージャを起動するには	30
WebManager からクラスタサービスの操作を行うには	30
WebManager からライセンスを確認するには	31
WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには	32
WebManager から実行できる操作	32
WebManager のリストビューで状態を確認する	41
WebManager のリストビューでサーバ全体の詳細情報をリスト表示するには	41
WebManager のリストビューでサーバ状態の概要を確認するには	47
WebManager のリストビューでサーバ状態の詳細を確認するには	47
WebManager のリストビューでモニタ全体の状態を確認するには	48
WebManager でアラートを確認する	49
アラートビューの各フィールドについて	49
アラートビューの操作	50
WebManager を手動で停止/開始する	52
WebManager を利用したくない場合	52
WebManager の接続制限、操作制限を設定する	53
使用制限の種類	53
WebManager の権限切替え	56
セクション II コマンドリファレンス	57
第 2 章 CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス	59
コマンドラインから操作する	60
コマンド一覧	60
状態を表示する (clpstat コマンド)	62
CLUSTERPROデーモンを操作する (clpcl コマンド)	64
サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)	68

グループを操作する (clpgrp コマンド).....	69
ログを収集する (clplogcc コマンド).....	73
タイプを指定したログの収集 (-t オプション).....	76
syslogの世代 (-r オプション).....	79
ログファイルの出力先 (-o オプション).....	79
異常発生時の情報採取	80
構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド).....	81
構成情報を反映する(clpcfctrl --push)	81
構成情報をバックアップする (clpcfctrl --pull)	88
タイムアウトを一時調整する(clptoratio コマンド).....	92
ログレベル/サイズを変更する(clplogcf コマンド)	95
ライセンスを管理する(clplcnsc コマンド).....	102
メッセージを出力する (clplogcmd コマンド).....	106
監視リソースを制御する (clpmonctrl コマンド)	109
グループリソースを制御する (clprscコマンド).....	117
CPUクロックを制御する (clpcpufreq コマンド).....	121
クラスタ間連携を行う (clptrnreq コマンド).....	123
クラスタサーバに処理を要求する(clprexec コマンド).....	125
BMC情報を変更する(clpbmccnf コマンド).....	129
再起動回数を制御する(clpregctrl コマンド)	131
リソース使用量を予測する (clpprerコマンド).....	134
セクション III リリースノート.....	139
第 3 章 注意制限事項.....	141
システム運用後	142
ドライバロード時のメッセージについて	142
ipmiのメッセージについて	142
回復動作中の操作制限	142
コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて	142
ログ収集時のメッセージ	143
サービス起動/停止用スクリプトについて	143
EXECリソースで使用するスクリプトファイルについて	144
活性時監視設定のモニタリソースについて.....	144
システムモニタリソースの注意事項について	144
JVMモニタリソースの注意事項について	144
モニタリソース異常検出時の最終動作(グループ停止)の注意事項について(対象バージョン3.1.5-1～3.1.6-1)	145
WebManagerについて	146
Builder について.....	147
第 4 章 エラーメッセージ一覧	149
syslog、アラート、メール通報、SNMP トラップメッセージ	150
ドライバのsyslogメッセージ	196
カーネルモードLANハートビートドライバ.....	196
キーブアライブドライバ.....	199
グループリソース活性/非活性時の詳細情報	200
EXECリソース	200
仮想マシンリソース	201
モニタリソース異常時の詳細情報.....	202
ソフトRAIDモニタリソース	202
IPモニタリソース	202
ディスクモニタリソース.....	203
PIDモニタリソース.....	206
ユーザ空間モニタリソース	206

カスタムモニタリソース	207
マルチターゲットモニタリソース	207
JVMモニタリソース.....	208
システムモニタリソース.....	208
NIC Link Up/Downモニタリソース.....	209
仮想マシンモニタリソース	209
ボリュームマネージャモニタリソース	210
プロセス名モニタリソース.....	210
監視オプションモニタリソース.....	210
JVM モニタリソースの ログ出力メッセージ	214
JVM運用ログ.....	214
JVMロードバランサ連携ログ	224
付録	227
付録 A 索引.....	229

はじめに

対象読者と目的

『CLUSTERPRO® X SingleServerSafe 操作ガイド』は、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。構成は、セクション I からセクション III までの3部に分かれています。

本書の構成

セクション I マネージャ操作リファレンス

第 1 章 「WebManager の機能」 :WebManager の機能について説明します。

セクション II コマンドリファレンス

第 2 章 「CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス」 :CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。

セクション III リリースノート

第 3 章 「注意制限事項」 :既知の問題と制限事項について説明します。

第 4 章 「エラーメッセージ一覧」 :CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

付録

付録 A 「索引」

本書で記述される用語

本書で説明する CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通の画面・コマンドを使用しています。そのため、一部、クラスタとしての用語が使用されています。以下のように用語の意味を解釈して本書を読み進めてください。

用語	説明
クラスタ、クラスタシステム	CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入した単サーバのシステム
クラスタシャットダウン/リブート	CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入したシステムのシャットダウン、リブート
クラスタリソース	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるリソース
クラスタオブジェクト	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用される各種リソースのオブジェクト
フェイルオーバーグループ	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるグループリソース(アプリケーション、サービスなど)をまとめたグループ

CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のマニュアルは、以下の 5 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストールガイド』(Install Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストール作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』(Configuration Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアと、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の構築作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 操作ガイド』(Operation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。

『CLUSTERPRO X 統合WebManager 管理者ガイド』(Integrated WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO 統合WebManager で管理するシステム管理者、および統合WebManager の導入を行うシステム エンジニアを対象読者とし、統合WebManager を使用したクラスタ システム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

『CLUSTERPRO X モバイルWebManager 管理者ガイド』 (Mobile WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO モバイルWebManager で管理するシステム管理者、およびモバイルWebManager の導入を行うシステム エンジニアを対象読者とし、モバイルWebManager を使用したクラスタ システム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項および関連情報を以下のように表記します。

注： は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要： は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

関連情報： は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	clpstat -s[-h host_name]
#	Linux ユーザが、root でログインしていることを示すプロンプト	# clpcl -s -a
モノスペースフォント (courier)	パス名、コマンド ライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)、ディレクトリ、ファイル名、関数、パラメータ	/Linux/3.0/jpn/server/
モノスペースフォント太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドラインから入力する値を示します。	以下を入力します。 # clpcl -s -a
モノスペースフォント斜体 (courier)	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	rpm -i clusterprobuilder-<バージョン番号>-<リリース番号>.i686.rpm

-

最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

<http://jpn.nec.com/clusterpro/>

セクション I マネージャ操作リファレンス

このセクションでは、CLUSTERPRO X WebManagerの機能の詳細について説明します。CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通の画面を使用しています。

- 第 1 章 WebManager の機能

第 1 章

WebManager の機能

本章では、WebManager の機能について説明します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

-
- WebManager を起動する 18
- WebManagerの画面 20
- WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには 32
- WebManager のリストビューで状態を確認する 41
- WebManager でアラートを確認する 49
- WebManager を手動で停止/開始する 52
- WebManager を利用したくない場合 52
- WebManager の接続制限、操作制限を設定する 53

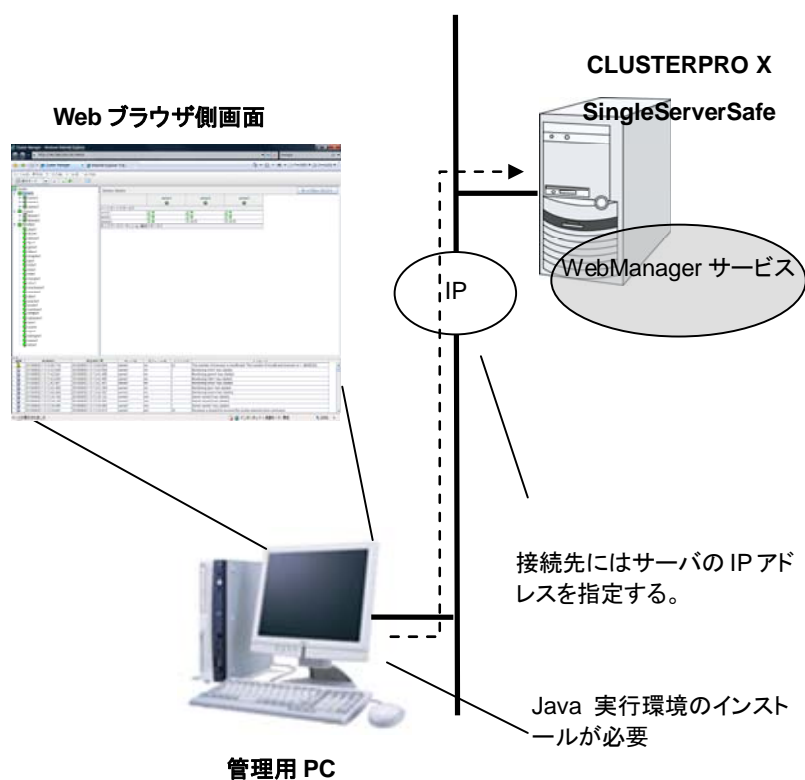
WebManager を起動する

本章で説明する WebManager は、CLUSTERPRO X の WebManager と共通の画面・用語を使用している部分があります。そのため、一部クラスタとしての用語が使用されています。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe は1ノードのクラスタであると解釈して本書を読み進めてください。

WebManager とは

WebManager とは、Web ブラウザ経由で CLUSTERPRO の設定と状態監視、サーバ/グループの起動/停止及び、動作ログの収集などを行うための機能です。以下の図に WebManager の概要を示します。



CLUSTERPRO X SingleServerSafe のサーバ上の WebManager サービスは OS の起動と同時に起動するようになっています。

WebManager を起動するには

WebManager を起動する手順を示します。

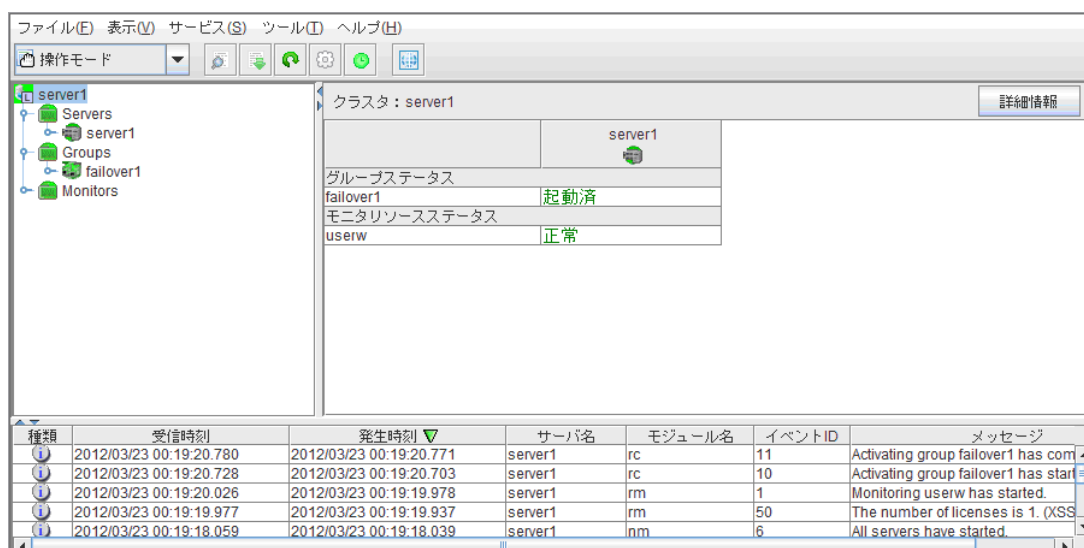
1. Web ブラウザを起動します。
2. ブラウザのアドレス バーに、CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールしたサーバの IP アドレスとポート番号を入力します。

http://192.168.0.3:29003/

インストール時に指定したWebManager のポート番号を指定します(既定値29003)。

CLUSTERPRO X SingleServerSafeをインストールしたサーバのIPアドレスを指定します。
自サーバの場合は、localhostでも問題ありません。

3. WebManager が起動します。



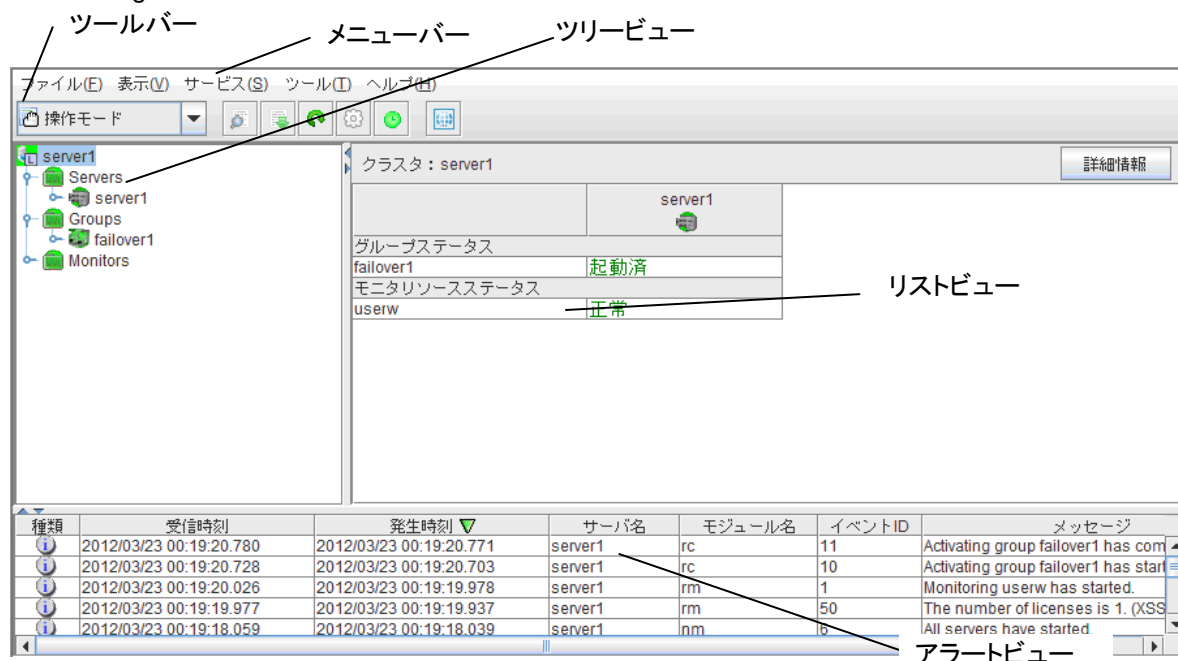
WebManager の画面

WebManager の画面について説明します。

注: WebManager 画面で表示される言語については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』の「第 7 章 その他の設定の詳細」の「情報タブ」を参照してください。

WebManager のメイン画面

WebManager の画面は 2 つのバーと 3 つのビューから構成されます。



メニューバー

以下の 5 つのメニューがあり、各メニューの内容は設定モードと操作・参照モードで異なります。操作・参照モードのメニュー内の各項目については本章で後述します。設定モードのメニューについては次章を参照ください。

- ◆ ファイル メニュー
- ◆ 表示 メニュー
- ◆ サービス メニュー
- ◆ ツール メニュー
- ◆ ヘルプ メニュー

ツールバー

ツールバーのコンボボックスやアイコンをクリックすると、メニューバーの一部の項目と同じ操作を行うことができます。

アイコン	機能	参照先
 操作モード	Webmanagerを操作モードに切り替えます。[表示] メニューの [操作モード] を選択するのと同じです。	「 WebManager の動作モードを切り替えるには」 (22ページ)
 設定モード	WebManagerを設定モード(オンライン版Builder)に切り替えます。[表示] メニューの [設定モード] を選択するのと同じです。	「 WebManager の動作モードを切り替えるには」 (22ページ)
 参照モード	Webmanagerを参照モードへ切り替えます。[表示] メニューの [参照モード] を選択するのと同じです。	「 WebManager の動作モードを切り替えるには」 (22ページ)
 検証モード	WebManager の検証モードへ転換します。[表示] メニューの [検証モード] を選択するのと同じです。	「 WebManager の動作モードを切り替えるには」 (22ページ)
	アラート検索を実行します。[ツール] メニューの [アラート検索] を選択するのと同じです。	「 WebManager でアラートの検索を行うには」 (23ページ)
	ログを採取します。[ツール] メニューの [ログ採取] を選択するのと同じです。	「 WebManager を使用してログを収集するには」 (24ページ)
	リロードを実行します。[ツール] メニューの [リロード] を選択するのと同じです。	「 WebManager の情報を最新に更新するには」 (28ページ)
	オプションを表示します。[ツール] メニューの [オプション] を選択するのと同じです。	「 WebManager の画面レイアウトを変更するには」 (28ページ)
 	時刻情報を表示します。[ツール] メニューの [時刻情報] を選択するのと同じです。 時刻情報が更新された場合、アイコンが変わります。時刻情報ダイアログを表示するとアイコンは元に戻ります。	「 WebManager から時刻情報を確認するには」 (28ページ)
	統合マネージャを表示します。[ツール] メニューの [統合マネージャ] を選択するのと同じです。	「 WebManager から統合マネージャを起動するには」 (30ページ)

ツリービュー

サーバ、グループリソースなどの状態が確認できます。詳しくは 32 ページの「WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには」を参照してください。

リストビュー





上段には、ツリー ビューで選択したサーバなどの情報が表示されます。下段には、サーバ、各グループリソースや各モニタリソースの起動・停止状況とコメントが一覧表示されます。また、右上の [詳細情報] ボタンを選択すると、さらに詳しい情報がダイアログで表示されます。詳しくは 41 ページの「WebManager のリストビューで状態を確認する」を参照してください。

アラートビュー

CLUSTERPRO X SingleServerSafeの動作状況がメッセージとして表示されます。詳しくは 49 ページの「WebManager でアラートを確認する」を参照してください。

WebManager の動作モードを切り替えるには

WebManager には以下の 4 つの動作モードがあります。

- ◆ **操作モード**
サーバの状態参照と操作の両方が可能なモードです。
[表示] メニューの [操作モード] を選択するか、ツールバーのコンボボックスで [操作モード] ( 操作モード) をクリックすると操作モードに切り替わります。ただし、WebManager 起動時に参照モード専用のパスワードでログインした場合や、操作制限するように登録されたクライアントから WebManager に接続した場合には、操作モードに切り替えることはできません。
- ◆ **設定モード**
サーバの構築・設定変更が可能なモードです。
設定モードのWebManagerをオンライン版Builderと呼びます。設定モードの動作については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』を参照ください。
[表示] メニューの [設定モード] を選択するか、ツールバーのコンボボックスで [参照モード] ( 設定モード) をクリックすると設定モードに切り替わります。ただし、操作制限するように登録されたクライアントから WebManager に接続した場合には、設定モードに切り替えることはできません。
- ◆ **参照モード**
サーバの状態参照のみ可能で操作ができないモードです。
[表示] メニューの [参照モード] を選択するか、ツールバーのコンボボックスで [参照モード] ( 参照モード) をクリックすると参照モードに切り替わります。
- ◆ **検証モード**
モニタリソースの擬似障害を発生/解除させるためのモードです。
[表示] メニューの [検証モード] を選択するか、ツールバーのコンボボックスで [検証モード] ( 検証モード) をクリックすると検証モードに切り替わります。ただし、操作制限するように登録されたクライアントから WebManager に接続した場合には、検証モードに切り替えることはできません。
また、検証モードから、他のモードに切り替えると、「全てのモニタの擬似障害を停止しますか?」というダイアログが表示されます。「はい」を選択すると、擬似障害発生状態のモニタリソースが、全て通常の監視に戻ります。「いいえ」を選択すると、擬似障害発生状態のモニタリソースは、擬似障害発生状態を維持したまま他のモードに切り替わります。


注：WebManager の [操作モード] [参照モード] [検証モード] でポップアップ画面を表示している状態で [設定モード] に切り替えた場合、開いているポップアップ画面は終了します。

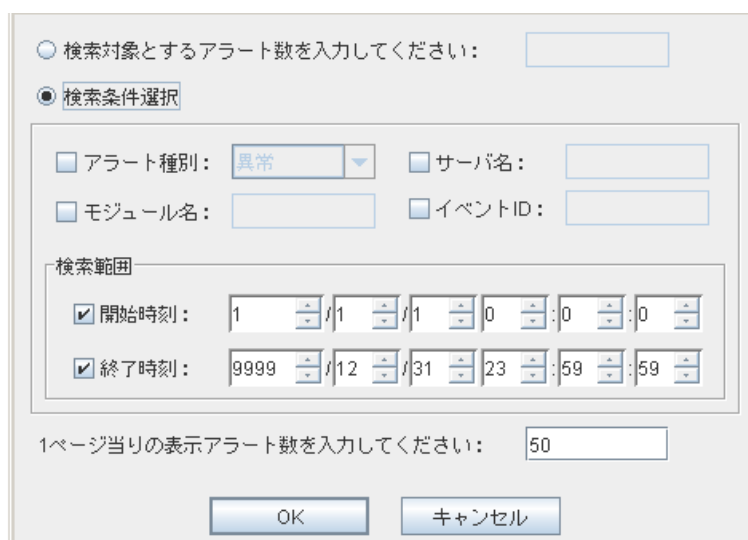
ポップアップ画面で実行している操作は継続して実行されます。

WebManager でアラートの検索を行うには

WebManager を使用して、アラートの検索を行うことができます。特定のタイプのアラートのみを参照したい場合などに便利です。

注：アラートログに関しては、49 ページの「WebManager でアラートを確認する」も合わせて参照してください。

アラート検索を行うには、[ツール] メニューの [アラート検索]、またはツールバーのアラート検索アイコン()をクリックします。アラートログの検索条件を設定する画面が表示されます。



指定した数の過去何件分のアラートのみを検索対象としたい場合:

1. [検索対象とするアラート数を入力してください] を選択します。
2. 検索したいアラートの数を入力し、[OK] をクリックすると、指定した数の過去のアラートが表示されます。


注：入力可能なアラート件数の最大値は Builder の [クラスタのプロパティ] - [アラートログ] - [保存最大アラートレコード数] で設定できます。

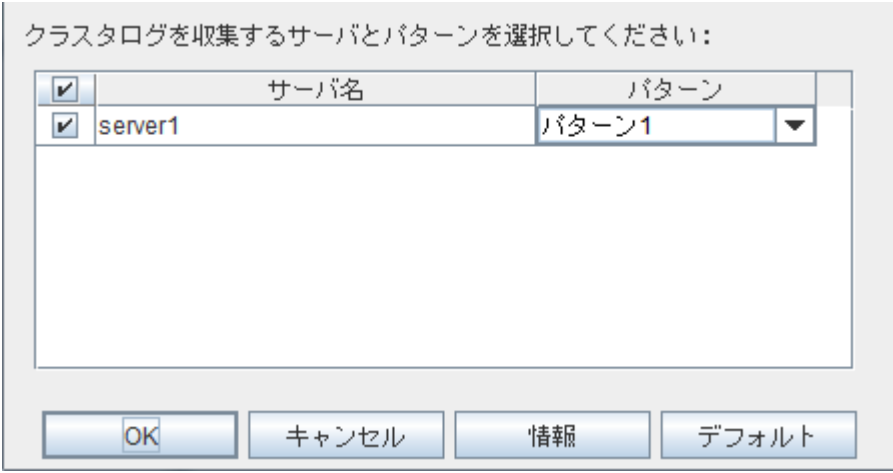
検索条件を指定して検索したい場合:

1. [検索条件選択] を選択します。
2. 各フィールドに検索条件を設定して、検索を実行します。
 - [アラート種別] で、表示したいアラートの種別を選択します。
 - [モジュール名] で、アラートを表示したいモジュールのタイプを入力します。
 - [サーバ名] で、アラートを表示したいサーバを入力します。

- [イベント ID] に表示したいイベント ID を入力します。
イベントIDについては「第 4 章 エラーメッセージ一覧」を参照してください。
 - イベントの発生時刻で検索条件を絞りこみたい場合は、[開始時刻] と [終了時刻] に値を入力します。
3. ページ当りに表示する検索結果のアラート数を [1 ページ当りの表示アラート数を入力してください] で指定して、[OK] をクリックします。検索結果が発生時刻を基準にして、降順で表示されます。
 4. 検索結果が複数ページに表示されている場合は、[前ページ]、[次ページ]、[ジャンプ] ボタンをクリックして移動します。

WebManager を使用してログを収集するには

[ツール] メニューの [クラスタログ収集]、またはツールバーのクラスタログ収集アイコン()をクリックすると、[クラスタログ収集] ダイアログ ボックスが表示されます。



チェックボックス

ログを収集するサーバを選択します。ログを収集するサーバのチェックボックスをオンにします。

パターン

収集する情報を選択します。

ログの収集パターンは、パターン 1 ~ 4 を指定します。

	パターン 1	パターン 2	パターン 3	パターン 4
(1) デフォルト収集情報	○	○	○	○
(2) syslog	○	○	○	×
(3) core	○	○	×	○
(4) OS 情報	○	○	○	○
(5) script	○	○	×	×
(6) ESM/PRO/AC	○	○	×	×
(7) HA ログ	×	○	×	×

(1)~(7)の採取内容については、本ガイドの「第 2 章 CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス ログを収集する(ciplogcc コマンド)」を参照してください。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.1 for Linux 操作ガイド

[OK] ボタン

ログ収集が開始され [ログ収集進捗] ダイアログ ボックスが表示されます。

[キャンセル] ボタン

このダイアログを閉じます。

[情報] ボタン

各パターンの情報が表示されます。

[デフォルト] ボタン

サーバ選択とパターン選択を既定値に戻します。

[クラスタログ収集進捗] ダイアログ ボックス

サーバ名	接続IPアドレス	ステータス	進捗状況	結果
server1	127.0.0.1	圧縮中	<div><div></div></div> 6%	正常

[更新] ボタン

[クラスタログ収集進捗] ダイアログ ボックスを、最新の状態に更新します。

[中止] ボタン

ログ収集を中止します。

[閉じる] ボタン

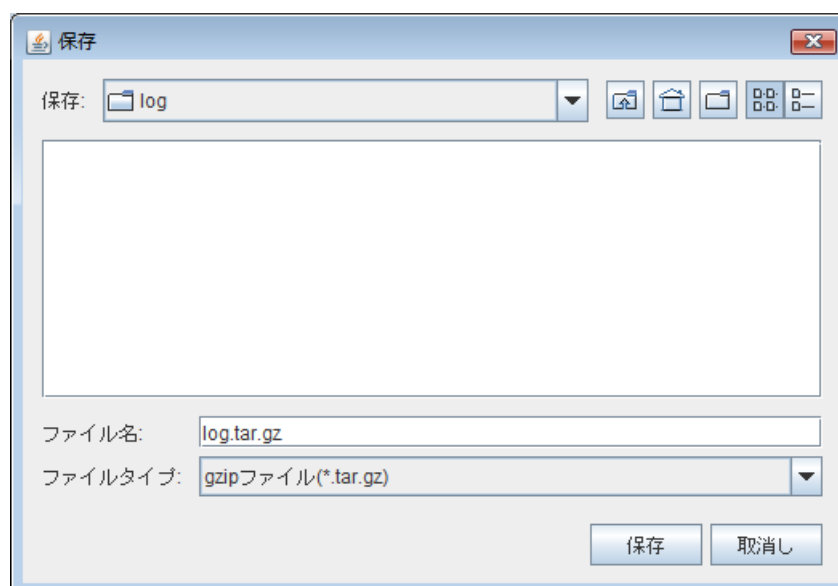
[クラスタログ収集進捗] ダイアログ ボックスを閉じます。ログ収集は継続して動作しています。

この時、タイトルビューの [クラスタログ収集] は [進捗状況] に表示が変わっています。再度 [クラスタログ収集進捗] ダイアログ ボックスを表示するには [進捗状況] をクリックしてください。

ログ収集結果

結果	説明
正常	成功です。
中止	ユーザによってログ収集が中止されました。
パラメータ不正	内部エラーが発生した可能性があります。
送信エラー	接続エラーが発生しました。
タイムアウト	処理にタイムアウトが発生しました。
ビジー	サーバがビジー状態です。
圧縮エラー	ファイル圧縮時にエラーが発生しました。
ファイルI/Oエラー	ファイルが存在しません。
空き容量不足	ディスクに空き容量がありません。
その他異常	その他のエラーによる失敗です。

ログ収集が完了すると、保存ダイアログ ボックスが表示されるので、適当な場所にログをダウンロードしてください。



注: この状態のまま 10 分以上経つと、正常にダウンロードできないことがあります。


ログ収集を実行すると、サーバ側のコンソールに以下のようなメッセージが表示される場合があります。

```
hda: bad special flag: 0x03
ip_tables: (C) 2000-2002 Netfilter core team
```

ログ収集に問題はありませんので、本メッセージは無視してください。

注: ログ収集中に、他のモーダルダイアログ ボックスを表示していると、ログ収集のファイル保存ダイアログ ボックスが表示されません。ログ収集のファイル保存ダイアログ ボックスを表示するには、他のモーダルダイアログ ボックスを終了してください。

WebManager の情報を最新に更新するには

WebManager に表示される情報を最新に更新するには、[ツール] メニューの [リロード]、またはツールバーのリロードアイコン()をクリックします。

注: クライアントデータ更新方式として [RealTime] を設定している場合は、WebManager に表示される情報は自動的に更新されます。

クライアントデータ更新方式として [Polling] を設定している場合は、WebManager に表示される情報は自動的に更新されますが、設定された更新間隔で更新されるため、必ずしも常に最新の状態を示しているわけではありません。最新の内容を表示したい場合は、操作を行った後 [リロード] アイコンまたは [ツール] メニューの [リロード] をクリックしてください。

WebManager のクライアントデータ更新方式は、Builder の [クラスタのプロパティ] - [WebManager] - [調整] - [クライアントデータ更新方式] で設定可能です。

WebManager の自動更新間隔は、Builder の [クラスタのプロパティ] - [WebManager] - [調整] - [画面データ更新インターバル] で調整可能です。



接続先と通信不可である場合、及び、接続先で CLUSTERPRO X SingleServerSafe が動作していない場合などは、一部オブジェクトが灰色で表示されることがあります。


WebManager の画面レイアウトを変更するには

各ビューを区切っているスプリットバーのボタンをクリックするか、バーをドラッグすると、WebManager の画面レイアウトを変更できます。特定のビューのみを表示したい場合などに便利です。

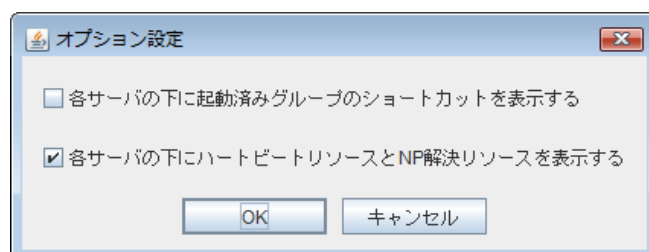
スプリットバーとは、WebManager の各ビューを区切っている




のバーのことで、 を選択するとそのビューを最大表示にし  を選択するとそのビューを非表示にすることが可能です。

ツリービューの表示項目を変更するには、[ツール] メニューの [オプション]、またはツールバーのオプションアイコン()をクリックします。

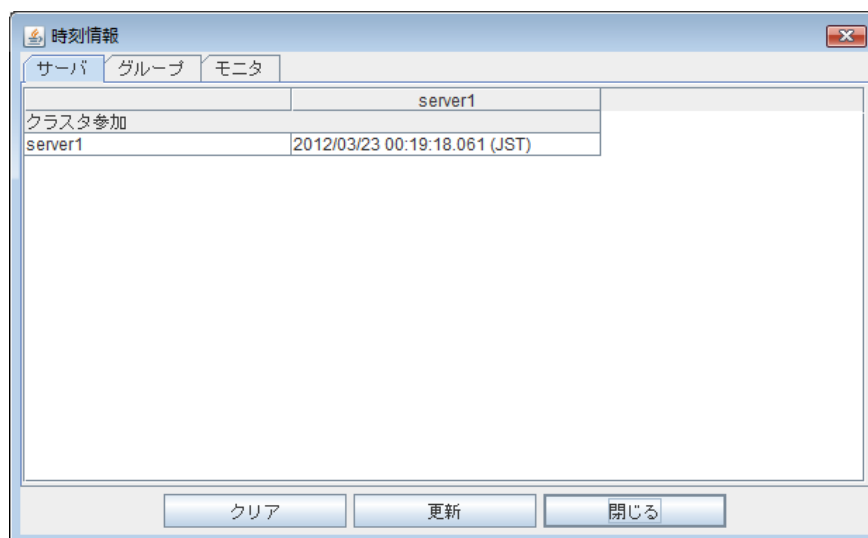
下記ダイアログが表示されるので、表示したい項目にチェックします。



WebManager から時刻情報を確認するには

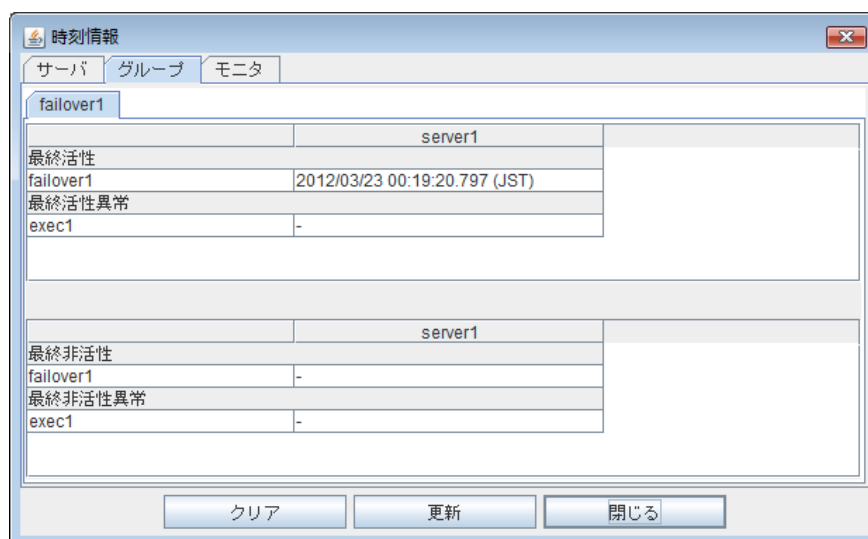
WebManager から時刻情報を確認するには、[ツール] メニューの [時刻情報]、またはツールバーの時刻情報アイコン () をクリックします。

サーバタブに表示される時刻情報



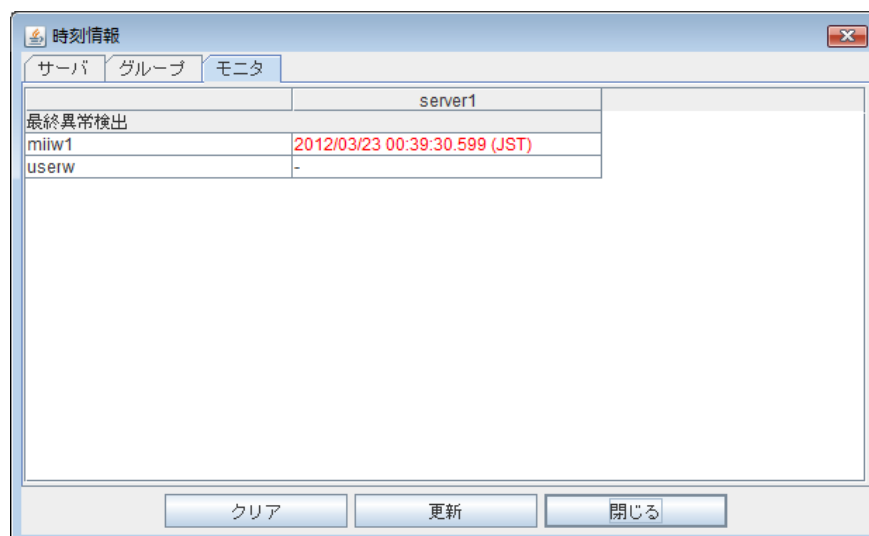
- ◆ クラスタ参加
サーバがクラスタに参加した直近の時刻が表示されます。

グループタブに表示される時刻情報



- ◆ 最終活性
フェイルオーバーグループがサーバ上で最後に活性した時刻が表示されます。
- ◆ 最終活性異常
グループリソースがサーバ上で最後に活性異常を検出した時刻が表示されます。
- ◆ 最終非活性
フェイルオーバーグループがサーバ上で最後に非活性した時刻が表示されます。
- ◆ 最終非活性異常
グループリソースがサーバ上で最後に非活性異常を検出した時刻が表示されます。

モニタタブに表示される時刻情報



- ◆ 最終異常検出
各モニタリソースがサーバ上で最後に正常状態から異常状態に遷移した時刻が表示されます。

[クリア] ボタン

表示しているタブの時刻情報を削除します。

[更新] ボタン


全てのタブの時刻情報を再取得します。

[閉じる] ボタン

時刻情報ダイアログボックスを閉じます。

注: WebManager の [クライアントデータ更新方法] が [Polling] に設定されている環境で、本画面の[クリア]ボタンを押した時にツールバーの時刻情報アイコンが点灯することがありますがクラスタとしては問題ありません。

WebManager から統合マネージャを起動するには

WebManager から統合マネージャを起動するには、[ツール] メニューの [統合マネージャ]、またはツールバーの統合マネージャアイコン  をクリックします。

WebManager からクラスタサービスの操作を行うには

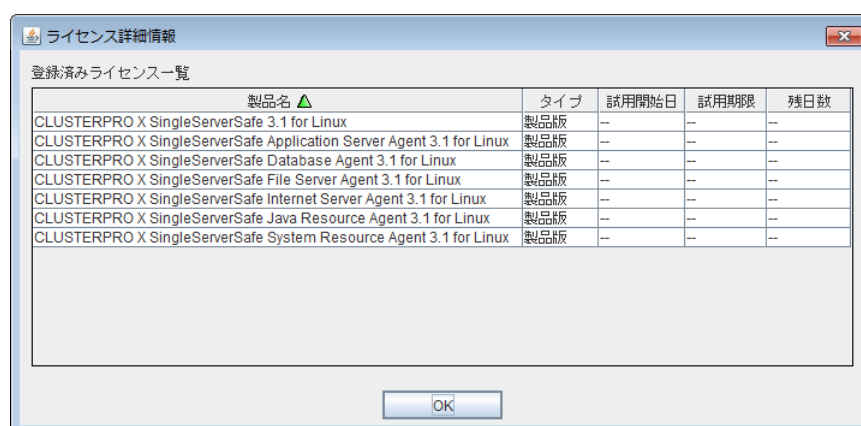
WebManager からクラスタサービスの操作を行うには、[サービス] メニューから下記の各項目を選択します。

- ◆ クラスタサスペンド
サーバの一時停止を行います。サーバが起動している状態でのみ選択可能です。

- ◆ クラスタリジューム
サスペンドしたサーバの再開を行います。サーバがサスペンドしている状態でのみ選択可能です。
- ◆ クラスタ開始
サーバの起動を行います。サーバが停止している状態でのみ選択可能です。
- ◆ クラスタ停止
サーバの停止を行います。サーバが起動している状態でのみ選択可能です。
- ◆ マネージャ再起動
マネージャの再起動を行います。

WebManager からライセンスを確認するには

WebManager からライセンスを確認するには、[ヘルプ] メニューの [ライセンス情報] をクリックします。



登録済みライセンス一覧

接続先サーバに登録されているライセンスが表示されます。

一覧のフィールド名を選択することにより各項目を並び替えることが可能です。

既定の状態では [製品名] について降順に並んでいます。

[OK] ボタン

ライセンス情報ダイアログボックスを閉じます。

WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには

WebManager の画面上で、各オブジェクトの状態を視覚的に確認できます。以下にその手順を示します。

1. WebManager を起動します。
2. 画面左にツリーが表示されます。各オブジェクトのアイコンの形や色によって状態を確認します。

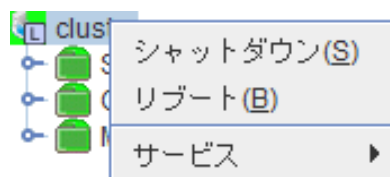
注：ツリー構成は CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョンや併用するオプション製品によって異なります。

WebManager から実行できる操作

[サーバ全体]、[特定サーバ]、[特定グループ] 及び、[仮想マシンリソース] は右クリックを行うことで、サーバに対する操作を行うことが可能です。

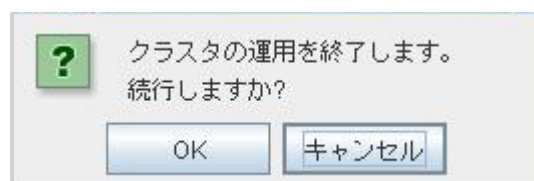
サーバ全体のオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



◆ シャットダウン

稼働中のサーバをシャットダウンします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



◆ リブート

稼働中のサーバをリブートします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。

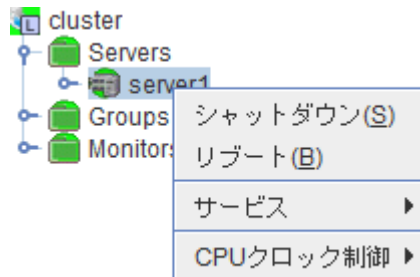


◆ サービス

選択するとショートカット メニューに [クラスタサスペンド]、[クラスタリジューム]、[クラスタ開始]、[クラスタ停止]、[マネージャ再起動] が表示されます。

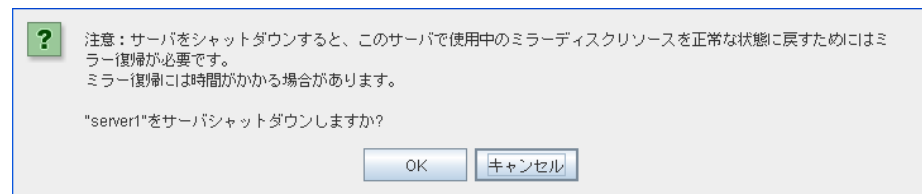
特定サーバのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



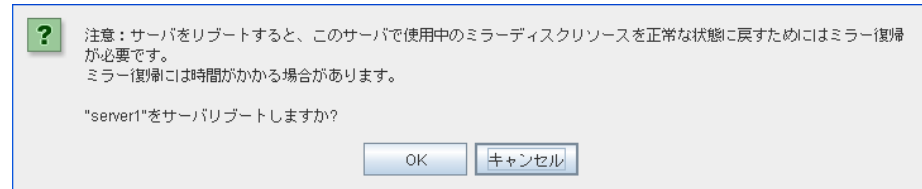
◆ シャットダウン

サーバをシャットダウンします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



◆ リブート

選択したサーバをリブートします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



◆ サービス

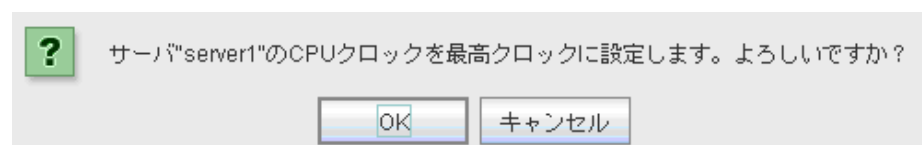
選択したサーバを開始および停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



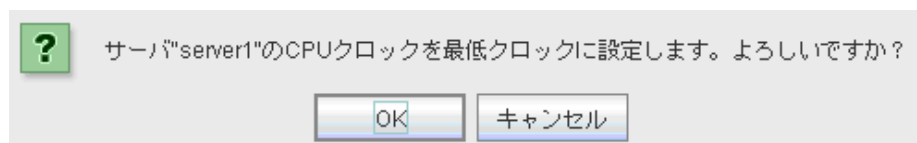
◆ CPU クロック制御

選択したサーバの CPU クロック制御機能を設定します。

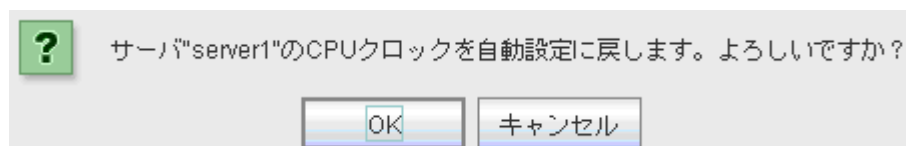
- 最高クロック
CPU クロック数を最高にします。



- 最低クロック
CPU クロック数を下げて省電力モードにします。



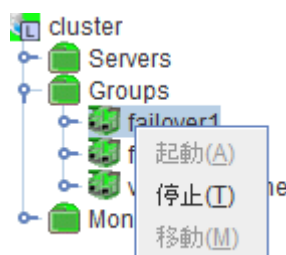
- 自動設定
CPU クロックの制御を CLUSTERPRO の自動制御に戻します。



「クラスタのプロパティ」の省電力の設定で「CPU クロック制御機能を使用する」にチェックが入っていない場合、この機能は使えません。

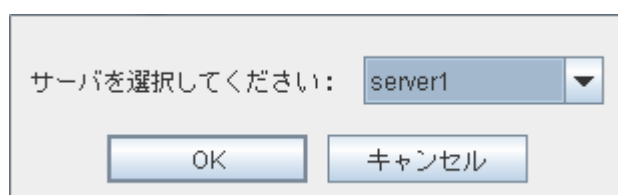
特定グループのオブジェクト (フェイルオーバーグループを選択した場合)

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



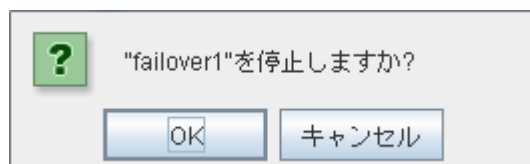
- ◆ 起動 (停止中のみ選択可能)

選択したグループを起動します。選択したグループをどのサーバで起動するか選択するダイアログが表示されます。



- ◆ 停止 (起動中または異常状態のみ選択可能)

選択したグループを停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



- ◆ 移動

使用しません。

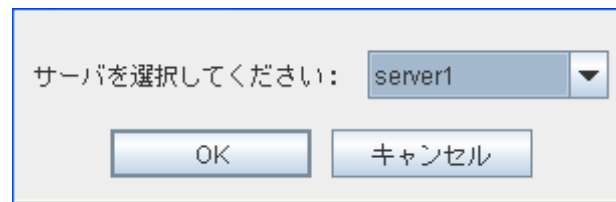
特定グループリソースのオブジェクト(仮想マシンリソース以外)

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



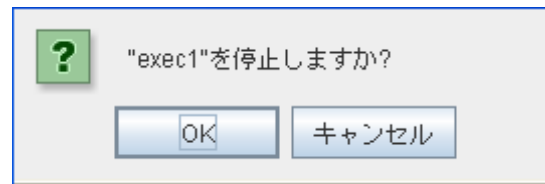
◆ 起動 (停止中のみ選択可能)

選択したグループリソースを起動します。選択したグループをどのサーバで起動するか選択するダイアログが表示されます。



◆ 停止 (起動中または異常状態のみ選択可能)

選択したグループを停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



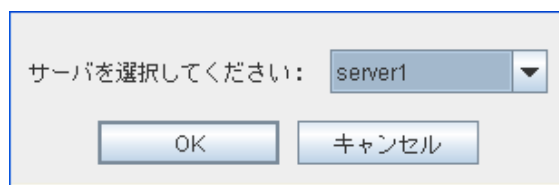
特定グループのオブジェクト (仮想マシングループを選択した場合)

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



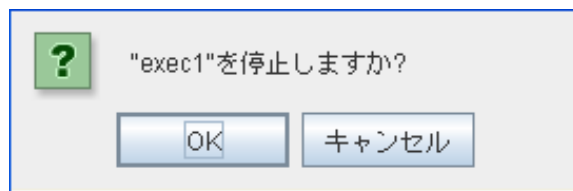
◆ 起動 (停止中のみ選択可能)

選択したグループリソースを起動します。選択したグループをどのサーバで起動するか選択するダイアログが表示されます。



◆ 停止 (起動中または異常状態のみ選択可能)

選択したグループリソースを停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



◆ 移動

使用しません。

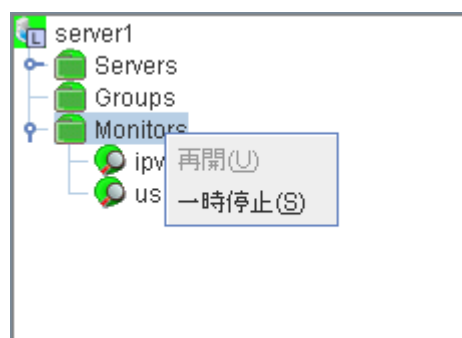
◆ ライブマイグレーション

使用しません。

モニタ全体のオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。

操作モード選択時



検証モード選択時



◆ 再開（一時停止中のみ選択可能）

設定されている全てのモニタリソースを再開します。ただし、監視一時停止/再開が不可能なモニタリソースでは実行されません。モニタリソースをどのサーバで再開するか選択するダイアログが表示されます。

サーバを選択してください：

<input checked="" type="checkbox"/>	サーバ名
<input checked="" type="checkbox"/>	server1

OK キャンセル デフォルト

◆ 一時停止（監視中のみ選択可能）

設定されている全てのモニタリソースを一時停止します。ただし、監視一時停止/再開が不可能なモニタリソースでは実行されません。モニタリソースをどのサーバで一時停止するか選択するダイアログが表示されます。

サーバを選択してください：

<input checked="" type="checkbox"/>	サーバ名
<input checked="" type="checkbox"/>	server1

OK キャンセル デフォルト

◆ 擬似障害解除(擬似障害発生状態でのみ選択可能)

全てのモニタリソースの擬似障害を解除します。
モニタリソースの擬似障害を解除するサーバを選択するダイアログが表示されます。

サーバを選択してください：

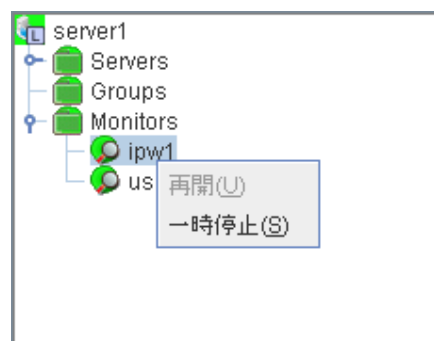
<input checked="" type="checkbox"/>	サーバ名
<input checked="" type="checkbox"/>	server1

OK キャンセル デフォルト

特定モニタリソースのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。

操作モード選択時



検証モード選択時



◆ 再開（一時停止中のみ選択可能）

選択したモニタリソースを再開します。選択したモニタリソースをどのサーバで再開するか選択するダイアログが表示されます。

サーバを選択してください：

<input checked="" type="checkbox"/>	サーバ名
<input checked="" type="checkbox"/>	server1

OK キャンセル デフォルト

◆ 一時停止（監視中のみ選択可能）

選択したモニタリソースを一時停止します。選択したモニタリソースをどのサーバで一時停止するか選択するダイアログが表示されます。

サーバを選択してください：

<input checked="" type="checkbox"/>	サーバ名
<input checked="" type="checkbox"/>	server1

OK キャンセル デフォルト

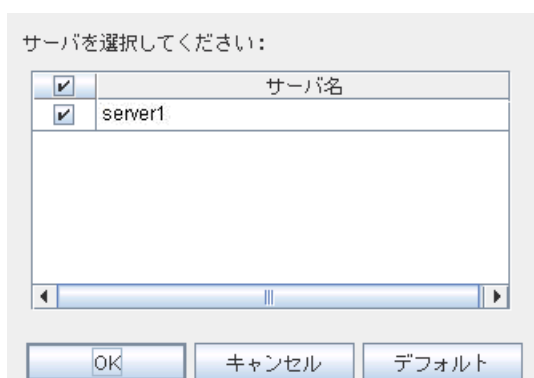
◆ 擬似障害発生（検証モードの場合のみ選択可能）

選択したモニタリソースの擬似障害を発生させます。擬似障害を発生させるには、該当のモニタリソースで、[各サーバでのリソースステータス]が、異常または擬似障害発生状態以外のサーバでのみ、選択可能です。

ただし、以下のモニタリソースは選択できません。

- ・ ユーザ空間モニタリソース
- ・ 外部連携モニタリソース
- ・ 仮想マシンモニタリソース

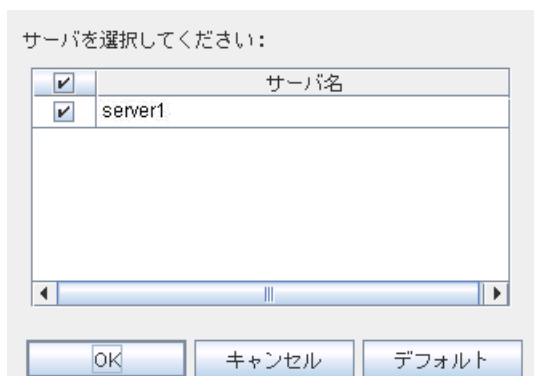
選択したモニタリソースの擬似障害を発生させるサーバを選択するダイアログが表示されます。



◆ 擬似障害解除（検証モードの場合のみ選択可能）

選択したモニタリソースの擬似障害を解除します。


選択したモニタリソースの擬似障害を解除するサーバを選択するダイアログが表示されます。

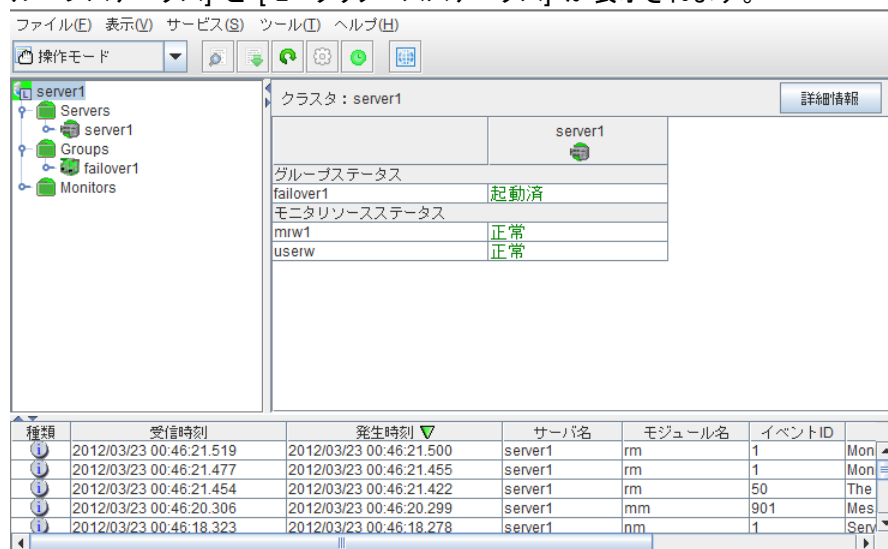


WebManager のリストビューで状態を確認する

リストビューでは WebManager のツリービューで選択したオブジェクトの詳細情報を見ることができます。

WebManager のリストビューでサーバ全体の詳細情報をリスト表示するには

1. WebManager を起動します。
2. ツリービューでサーバ全体のオブジェクト  を選択します。右側のリストビューに、[グループステータス] と [モニタリソースステータス] が表示されます。



3. [詳細情報] ボタンをクリックします。以下の内容がダイアログボックスに表示されます。

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートIF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
名前				server1			
コメント							
ステータス				正常			

名前	クラスタ名
コメント	クラスタのコメント
ステータス	クラスタのステータス

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートIF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
同期待ち時間 (秒)				300			
ハートビートタイムアウト (ミリ秒)				90000			
ハートビートインターバル (ミリ秒)				3000			
内部通信タイムアウト (秒)				180			
タイムアウト倍率				1			

同期待ち時間	サーバ起動時に他のサーバの起動を待ち合わせる時間 (秒)
ハートビートタイムアウト	ハートビートのタイムアウト時間 (ミリ秒)

ハートビートインターバル
内部通信タイムアウト
タイムアウト倍率

ハートビートの送信間隔 (ミリ秒)
内部通信タイムアウト時間 (秒)
現在のタイムアウト倍率

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートMF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
内部通信ポート番号				29001			
データ転送ポート番号				29002			
ハートビートポート番号				29002			
カーネルモードハートビートポート番号				29006			
WebManager HTTPポート番号				29003			
アラート同期ポート番号				29003			

内部通信ポート番号
データ転送ポート番号
ハートビートポート番号
カーネルモードハートビートポート番号
WebManager HTTP ポート番号
アラート同期ポート番号

内部通信で使用するポート番号
データ転送で使用するポート番号
ハートビートで使用するポート番号
カーネルモードハートビートで使用するポート番号
WebManager で使用するポート番号
アラート同期に使用するポート番号

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートMF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
ログの通信方法				UNIXドメイン			
ポート番号				0			

ログの通信方法
ポート番号

ログで使用する通信方法
ログで使用するポート番号

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートMF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
シャットダウン監視				常に実行する			
シャットダウン監視方法				softdog			
アクション				RESET			
SIGTERMを有効にする				する			
HBタイムアウトを使用する				する			
タイムアウト (秒)				90			
システムリソース情報を収集する				しない			

シャットダウン監視
シャットダウン監視方法
アクション
SIGTERM を有効にする
HB タイムアウトを使用する
タイムアウト (秒)
システムリソース情報を収集する

シャットダウン監視の有無
シャットダウン監視の方法
タイムアウト発生時の動作
SIGTERM の有効の有無
HB タイムアウトの使用の有無
タイムアウト (秒)
システムリソース情報収集の有無

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートIF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
ハートビート遅延警告				80			
モニタ遅延警告				80			

ハートビート遅延警告

ハートビートの遅延警告 (%)

モニタ遅延警告

モニタの遅延警告 (%)

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートIF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
メールアドレス							
ネットワーク警告灯を使用する				しない			
アラート拡張機能を使用する				しない			
筐体IDランプ連携を使用する				しない			
アラート通報設定を有効にする				しない			

メールアドレス

通報先メールアドレス

ネットワーク警告灯を使用する

ネットワーク警告灯の使用の有無

アラート拡張機能を使用する

アラート拡張機能の使用の有無

筐体 ID ランプ連携を使用する

筐体 ID ランプ連携機能の使用の有無

アラート通報設定を有効にする

アラート通報設定の使用の有無

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートIF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
マウント、アンマウントコマンド排他				する			

マウント、アンマウントコマンド排他

マウント、アンマウントコマンド排他の有無

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートIF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
サーバダウン通知				する			

サーバダウン通知

サーバダウン通知

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートIF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
最大再起動回数				0			
最大再起動回数をリセットする時間 (分)				0			
強制停止機能を使用する				しない			
強制停止アクション				BMC リセット			
強制停止タイムアウト (秒)				3			
ダウン後自動起動する				する			
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(活性異常時)				しない			
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(非活性異常時)				しない			
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(監視異常時)				しない			

最大再起動回数

最大再起動回数

最大再起動回数をリセットする時間 (分)

最大再起動回数をリセットする時間 (分)

強制停止機能を使用する

強制停止機能の使用の有無

強制停止アクション

強制停止機能のアクション

強制停止タイムアウト (秒)

強制停止実行後、フェイルオーバーグループの活性を開始するまでの待ち時間 (秒)

ダウン後自動起動する

非正規停止後のクラスタサービスの自動起動禁止の有無

最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(活性異常時)

最後の一台の場合の活性異常時のシャットダウンの抑制の有無

最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(非活性異常時)

最後の一台の場合の非活性異常時のシャットダウンの抑制の有無

最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(監視異常時)

最後の一台の場合の監視異常時のシャットダウンの抑制の有無

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートIF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
CPUクロック制御機能を使用する				しない			

CPU クロック制御機能を使用する

CPU クロック制御機能の使用の有無

ミラードライバ	排他	ハートビートIF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
監視	遅延警告	アラートサービス	ミラーエージェント			
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)		
プロパティ				設定値		
Javaインストールパス				/usr/java/jdk1.6.0_35/bin		
最大Javaヒープサイズ(MB)				7		
ロードバランサ連携設定				BIG-IP LTM		
ログレベル				INFO		
保持するログファイルの世代数				10		
ログローテーション方式				ファイルサイズ		
ログファイルの最大サイズ(KB)				3072		
ログローテーションを最初に行う時刻				00:00		
ログローテーションのインターバル(時間)				24		
リソース計測: 計測リトライ回数				10		
リソース計測: 異常判定しきい値				5		
リソース計測: メモリ、スレッドの計測インターバル(秒)				60		
リソース計測: Full GCの計測インターバル(秒)				120		
WebLogic監視: 計測リトライ回数				3		
WebLogic監視: 異常判定しきい値				5		
WebLogic監視: リクエスト数の計測インターバル(秒)				60		
WebLogic監視: 平均値の計測インターバル(秒)				300		
管理ポート番号				25500		
接続のリトライ回数				3		
再接続までの待ち時間(秒)				60		
ロードバランサ連携の管理ポート番号				25550		
ヘルスチェック機能と連携する				しない		
HTML格納ディレクトリ						
HTMLファイル名						
HTMLリネーム先ファイル名						
リネーム失敗時のリトライ回数				3		
リネームのリトライまでの待ち時間(秒)				3		
mgmt IP アドレス				172.16.30.117		
通信ポート番号				443		

Java インストールパス

最大 Java ヒープサイズ(MB)

ロードバランサ連携設定

ログレベル

保持するログファイルの世代数

ログローテーション方式

ログファイルの最大サイズ(KB)

ログローテーションを最初に行う時刻

ログローテーションのインターバル(時間)

リソース計測: 計測リトライ回数

リソース計測: 異常判定しきい値

リソース計測: メモリ、スレッドの計測インターバル(秒)

Java インストールパス

最大 Java ヒープサイズ(MB)

ロードバランサ連携設定

ログレベル

保持するログファイルの世代数

ログローテーション方式

ログファイルの最大サイズ(KB)

ログローテーションを最初に行う時刻

ログローテーションのインターバル(時間)

計測リトライ回数

異常判定しきい値

メモリ、スレッドの計測インターバル(秒)

リソース計測: Full GC の計測インターバル(秒) リソース計測: Full GC の計測インターバル(秒)

WebLogic 監視: 計測リトライ回数 計測リトライ回数

WebLogic 監視: 異常判定しきい値 異常判定しきい値

WebLogic 監視: リクエスト数の計測インターバル(秒)

リクエスト数の計測インターバル(秒)

WebLogic 監視: 平均値の計測インターバル(秒)

平均値の計測インターバル(秒)

管理ポート番号

管理ポート番号

接続のリトライ回数

接続のリトライ回数

再接続までの待ち時間(秒)

再接続までの待ち時間(秒)

ロードバランサ連携の管理ポート番号

ロードバランサ連携の管理ポート番号

ヘルスチェック機能と連携する

ヘルスチェック機能と連携する

HTML 格納ディレクトリ

HTML 格納ディレクトリ

HTML ファイル名

HTML ファイル名

HTML リネーム先ファイル名

HTML リネーム先ファイル名

リネーム失敗時のリトライ回数

リネーム失敗時のリトライ回数

リネームのリトライまでの待ち時間(秒)

リネームのリトライまでの待ち時間(秒)

mgmt IP アドレス

BIG-IP LTM の管理 IP アドレス

通信ポート番号

BIG-IP LTM との通信ポート番号

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートIF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
ミラーエージェントポート番号				29004			

ミラーエージェントポート番号

未使用

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートIF	リカバリ	省電力	JVM 監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
自動ミラー復帰				する			
ミラー統計情報を採取する				する			
受信タイムアウト (秒)				10			
送信タイムアウト (秒)				120			
復帰データサイズ (キロバイト)				4096			
復帰リトライ回数				0			
起動同期待ち時間 (秒)				10			
クラスタパーティション I/O タイムアウト (秒)				30			

自動ミラー復帰

未使用

ミラー統計情報を採取する

未使用

受信タイムアウト (秒)

未使用

送信タイムアウト (秒)

未使用

復帰データサイズ (キロバイト)

未使用

復帰リトライ回数

未使用

起動同期待ち時間 (秒)


未使用

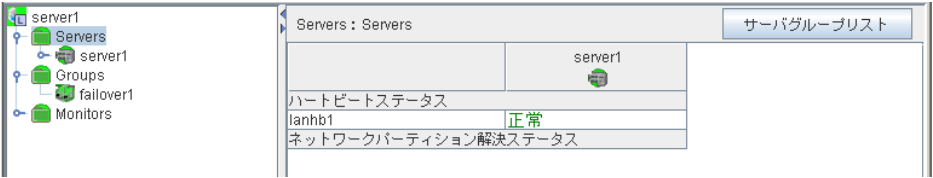
クラスタパーティション I/O タイムアウト (秒) 未使用

ミラーエージェント	ミラードライバ	排他	ハートビートI/F	リカバリ	省電力	JVM監視	
情報	タイムアウト	ポート番号	ポート番号(ログ)	ポート番号(ミラー)	監視	遅延警告	アラートサービス
プロパティ				設定値			
リクエストキューの最大数				2048			
Bitmap更新インターバル(秒)				100			


リクエストキューの最大数	未使用
Bitmap 更新インターバル (秒)	未使用

WebManager のリストビューでサーバ状態の概要を確認するには

ツリービューでサーバ全体のオブジェクトを選択すると、右側のリストビューの上段に [サーバ名] が表示されます。下段にはハートビートステータス、ネットワークパーティション解決ステータス一覧が表示されます。



WebManager のリストビューでサーバ状態の詳細を確認するには

1. WebManager を起動します。
2. ツリービューで特定サーバのオブジェクトを選択すると、サーバの[コメント]、[仮想化基盤]、[製品]、[内部バージョン]、[プラットフォーム]、[ステータス]が表示されます。



コメント	サーバのコメント
仮想化基盤	仮想化基盤名
製品	製品名
内部バージョン	内部のバージョン (RPM のバージョンと同値)
プラットフォーム	プラットフォーム
ステータス	サーバのステータス

さらに[詳細情報] をクリックすると以下の内容がポップアップダイアログに表示されます。

プロパティ	設定値
名前	server1
エディション	SSS
ミラーディスクコネク ト IP アドレス	
ネットワーク警告灯 IP アドレス (種類)	
ディスク I/O 閉塞デバイス	
BMC IP アドレス	
CPU クロック状態	-
両系活性検出時のシャットダウンを抑制する	しない


名前	サーバ名
エディション	エディション
ミラーディスクコネク ト IP アドレス	未使用
ネットワーク警告灯 IP アドレス (種類)	未使用
ディスク I/O 閉塞デバイス	未使用
BMC IP アドレス	未使用

CPU クロック状態

CPU クロック制御の現在の設定状態

両系活性検出時のシャットダウンを抑制する 未使用
















WebManager のリストビューでモニタ全体の状態を確認するには

1. WebManager を起動します。
2. ツリービューでモニタ全体のオブジェクト  を選択すると、リストビューに [モニタ名] とサーバ上のステータス一覧が表示されます。

WebManager でアラートを確認する

WebManager の下部分で、アラートを確認することができます。

アラートビューの各フィールドは、以下のような構成になっています。




種類	受信時刻	発生時刻 ▼	サーバ名	モジュール名	イベントID	メッセージ
	2012/03/23 00:46:03.288	2012/03/23 00:46:03.274	server1	pm	35	Received a request to suspend the cluster da...
	2012/03/23 00:46:03.072	2012/03/23 00:46:03.049	server1	rc	90	All the servers in the cluster were shut down.
	2012/03/23 00:46:03.077	2012/03/23 00:46:03.040	server1	apisv	4	There was a request to suspend cluster from...
	2012/03/23 00:42:36.791	2012/03/23 00:42:36.386	server1	rm	9	Detected an error in monitoring miw1. (13 : M...
	2012/03/23 00:42:03.113	2012/03/23 00:42:03.102	server1	rc	11	Activating group failover1 has completed.
	2012/03/23 00:42:03.046	2012/03/23 00:42:03.025	server1	rc	10	Activating group failover1 has started.
	2012/03/23 00:42:02.270	2012/03/23 00:42:02.248	server1	rm	1	Monitoring miw1 has started.
	2012/03/23 00:42:02.246	2012/03/23 00:42:02.203	server1	rm	1	Monitoring userw has started.
	2012/03/23 00:42:02.202	2012/03/23 00:42:02.188	server1	rm	50	The number of licenses is 1. (XSS31)
	2012/03/23 00:42:00.405	2012/03/23 00:42:00.391	server1	nm	6	All servers have started.
	2012/03/23 00:42:00.169	2012/03/23 00:42:00.163	server1	nm	1	Server server1 has started.
	2012/03/23 00:42:00.162	2012/03/23 00:42:00.149	server1	nm	3	Resource lanhb1 of server server1 has started.
	2012/03/23 00:41:29.340	2012/03/23 00:41:29.319	server1	nm	5	Waiting for all servers to start.
	2012/03/23 00:41:28.596	2012/03/23 00:41:28.575	server1	pm	1	Starting the cluster daemon...
	2012/03/23 00:41:28.449	2012/03/23 00:41:28.427	server1	cl	1	There was a request to start cluster from the

なお、各アラートメッセージの意味については、本書の「第 4 章 エラーメッセージ一覧」を参照してください。また、アラートメッセージの検索については、本章の「WebManager でアラートの検索を行うには」を参照してください。

アラートビューの各フィールドについて

WebManager のアラートビューの各フィールドの意味は以下のとおりです。

(1) アラート種別アイコン

アラート種別	意味
	情報メッセージであることを示しています。
	警告メッセージであることを示しています。
	異常メッセージであることを示しています。

(2) アラート受信時刻

アラートを受信した時刻です。WebManager 接続先のサーバの時刻が適用されます。

(3) アラート発信時刻

サーバからアラートが発信された時刻です。アラート発信元サーバの時刻が適用されます。

(4) アラート発信元サーバ

アラートを発信したサーバのサーバ名です。

(5) アラート発信元モジュール

アラートを発信したモジュールのモジュール名です。

(6) イベント ID

各アラートに設定されているイベント ID 番号です。

(7) アラートメッセージ

アラートメッセージ本体です。

アラートビューの操作

アラートビューの各フィールド名を示すバー

	受信時刻 ▲	発生時刻	サーバ名	モジュール名	イベントID	メッセージ
--	--------	------	------	--------	--------	-------

の各項目を選択しアラートを並び替えることが可能です。

各フィールドを選択することにより ▲ か ▼ のマークが表示されます。

マーク	意味
▲	アラートをそのフィールドに関しての昇順に並び替えます。
▼	アラートをそのフィールドに関しての降順に並び替えます。

既定の状態では [発生時刻] について降順に並んでいます。

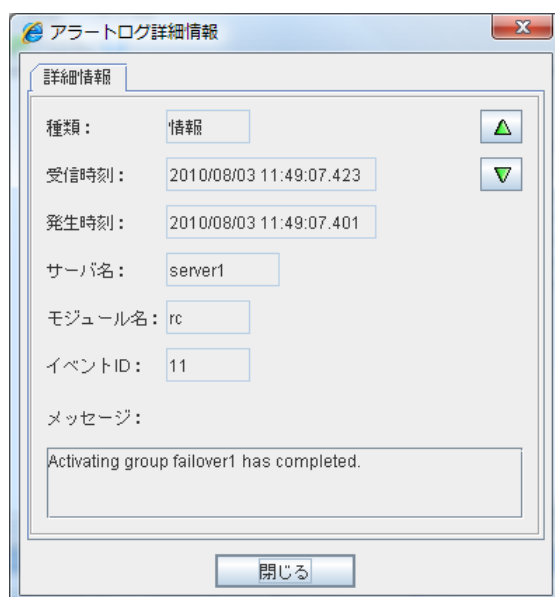
フィールド名の部分を左右にドラッグすることで、項目の表示順を変更することもできます。

また、このバーを右クリックすると、以下のポップアップ画面が表示され、表示する項目を選択することができます。既定の状態ではすべての項目が選択されています。

種類	受信時刻 ▼	発生時刻	サーバ名
	2008/09/16 12:03:48.593	:48.562	server2
	2008/09/16 12:03:48.578	:48.546	server2
	2008/09/16 12:03:48.562	:48.531	server2
	2008/09/16 12:03:48.046	:47.984	server2
	2008/09/16 12:03:47.328	:47.015	server2
	2008/09/16 11:58:21.968	:21.953	server1
	2008/09/16 11:56:58.125	:58.093	server1
	2008/09/16 11:56:58.109	:58.093	server1
	2008/09/16 11:56:55.406	:55.375	server1
	2008/09/16 11:56:55.390	2008/09/16 11:56:55.375	server1

- ☒ 種類
- ☒ 受信時刻
- ☒ 発生時刻
- ☒ サーバ名
- ☒ モジュール名
- ☒ イベントID
- ☒ メッセージ

表示されているアラートをダブルクリックすると、以下の画面が表示され、アラートの詳細を確認することができます。



また、アラートを右クリックすると、以下のポップアップ画面が表示され、表示するアラートのタイプを選択できます。既定の状態ではすべての項目が選択されています。



WebManager を手動で停止/開始する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストール後、サーバ側の WebManager は OS の起動/停止と合わせて起動/停止するようになっています。

手動で停止/開始する場合、サーバ側のコンソールから以下のコマンドを実行してください。

停止する場合

```
[root@server1 root]# /etc/init.d/clusterpro_alertsync stop
Shutting down clusterpro webalert: OK
[root@server1 root]# /etc/init.d/clusterpro_webmgr stop
Shutting down clusterpro webmanager server: OK
```

開始する場合

```
[root@server1 root]# /etc/init.d/clusterpro_webmgr start
Starting clusterpro webmanager server: OK
[root@server1 root]# /etc/init.d/clusterpro_alertsync start
Starting clusterpro webalert: OK
```

実際に入力するコマンドは太字の部分です。

WebManager を利用したくない場合

セキュリティの観点から WebManager を利用したくない場合、OS の設定または Builder の設定で WebManager が起動しないように設定してください。

OS の設定の場合は、chkconfig コマンドを使用して WebManager 関連デーモンの起動/停止を制御できます。

WebManager を起動しないようにする場合

```
[root@server1 root]# chkconfig --del clusterpro_alertsync
[root@server1 root]# chkconfig --del clusterpro_webmgr
```

WebManager を起動するようにする場合

```
[root@server1 root]# chkconfig --add clusterpro_webmgr
[root@server1 root]# chkconfig --add clusterpro_alertsync
```

実際に入力するコマンドは太字の部分です。

Builderの[クラスタのプロパティ]の[WebManager]タブでWebManagerの使用を設定できます。設定については、『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』の「第 7 章 その他の設定の詳細」の「WebManager タブ」を参照してください。

WebManager の接続制限、操作制限を設定する

WebManager の接続制限、操作制限は Builder の [クラスタのプロパティ] で設定できます。設定については、『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』の「第 7 章 その他の設定の詳細」の「WebManager タブ」を参照してください。

使用制限の種類

使用制限の方法は以下の 2 つがあります。

- ◆ クライアント IP アドレスによる接続制限
- ◆ パスワードによる制限

クライアント IP アドレスによる接続制限

WebManager に接続できるクライアントの WebManager での操作を、クライアント IP アドレスにより制限する機能です。

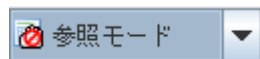
Builder で [クラスタのプロパティ] の [WebManager] タブをクリックし、[接続を許可するクライアント IP アドレス一覧] に IP アドレスを追加してください。

WebManager の接続制限の設定において、[接続を許可するクライアント IP アドレス一覧] に追加されていない IP アドレスから WebManager に接続しようとする以下のエラーメッセージが表示されます。

Internet Explorer の場合



操作制限するように登録されたクライアントから接続した WebManager には、以下のように「参照モード」が表示されます。



操作制限を行うと WebManager 上から以下の操作ができなくなります。

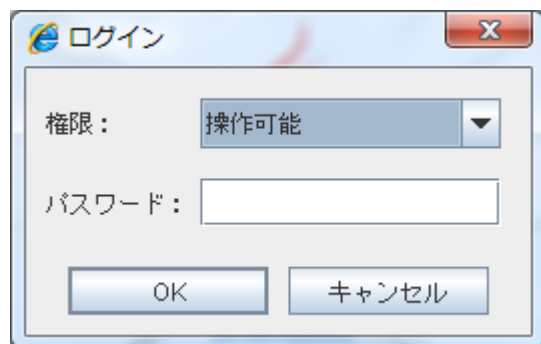
- ◆ サーバのシャットダウン、シャットダウンリブート
- ◆ 各グループの起動、停止
- ◆ 操作モードへの変更
- ◆ 設定モードへの変更
- ◆ 検証モードへの変更

パスワードによる制限

パスワードにより WebManager での参照や操作を制限する機能です。

Builder で [クラスタのプロパティ] の [WebManager] タブをクリックし、[パスワードによって接続を制御する] の設定を行ってください。

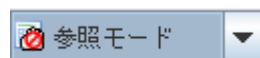
WebManager のパスワード制限の設定において、パスワードを設定して WebManager に接続しようとするすると以下の認証ダイアログ ボックスが表示されます。



[権限] で [操作可能] および [参照専用] を選択し正しいパスワードを入力すると、WebManager にログインできます。

- ◆ パスワード制限を設定していない場合は、認証ダイアログ ボックスは表示されません (認証なしにログインできます)
- ◆ パスワードを 3 回間違えると、WebManager にログインできません

参照専用の権限でログインした場合には、以下のように「参照モード」が表示されます。



操作制限を行うと WebManager 上から以下の操作ができなくなります。

- ◆ サーバのシャットダウン、シャットダウンリブート
- ◆ 各グループの起動、停止

ログイン、ログインした後の権限切替えに関しては、56 ページの「WebManager の権限切替え」も合わせて参照してください。

使用制限の組み合わせ

IP アドレスによる制限機能とパスワードによる制限機能を併用した場合の操作制限は以下のようになります。

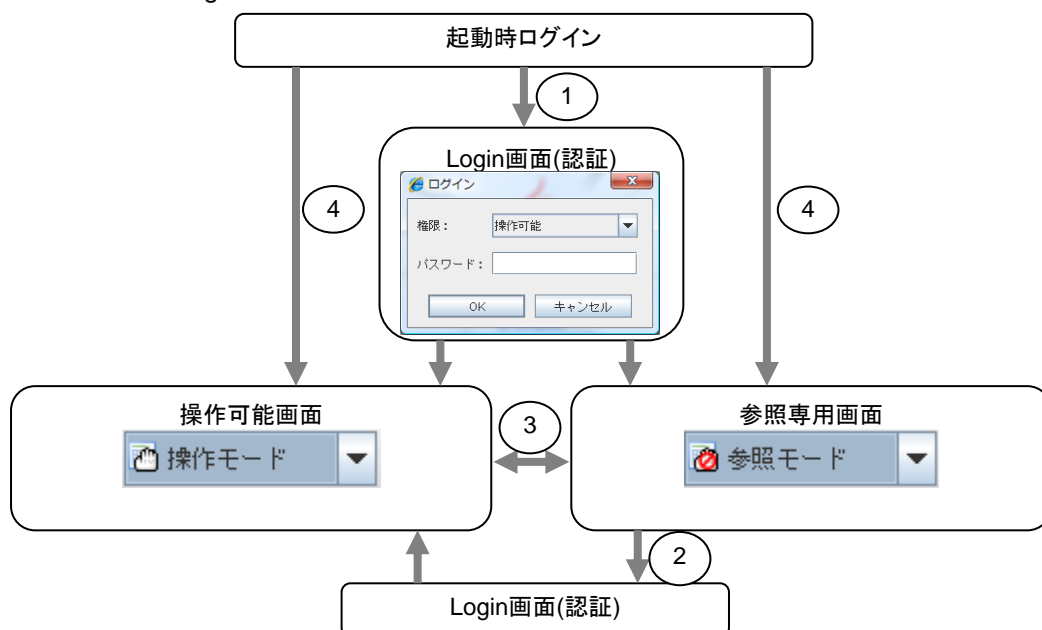
	パスワード制限		
クライアント IP アドレス制限	操作可能	参照専用	操作/参照不可 (認証失敗)
操作可能	操作可能	参照専用	使用不可
参照専用	参照専用*	参照専用	使用不可
接続不可	接続不可	接続不可	接続不可

* 権限の選択で選べません。

注: Builder（オンライン版）を使用した構成情報の変更は、WebManager が操作可能の場合のみ可能です。

WebManager の権限切替え

WebManager に接続する場合と、権限を切り替える場合は以下のフロー図になります。



1. WebManager へのログイン

操作可能か参照専用のパスワードを設定している場合、ログイン認証ダイアログ ボックスが表示されます。[操作可能] および [参照専用] の権限を選び正しいパスワードを入力すると WebManager にログインできます。

2. 参照専用画面から操作可能画面への権限切替え

パスワード認証ダイアログ ボックスが表示されます。正しいパスワードを入力するとログインできます。パスワード制限を設定していない場合は、空のパスワードのままログインします。

3. 操作可能画面から参照専用画面への権限切替え

認証なしに権限を切り替えられます。パスワード制限の設定をしている場合でも、認証なしに権限を切り替えられます。

4. 操作可能と参照専用のパスワードを両方設定しない場合のログイン

クライアント IP 制限に従ってログインします。クライアント IP 制限を設定していない場合は、権限が操作可能の WebManager にログインします。また、この場合は参照専用への権限の切り替えができません。

セクション II コマンドリファレンス

このセクションでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。
CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通のコマンドを使用しています。

- 第 2 章 CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス

第 2 章

CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

• コマンドラインから操作する	60
• コマンド一覧.....	60
• 状態を表示する (clpstat コマンド)	62
• CLUSTERPROデーモンを操作する (clpcl コマンド)	64
• サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)	68
• グループを操作する (clpgrp コマンド)	69
• ログを収集する (clplogcc コマンド).....	73
• 構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド).....	81
• タイムアウトを一時調整する(clptoratio コマンド)	92
• ログレベル/サイズを変更する(clplogcf コマンド)	95
• ライセンスを管理する(clplcnsc コマンド).....	102
• メッセージを出力する (clplogcmd コマンド).....	106
• 監視リソースを制御する (clpmonctrl コマンド).....	109
• グループリソースを制御する (clprscコマンド).....	117
• CPUクロックを制御する (clpcpufreq コマンド)	121
• クラスタサーバに処理を要求する(clprexec コマンド).....	125
• BMC情報を変更する(clpbmccnf コマンド)	129
• 再起動回数を制御する(clpregctrl コマンド)	131
• リソース使用量を予測する (clpprerコマンド).....	134

コマンドラインから操作する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe では、コマンドプロンプトから操作するための多様なコマンドが用意されています。構築時や WebManager が使用できない状況の場合などに便利です。コマンドラインでは、WebManager で行える以上の種類の操作を行うことができます。

注： モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース(アプリケーションリソース、...)を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中(再活性化 → 最終動作)には、以下のコマンドまたは、WebManager からのサービスおよびグループへの制御は行わないでください。

- ◆ サービスの停止/サスペンド
- ◆ グループの開始/停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

重要： インストールディレクトリ配下に本マニュアルに記載していない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO 以外からの実行はしないでください。実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

コマンド一覧

構築関連		
コマンド	説明	ページ
clpcfctrl	Builderで作成した構成情報をサーバに配信します。 Builderで使用するために構成情報をバックアップします。	81
clplcncs	本製品の製品版・試用版ライセンスの登録、参照を行います。	102
状態表示関連		
コマンド	説明	ページ
clpstat	CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態や、設定情報を表示します。	62
操作関連		
コマンド	説明	ページ
clpcl	デーモンの起動、停止、サスペンド、リブームなどを実行します。	64
clpstdn	CLUSTERPROデーモンを停止し、サーバをシャットダウンします。	68

clpgrp	グループの起動、停止を実行します。	69
clptoratio	各種タイムアウト値の延長、表示を行います。	92
clpmonctrl	単一サーバ上での監視リソースの一時停止/再開を行います。	109
clpregctrl	単一サーバ上で再起動回数の表示/初期化を行います。	131
clprsc	グループリソースの一時停止/再開を行います。	117
clpcpufreq	CPUクロックの制御を行います。	121
clptrnreq	サーバへ処理実行を要求します。	123
clprexec	外部監視からCLUSTERPROサーバへ処理実行を要求します。	125
clpbmccnf	BMCユーザ名・パスワード情報を変更します。	129

ログ関連

コマンド	説明	ページ
clplogcc	ログ、OS情報等を収集します。	73
clplogcf	ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。	95

スクリプト関連

コマンド	説明	ページ
clplogcmd	EXECリソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。	106

システムモニタ関連 (System Resorce Agent を使用している場合のみ)

コマンド	説明	ページ
clpprer	与えられたリソース使用量データの傾向から将来値を予測します。	134

重要: インストールディレクトリ配下に本マニュアルに記載していない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からの実行はしないでください。実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

状態を表示する (clpstat コマンド)

clpstat CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態と、設定情報を表示します。

コマンドライン

```
clpstat -s [--long]
clpstat -g
clpstat -m
clpstat -i [--detail]
clpstat --cl [--detail]
clpstat --sv [--detail]
clpstat --grp [group_name] [--detail]
clpstat --rsc [resource_name] [--detail]
clpstat --mon [monitor_name] [--detail]
```

説明 サーバの状態や、設定情報を表示します。

オプション	<p>-s 状態を表示します。</p> <p>オプションなし</p> <p>--long クラスタ名やリソース名などの名前を最後まで表示します。</p> <p>-g グループマップを表示します。</p> <p>-m 各モニタリソースの状態を表示します。</p> <p>-i 設定情報を表示します。</p> <p>--cl 設定情報を表示します。</p> <p>--sv サーバの設定情報を表示します。</p> <p>--grp [group_name] グループの設定情報を表示します。グループ名を指定することによって、指定したグループ情報のみを表示できます。</p> <p>--rsc [resource_name] グループリソースの設定情報を表示します。グループリソース名を指定することによって、指定したグループリソース情報のみを表示できます。</p> <p>--mon [monitor_name] モニタリソースの設定情報を表示します。モニタリソース名を指定することによって、指定したモニタリソース情報のみを表示できます。</p> <p>--detail このオプションを使用することによって、より詳細な設定情報を表示できます。</p>
--------------	---

戻り値	<p>0 成功</p> <p>0 以外 異常</p>
------------	--

- 注意事項** 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。
- 本コマンドを実行するサーバはCLUSTERPROデーモンが起動している必要があります。
- 本コマンドの出力結果で使用する言語は [クラスタ詳細] の[クラスタ情報] タブを参照してください。
- オプションを指定しない場合と-sオプションを指定する場合は、サーバ名やリソース名などの名前が途中までしか出力されません。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Invalid server status.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Invalid heartbeat resource name. Specify a valid heartbeat resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいハートビートリソース名を指定してください。
Invalid network partition resource name. Specify a valid network partition resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいネットワークパーティション解決リソース名を指定してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループリソース名を指定してください。
Invalid monitor resource name. Specify a valid monitor resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいモニタリソース名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster daemon is stopped in the cluster.	クラスタ内にCLUSTERPROデーモンが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set a longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

Invalid server group name. Specify a valid server group name in the cluster.

クラスタ内の正しいサーバグループ名を指定してください。

CLUSTERPRO デーモンを操作する (clpcl コマンド)

clpcl CLUSTERPROデーモンを操作します。

コマンドライン

```
clpcl -s
clpcl -t [-w timeout]
clpcl -r [-w timeout]
clpcl --suspend [--force] [-w timeout]
clpcl --resume
```

説明 CLUSTERPROデーモンの起動、停止、サスペンド、リジュームなどを実行します。

オプション	-s	CLUSTERPROデーモンを起動します。
	-t	CLUSTERPROデーモンを停止します。
	-r	CLUSTERPROデーモンを再起動します。
	--suspend	CLUSTERPROデーモンをサスペンドします。
	--resume	CLUSTERPROデーモンをリジュームします。
	-w <i>timeout</i>	-t, -r, --suspendオプションの場合にのみclpclコマンドがCLUSTERPROデーモンの停止またはサスペンドの完了を待ち合わせる時間を指定します。 単位は秒です。 timeoutの指定がない場合、無限に待ち合わせします。 timeoutに"0"を指定した場合、待ち合わせしません。 -wオプションを指定しない場合、 (ハートビートタイムアウト×2)秒待ち合わせします。
	--force	--suspendオプションと一緒に用いることで、サーバの状態に関わらず強制的にサスペンドを実行します。
戻り値	0	成功
	0 以外	異常

備考 本コマンドを `-s` または `--resume` オプションで実行した場合、対象のサーバで処理が開始したタイミングで制御を戻します。
`-t` または `--suspend` オプションで実行した場合、処理の完了を待ち合わせてから制御を戻します。
`-r` オプションで実行した場合、対象のサーバでCLUSTERPROデーモンが一度停止し、起動を開始したタイミングで制御を戻します。
 CLUSTERPROデーモンの起動またはリジュームの状況は`clpstat`コマンドで確認してください。

注意事項 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。
 サスペンドを実行する場合は、CLUSTERPROデーモンが起動した状態で実行してください。`--force`オプションを用いると、強制的にサスペンドを実行します。
 リジュームを実行する場合は、`clpstat`コマンドを用いてCLUSTERPROデーモンが起動していないかを確認してください。

実行例 **例1:**サーバのCLUSTERPROデーモンを起動させる場合
 `# clpcl -s`

◆ サスペンド・リジュームについて

構成情報の更新、CLUSTERPRO のアップデートなどを行いたい場合に、業務を継続したまま、CLUSTERPRO デーモンを停止させることができます。この状態を**サスペンド**といいます。サスペンド状態から通常の業務状態に戻ることを**リジューム**といいます。

サスペンド・リジュームはサーバに対して処理を要求します。サスペンドは、サーバのCLUSTERPRO デーモンが起動した状態で実行してください。

サスペンド状態では、活性していたリソースはそのまま活性した状態で CLUSTERPRO デーモンが停止するため以下の機能が停止します。

- 全てのモニタリソースが停止します。
- グループまたはグループリソースの操作ができなくなります。(起動、停止)
- WebManager および `clpstat` コマンドでの表示または操作ができなくなります。
- 以下のコマンドが使用不可となります。
 - `clpstat`
 - `clpcl` の `--resume` 以外のオプション
 - `clpstdn`
 - `clpgrp`
 - `clptoratio`
 - `clpmonctrl`

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Performed stop processing to the stopped cluster daemon.	停止している CLUSTERPRO デーモンに対して停止処理を実行しました。
Performed startup processing to the active cluster daemon.	起動している CLUSTERPRO デーモンに対して起動処理を実行しました。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Could not connect to the data transfer server. Check if the server has started up.	サーバが起動しているか確認してください。
Failed to obtain the list of nodes. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Failed to obtain the daemon name.	クラスタ名の取得に失敗しました。
Failed to operate the daemon.	クラスタの制御に失敗しました。
Resumed the daemon that is not suspended.	サスペンド状態ではない CLUSTERPRO デーモンに対して、リジューム処理を実行しました。
Invalid server status.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Server is not active. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
There is one or more servers of which cluster daemon is active. If you want to perform resume, check if there is any server whose cluster daemon is active in the cluster.	リジュームを実行する場合、クラスタ内に CLUSTERPRO デーモンが起動しているサーバがないか確認してください。
All servers must be activated. When suspending the server, the cluster daemon need to be active on all servers in the cluster.	サスペンドを実行する場合、クラスタ内の全てのサーバで、CLUSTERPRO デーモンが起動している必要があります。
Resume the server because there is one or more suspended servers in the cluster.	クラスタ内にサスペンドしているサーバがあるので、リジュームを実行してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster daemon is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO デーモンが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。

Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してみてください。
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	全サーバ指定で停止処理を実行した場合、処理に失敗したサーバが存在します。 処理に失敗したサーバの状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
There is a server that is not suspended in cluster. Check the status of each server.	クラスタ内にサスペンド状態でないサーバが存在します。 各サーバの状態を確認してください。
Suspend %s : Could not suspend in time.	サーバはタイムアウト時間内に CLUSTERPRO デーモンのサスペンド処理が完了しませんでした。サーバの状態を確認してください。
Stop %s : Could not stop in time.	サーバはタイムアウト時間内に CLUSTERPRO デーモンの停止処理が完了しませんでした。サーバの状態を確認してください。
Stop %s : Server was suspended. Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active..	CLUSTERPRO デーモンの停止要求をしましたが、サーバはサスペンド状態でした。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンの停止要求をしましたが、サーバに接続できませんでした。サーバの状態を確認してください。
Suspend %s : Server already suspended. Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンのサスペンド要求をしましたが、サーバはサスペンド状態でした。
Event service is not started.	イベントサービスが起動していません。確認してください。
Mirror Agent is not started.	ミラーエージェントが起動していません。確認してください。
Event service and Mirror Agent are not started.	イベントサービスとミラーエージェントが起動していません。確認してください。
Some invalid status. Check the status of cluster.	遷移中のグループが存在する可能性があります。グループの遷移が終了してから、再度実行してください。

サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)

clpstdn サーバをシャットダウンします。

コマンドライン

clpstdn [-r]

説明 サーバのCLUSTERPRO デーモンを停止し、シャットダウンします。

オプション オプションなし サーバシャットダウンを実行します。
-r サーバシャットダウンリブートを実行します。

戻り値 0 成功
0 以外 異常

備考 本コマンドは、グループ停止処理が完了したタイミングで制御を戻します。

注意事項 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

実行例 **例1:サーバシャットダウンを行う場合**
 # clpstdn
例2:サーバシャットダウンリブートを行う場合
 # clpstdn -r

グループを操作する (clpgrp コマンド)

clpgrp グループを操作します。

コマンドライン

clpgrp -s [*group_name*]

clpgrp -t [*group_name*]

説明 グループの起動、停止を実行します。

オプション	-s [<i>group_name</i>]	グループを起動します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ起動します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが起動されます。
	-t [<i>group_name</i>]	グループを停止します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ停止します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが停止されます。

戻り値	0	成功
	0 以外	異常

注意事項 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドを実行するサーバはCLUSTERPROデーモンが起動している必要があります。

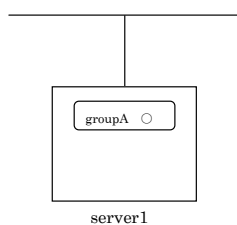
実行例

グループ操作の実行を、簡単な例で説明します。

サーバで、「groupA」を持っている場合

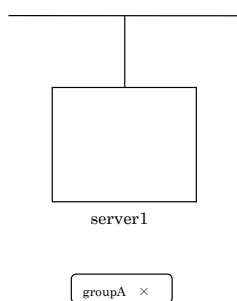
- サーバで以下のコマンドを実行すると、groupA が起動します。

```
# clpgrp -s groupA
```



- サーバで以下のコマンドを実行すると、groupA が停止します。

```
# clpgrp -t groupA
```



エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Invalid server status.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster daemon is stopped in the cluster.	クラスタ内にCLUSTERPROデーモンが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set a longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
Invalid server. Specify a server that can run and stop the group, or a server that can be a target when you move the group.	グループを起動、停止、移動する先のサーバが不正です。 正しいサーバを指定してください。
Could not start the group. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち時間がタイムアウトするのを待って、グループを起動させてください。
No operable group exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループが存在するか確認してください。
The group has already been started on the local server.	WebManager や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。
The group has already been started on the other server. To start/stop the group on the local server, use -f option.	WebManager や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。 他サーバで起動しているグループを自サーバで起動/停止させたい場合は、グループの移動を実行するか、-f オプションを加えて実行してください。
The group has already been started on the other server. To move the group, use "-h <hostname>" option.	WebManager や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。 他サーバで起動しているグループを移動したい場合は、"-h <hostname>" オプションを加えて実行してください。

The group has already been stopped.	WebManager や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。
Failed to start one or more group resources. Check the status of group	WebManager や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。
Failed to stop one or more group resources. Check the status of group	WebManager や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。
The group is busy. Try again later.	グループが起動処理中、もしくは停止処理中なので、しばらく待ってから実行してください。
An error occurred on one or more groups. Check the status of group	WebManager や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を指定してください。
Server is not in a condition to start group or any critical monitor error is detected.	WebManager や、clpstat コマンドでサーバの状態を確認してください。 グループを起動しようとしたサーバで除外モニタに含まれるモニタの異常が検出されています。
There is no appropriate destination for the group. Other servers are not in a condition to start group or any critical monitor error is detected.	WebManager や、clpstat コマンドでサーバの状態を確認してください。 他の全てのサーバで除外モニタに含まれるモニタの異常が検出されています。
The group has been started on the other server. To migrate the group, use “-h <hostname>” option.	WebManager や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。 他サーバで起動しているグループを移動したい場合は、“-h <hostname>” オプションを加えて実行してください。
The specified group cannot be migrated.	指定されたグループはマイグレーションできません。
The specified group is not vm group.	指定されたグループは仮想マシングループではありません。
Migration resource does not exist.	WebManager や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。 マイグレーション対象のリソースが存在しません。
Migration resource is not started.	WebManager や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。 マイグレーション対象のリソースが起動していません。
Some invalid status. Check the status of cluster.	何らかの不正な状態です。クラスタの状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

ログを収集する (clplogcc コマンド)

clplogcc ログを収集します。

コマンドライン

```
clplogcc [-t collect_type] [-r syslog_rotate_number] [-o path]
```

説明 データ転送サーバに接続し、ログ、OS情報等を収集します。

オプション	なし	ログを収集します。
	-t <i>collect_type</i>	ログ収集パターンを指定します。省略した場合のログ収集パターンは type1 です。
	-r <i>syslog_rotate_number</i>	syslog の収集する世代数を指定します。省略した場合は、2世代収集します。
	-o <i>path</i>	収集ファイルの出力先を指定します。省略した場合は、インストールパスの tmp 配下にログが出力されます。

戻り値	0	成功
	0 以外	異常

備考 ログファイルは tar.gz で圧縮されているので、tarコマンドに、xzf オプションを付けて解凍してください。

注意事項 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。
データ転送サービスが起動されていることを確認してください。

実行例 **例1:**サーバからログを収集する場合

```
# clplogcc
Collect Log server1 : Success
```

ログ収集を実行したサーバの実行結果(サーバ状態)が表示されます。

処理過程 サーバ名 : 実行結果(サーバ状態)

実行結果 本コマンドの結果で表示される処理過程は以下になります。

処理過程	説明
Connect	接続に失敗した場合に表示します。
Get Filesize	ファイルサイズ取得に失敗した場合に表示します。
Collect Log	ファイル取得の結果を表示します。

実行結果(サーバ状態)については以下になります。

実行結果(サーバ状態)	説明
Success	成功です。
Timeout	タイムアウトしました。
Busy	サーバがビジー状態です。
Not Exist File	ファイルが存在しません。
No Freespace	ディスクに空き容量がありません。
Failed	その他のエラーによる失敗です。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builderで正しい構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Specify a number in a valid range.	正しい範囲で数字を指定してください。
Specify a correct number.	正しい数字で指定してください。
Specify correct generation number of syslog.	正しいsyslogの世代数を指定してください。
Collect type must be specified 'type1' or 'type2' or 'type3' or 'type4'. Incorrect collection type is specified.	収集タイプの指定が間違っています。
Specify an absolute path as the destination of the files to be collected.	収集ファイルの出力先は絶対パスで指定してください。
Specifiable number of servers are the max number of servers that can constitute a cluster.	指定可能なサーバ数は、構成可能な最大サーバ数です。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPROデーモンが起動しているか確認してください。
Invalid server status.	CLUSTERPROデーモンが起動しているか確認してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

タイプを指定したログの収集 (-t オプション)

指定したタイプのログのみを収集したい場合は、clplogcc コマンドで -t オプションを指定して実行します。

ログの収集タイプは type1 ~ 4 までを指定します。

	type1	type2	type3	type4
(1) デフォルト収集情報	○	○	○	○
(2) syslog	○	○	○	×
(3) core	○	○	×	○
(4) OS情報	○	○	○	○
(5) script	○	○	×	×
(6) ESM/PRO/AC	○	○	×	×
(7) HA ログ	×	○	×	×

コマンドラインからは以下のように実行します。

実行例: 収集タイプ type2 でログ収集を行う場合。

```
# clplogcc -t type2
```

オプションを指定しない場合のログ収集タイプは type1 です。

(1) デフォルト収集情報

- CLUSTERPRO サーバの各モジュールログ
- アラートログ
- CLUSTERPRO サーバの各モジュールの属性情報(ls -l)
 - bin、lib 配下
 - alert/bin、webmgr/bin 配下
 - drivers/md 配下
 - drivers/khb 配下
 - drivers/ka 配下
- インストール済の全パッケージ情報(rpm -qa の実行結果)
- CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョン情報(rpm -qi clusterpro の実行結果)
- distribution 情報(/etc/*-release)
- CPU ライセンスおよびノードライセンス
- 構成情報ファイル
- ポリシファイル
- CLUSTERPRO X SingleServerSafe が使用している共有メモリのダンプ
- プロセス、スレッド情報(ps の実行結果)
- PCI デバイス情報(lspci の実行結果)
- サービス起動設定情報(chkconfig --list の実行結果、ls -l の実行結果)
- kernel パラメータの出力結果(sysctl -a の実行結果)
- glibc バージョン(rpm -qi glibc の実行結果)
- カーネルローダブルモジュール設定情報(/etc/modules.conf、/etc/modprobe.conf)
- カーネルのリングバッファ情報(dmesg の実行結果)
- ファイルシステム情報(/etc/fstab)
- IPC リソース情報(ipcs の実行結果)

- システム情報(uname -a の実行結果)
- ネットワーク統計情報(netstat の実行結果 IPv4/IPv6)
- 全ネットワークインターフェイス情報(ethtool の実行結果)
- 緊急 OS シャットダウン時の採取情報
- libxml2 バージョン(rpm -qi libxml2 の実行結果)
- 静的ホストテーブル(/etc/hosts)
- ファイルシステムのエクスポートテーブル(exports -v の実行結果)
- ユーザリソース制限情報(ulimit -a の実行結果)
- カーネルベースの NFS でエクスポートされるファイルシステム(/etc/exports)
- OS のロケール(locale)
- ターミナルセッションの環境変数(export の実行結果)
- 言語ロケール(/etc/sysconfig/i18n)
- タイムゾーン(env - date の実行結果)
- CLUSTERPRO サーバのワーク領域情報
- 各監視オプション製品に関する情報
監視オプション製品をインストールされていれば収集されます
- モニタリソースのタイムアウト発生時に採取したダンプ情報
- Oracle モニタリソース異常検出時に採取した Oracle 詳細情報

(2) syslog

- syslog (/var/log/messages)
- 指定された世代数の syslog (/var/log/messages.x)

(3) core ファイル

- CLUSTERPRO モジュールの core ファイル
/opt/nec/clusterpro/log 配下に以下のアーカイブ名で格納されます。
- アラート関連
alt`yyyymmdd_x`.tar
- WebManager 関連
wm`yyyymmdd_x`.tar
- CLUSTERPRO コア関連
cls`yyyymmdd_x`.tar
sra`yyyymmdd_x`.tar
jra`yyyymmdd_x`.tar
- `yyyymmdd` はログの収集日付、`x` はシーケンシャル番号になります。

(4) OS 情報

- カーネルモード LAN ハートビート、キープアライブ情報
 - /proc/khb_moninfo
 - /proc/ka_moninfo
- /proc/devices
- /proc/mdstat
- /proc/modules
- /proc/mounts
- /proc/meminfo
- /proc/cpuinfo
- /proc/partitions
- /proc/pci
- /proc/version
- /proc/ksyms
- /proc/net/bond*
- /proc/scsi/ ディレクトリ内の全ファイル
- /proc/ide/ ディレクトリ内の全ファイル
- /etc/fstab

- /etc/syslog.conf
- /etc/syslog-ng/syslog-ng.conf
- /proc/sys/kernel/core_pattern
- /proc/sys/kernel/core_uses_pid
- カーネルのリングバッファ情報(dmesg の実行結果)
- ifconfig (ifconfig の実行結果)
- iptables (iptables -L の実行結果)
- ipchains (ipchains -L の実行結果)
- df (df の実行結果)
- raw デバイス情報 (raw -qa の実行結果)
- カーネルモジュールロード情報 (lsmod の実行結果)
- ホスト名、ドメイン名情報 (hostname、domainname の実行結果)
- dmidecode (dmidecode の実行結果)
- LVM デバイス情報 (vgdisplay -v の実行結果)

ログ収集を実行した場合、コンソールに以下のメッセージが表示されることがありますが、異常ではありません。ログは正常に収集されています。

```
hd#: bad special flag: 0x03
ip_tables: (C) 2000-2002 Netfilter core team
```

(hd#にはサーバ上に存在する IDE のデバイス名が入ります)

(5) スクリプト

Builder で作成されたグループ起動/停止スクリプト

上記以外のユーザ定義スクリプト(/opt/nec/clusterpro/scripts 以外)を指定した場合は、ログ収集の採取情報に含まれないため、別途採取する必要があります。

(6) ESMPRO/AC 関連ログ

acupslog コマンドの実行により収集されるファイル

(7) HA ログ

- システムリソース情報
- JVM モニタログ
- システムモニタログ

syslogの世代 (-r オプション)

syslog を、指定した世代分収集するには以下のように実行します。

例) 世代数 3 でログ収集を行う場合

```
# clplogcc -r 3
```

収集したログには以下の syslog が含まれています。

```
/var/log/messages
/var/log/messages.1
/var/log/messages.2
```

- ◆ オプションを指定しない場合は、2 世代収集されます。
- ◆ 指定できる世代数は、0～99 です。
- ◆ 0 を指定した場合は、全ての syslog を収集します。

世代数	取得する世代
0	全世代
1	カレント
2	カレント + 世代1
3	カレント + 世代1～2
⋮	
x	カレント + 世代1～(x-1)

ログファイルの出力先 (-o オプション)

- ◆ ファイル名は、「サーバ名-log.tar.gz」で保存されます。
- ◆ ログファイルは tar.gz で圧縮されているので、tar コマンドに、xzf オプションを付けて解凍してください。

-o オプションを指定しない場合

インストールパスの tmp 配下にログが出力されます。

```
# clplogcc
Collect Log サーバ名: Success
# ls /opt/nec/clusterpro/tmp
サーバ名-log.tar.gz
```

-o オプションを指定する場合

以下のようにコマンドを実行すると、指定したディレクトリ /home/log 配下にログが出力されます。

```
# clplogcc -o /home/log
Collect Log サーバ名: Success
```

```
# ls /home/log  
サーバ名-log.tar.gz
```

異常発生時の情報採取

以下の異常発生時に、障害解析のための情報を採取します。

- ◆ 構成するサーバデーモンが、シグナルの割り込みによる終了(core dump)、内部ステータス異常による終了などで異常終了した場合
- ◆ グループリソースの活性異常、非活性異常が発生した場合
- ◆ モニタリソースの監視異常が発生した場合

採取する情報は以下です。

- ◆ 情報
 - CLUSTERPRO サーバの一部のモジュールログ
 - CLUSTERPRO X SingleServerSafe が使用している共有メモリのダンプ
 - 構成情報ファイル
 - CLUSTERPRO モジュールの core ファイル
- ◆ OS 情報(/proc/*)
 - /proc/devices
 - /proc/partitions
 - /proc/mdstat
 - /proc/modules
 - /proc/mounts
 - /proc/meminfo
 - /proc/net/bond*
- ◆ コマンド実行による情報
 - sysctl -a の結果
 - ps の結果
 - top の結果
 - ipcs の結果
 - netstat -i の結果
 - ifconfig の結果
 - df の結果
 - raw -qa の結果

この情報はログ収集のデフォルト収集情報として採取されるため、別途採取する必要はありません。

構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)

構成情報を反映する(clpcfctrl --push)

clpcfctrl --push 構成情報をサーバに反映します。

コマンドライン

```
clpcfctrl --push [-l|-w] [-p portnumber]
                  [-d device] [-m mountpoint]
                  [-x directory] [--nocheck]
```

説明 Builderで作成した構成情報をサーバに反映します。

オプション	--push	反映時に指定します。 省略できません。
	-l	Linux上でBuilderを使用して保存したFDを使用する場合に指定します。ただし、Linux上でBuilderを使用してWindows用として保存したFDを使用する場合には-wを指定します。 -wと同時に指定できません。 -l と -w のどちらも指定しない場合は現在の構成情報を反映します。
	-w	Windows上でBuilderを使用して保存したFDを使用する場合に指定します。また、Linux上でBuilderを使用してWindows用として保存したFDを使用する場合に指定します。 -lと同時に指定することはできません。 -l と -w のどちらも指定しない場合は現在の構成情報を反映します。
	-p <i>portnumber</i>	データ転送ポートのポート番号を指定します。 省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。
	-d <i>device</i>	FDのデバイスファイルを指定します。 /dev/fd0と異なる場合に指定します。省略時は /dev/fd0を使用します。

	<p>-m mountpoint FDのマウントポイントを指定します。 -wと共に使用します。 省略時は/mnt/floppyを使用します。</p> <p>-x directory FDが使用できない環境でのみ使用します。 指定したディレクトリにある構成情報を反映する場合に指定します。 -lまたは-wと共に使用します。 -lを指定した場合は、Linux上でBuilderを使用してファイルシステム上に保存した構成情報を使用します。 -wを指定した場合は、Windows上でBuilderを使用して保存した構成情報を使用します。</p> <p>--nocheck 構成情報のチェックを実行しません。サーバ削除時のみ使用します。通常は使用しないでください。</p>
戻り値	<p>0 成功</p> <p>0以外 異常</p>
備考	<p>環境によっては/mnt/floppyが存在しません。存在しない場合は、/mnt/floppyを作成するか、-mオプションでマウントポイントを指定してください。</p> <p>supermountサービスが動作中であり、/mnt/floppyを使用するように設定されている場合には、/mnt/floppyを使用できません。supermountサービスを停止するか、-mオプションで別のマウントポイントを指定してください。</p>
注意事項	<p>本コマンドはroot権限をもつユーザで実行してください。</p>
実行例	<p>例1: Linux上でBuilderを使用して保存したFDからサーバ生成する場合</p> <pre># clpcfctrl --push -l file delivery to server 127.0.0.1 success. The upload is completed successfully.(cfmgr:0) Command succeeded.(code:0)</pre> <p>例2: Windows上でBuilderを使用して保存したFDから指定サーバに構成情報を配信する場合</p> <pre># clpcfctrl --push -w -h 10.0.0.11 The upload is completed successfully.(cfmgr:0) Command succeeded.(code:0)</pre> <p>例3: Linux上でBuilderを使用してファイルシステム上に保存した構成情報を配信する場合</p>

```
# clpcfctrl --push -l -x /mnt/config  
file delivery to server 127.0.0.1 success.  
The upload is completed successfully.(cfmgr:0)  
Command succeeded.(code:0)
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	rootユーザで実行してください。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if --push or --pull option is specified.	--pushを指定しているか確認してください。
The target directory does not exist.	指定されたディレクトリは存在しません。
Invalid host name. Server specified by -h option is not included in the configuration data.	-hで指定したサーバが構成情報に含まれていません。指定したサーバ名またはIPアドレスが正しいか確認してください。
Canceled.	コマンドの問い合わせに"y"以外を入力した場合に表示されます。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to load the all.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to get a create flag. This floppy disk does not contain valid data created by the Builder.	Builderで作成したFDではありません。
Failed to get a restart flag. This floppy disk does not contain valid data created by the Builder.	Builderで作成したFDではありません。
Failed to get the install path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to get the cfctrl path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Invalid create flag value. This floppy disk does not contain valid data created by the Builder.	Builderで作成したFDではありません。
Invalid restart flag value. This floppy disk does not contain valid data created by the Builder.	Builderで作成したFDではありません。
Failed to get the list of group.	グループ一覧の取得に失敗しました。
Failed to get the list of resource.	リソース一覧の取得に失敗しました。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

メッセージ	原因/対処法
Failed to connect to server %1. Check if the other server is active and then run the command again.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to connect to trnsv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
File delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Multi file delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
The directory "/work" is not found. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
The directory does not exist.	
This is not a directory.	
The source file does not exist.	
The source file is a directory.	
The source directory does not exist.	
The source file is not a directory.	
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	
Command error.	
Failed to mount the floppy disk. Check if it is inserted. When using the Builder on Linux, check if the disk is saved for Windows. Also, check if mount point exists. When supermount service is running, stop the service or use -m option.	FDのマウントに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。また、Linux上でBuilderを使用している場合はWindows用として保存したか確認してください。 マウントポイントが存在するか確認してください。 supermount サービスが動作中の場合は、supermountサービスを停止するか、-mオプションを使用してください。
Failed to unmount the floppy disk. Check if it is inserted.	FDのアンマウントに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。
Command (tar -xf) failed. Check if the floppy disk is inserted. When using the Builder on Linux, check if the disk is saved for Linux.	FDからの読み込みに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。また、Linux上でBuilderを使用している場合はLinux用として保存したか確認してください。

メッセージ	原因/対処法
Floppy device was already mounted. Umount the floppy disk, and then perform operations.	フロッピーデバイスはすでにマウントされています。FDのアンマウント後に再度実行してください。
Failed to mount the floppy disk. Check if mount point exists.	FDのマウントに失敗しました。マウントポイントが存在するか確認してください。
Failed to initialize the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to get size from the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the directory.	
Failed to run the command.	
Failed to make a directory.	
Failed to remove the directory.	
Failed to remove the file.	
Failed to open the file.	
Failed to read the file.	
Failed to write the file.	
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
The upload is completed successfully. To start the cluster, refer to "How to create a cluster" in the Installation and Configuration Guide.	アップロードは成功しました。CLUSTERPRO デーモンを開始するには「インストールガイド サーバを生成する」を参照して操作してください。
The upload is completed successfully. To apply the changes you made, shutdown and reboot the cluster.	アップロードは成功しました。変更を反映するためにサーバシャットダウン、再起動を実行してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the cluster.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためにはサーバを停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the Mirror Agent.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためにはMirrorAgentを停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the resources to which you made changes.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためには変更を加えたリソースを停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the groups to which you made changes.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためにはサーバをサスペンドする必要があります。アップロードするためには変更を加えたグループを停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, suspend the cluster.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためにはサーバをサスペンドしてください。
The upload is completed successfully. To apply the changes you made, restart the Alert Sync. To apply the changes you made, restart the WebManager.	アップロードは成功しました。構成情報を反映させるためにAlertSyncサービスを再起動してください。構成情報を反映させるためにWebManagerサービスを再起動してください。

メッセージ	原因/対処法
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
The upload is completed successfully.	アップロードは成功しました。
The upload was stopped. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	アップロードは停止しました。構成情報の配信に失敗しました。他のサーバの起動状態を確認し、コマンドを再実行してください。
The upload was stopped. There is one or more servers that cannot be connected to. To apply cluster configuration information forcibly, run the command again with "--force" option.	アップロードは停止しました。接続できないサーバが存在します。構成情報を強制的にアップロードするためには--forceオプションを指定してコマンドを再実行してください。

構成情報をバックアップする (clpcfctrl --pull)

clpcfctrl --pull 構成情報をバックアップします。

コマンドライン

```
clpcfctrl --pull [-l|w] [-p portnumber]
                  [-d device] [-m mountpoint]
                  [-x directory]
```

説明 Builderで使用するために構成情報をバックアップします。

オプション	--pull	バックアップ時に指定します。 省略できません。
	-l	Linux上のBuilderで使用するFDにバックアップする場合に指定します。 -wと同時に指定することはできません。 -lと-wの両方を省略することはできません。
	-w	Windows上のBuilderで使用するFDにバックアップする場合に指定します。FDは1.44MB (VFAT) でフォーマットされている必要があります。 -lと同時に指定することはできません。 -lと-wの両方を省略することはできません。
	-p <i>portnumber</i>	データ転送ポートのポート番号を指定します。 省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。
	-d <i>device</i>	FDのデバイスファイルを指定します。 /dev/fd0と異なる場合に指定します。省略時は/dev/fd0を使用します。
	-m <i>mountpoint</i>	FDのマウントポイントを指定します。 -wと共に使用します。省略時は/mnt/floppyを使用します。
	-x <i>directory</i>	FDが使用できない環境でのみ使用します。 指定したディレクトリに構成情報をバックアップします。 -lまたは-wと共に使用します。 -lを指定した場合は、Linux上のBuilderで読み込むことができる構成情報としてバックアップします。 -wを指定した場合は、Windows上のBuilderで読み込むことができる構成情報として保存します。

戻り値 0 成功

0以外 異常

備考	<p>環境によっては/mnt/floppyが存在しません。存在しない場合は、/mnt/floppyを作成するか、-mオプションでマウントポイントを指定してください。</p> <p>supermountサービスが動作中であり、/mnt/floppyを使用するように設定されている場合には、/mnt/floppyを使用することができません。supermountサービスを停止するか、-mオプションで別のマウントポイントを指定してください。</p>
注意事項	<p>本コマンドはroot権限を持つユーザで実行してください。</p>
実行例	<p>例1: Linux上のBuilderで使用するFDにバックアップする場合</p> <pre># clpcfctrl --pull -l Command succeeded.(code:0)</pre> <p>例2: Windows上のBuilderで使用するFDに構成情報をバックアップする場合</p> <pre># clpcfctrl --pull -w Command succeeded.(code:0)</pre> <p>例3: Linux上のBuilderで読み込むための構成情報を指定ディレクトリにバックアップする場合</p> <pre># clpcfctrl --pull -l -x /mnt/config Command succeeded.(code:0)</pre>

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	rootユーザで実行してください。
This command is already run.	すでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if --push or --pull option is specified.	--pullを指定しているか確認してください。
The target directory does not exist.	指定されたディレクトリは存在しません。
Canceled.	コマンドの問い合わせに"y"以外を入力した場合に表示されます。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to load the all.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to get the install path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to get the cfctrl path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to connect to server %1. Check if the other server is active and then run the command again.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to connect to trnsv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
Failed to get configuration data. Check if the other server is active.	構成情報の取得に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
The directory "/work" is not found. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
The directory does not exist.	
This is not a directory.	
The source file does not exist.	
The source file is a directory.	
The source directory does not exist.	
The source file is not a directory.	

メッセージ	原因/対処法
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	
Command error.	
Failed to mount the floppy disk. Check if it is inserted. When using the Builder on Linux, check if the disk is saved for Windows. Also, check if mount point exists. When supermount service is running, stop the service or use -m option.	FDのマウントに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。また、Linux上でBuilderを使用している場合はWindows用として保存したか確認してください。 マウントポイントが存在するか確認してください。 supermount サービスが動作中の場合は、supermountサービスを停止するか、-mオプションを使用してください。
Failed to unmount the floppy disk. Check if it is inserted.	FDのアンマウントに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。
Command (tar -cf) failed. Check if the floppy disk is inserted.	FDへのバックアップに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。
Floppy device was already mounted. Umount the floppy disk, and then perform operations.	FDはすでにマウントされています。FDのアンマウント後に再度実行してください。
Failed to mount the floppy disk. Check if mount point exists.	FDのマウントに失敗しました。マウントポイントが存在するか確認してください。
Failed to initialize the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to get size from the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the directory.	
Failed to run the command.	
Failed to make a directory.	
Failed to remove the directory.	
Failed to remove the file.	
Failed to open the file.	
Failed to read the file.	
Failed to write the file.	
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

タイムアウトを一時調整する(clptoratio コマンド)

clptoratio

現在のタイムアウト倍率の延長、表示を行います。

コマンドライン

```
clptoratio -r ratio -t time
clptoratio -i
clptoratio -s
```

説明

以下の各種タイムアウト値を一時的に延長します。

- モニタリソース
- ハートビートリソース
- アラート同期サービス
- WebManager

現在のタイムアウト倍率を表示します。

オプション

-r ratio	タイムアウト倍率を指定します。1 以上の整数値で設定してください。最大タイムアウト倍率は10000倍です。
-t time	「1」を指定した場合、-i オプションと同様に、変更したタイムアウト倍率を元に戻すことができます。 延長期間を指定します。 分m、時間h、日d が指定できます。最大延長期間は30日です。 例) 2m、3h、4d
-i	変更したタイムアウト倍率を元に戻します。
-s	現在のタイムアウト倍率を参照します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

サーバシャットダウンを実行すると、設定したタイムアウト倍率は無効になります。サーバがシャットダウンされていなければ、設定したタイムアウト倍率、延長期間は保たれます。

-s オプションで参照できるのは、現在のタイムアウト倍率のみです。延長期間の残り時間などは参照できません。

状態表示コマンドを用いて、元のタイムアウト値を参照できます。

ハートビートタイムアウト

```
# clpstat --cl --detail
```

モニタリソースタイムアウト

```
# clpstat --mon モニタリソース名 --detail
```

注意事項	<p>本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。</p> <p>サーバのCLUSTERPROデーモンが起動した状態で実行してください。</p> <p>タイムアウト倍率を設定する場合、延長期間の指定は必ず行ってください。しかし、タイムアウト倍率指定に「1」を指定した場合は、延長期間を指定することはできません。</p> <p>延長期間指定に、「2m3h」などの組み合わせはできません。</p>
実行例	<p>例1:タイムアウト倍率を3日間2倍にする場合</p> <pre># clptoratio -r 2 -t 3d</pre> <p>例2:タイムアウト倍率を元に戻す場合</p> <pre># clptoratio -i</pre> <p>例3:現在のタイムアウト倍率を参照する場合</p> <pre># clptoratio -s</pre> <p>present toratio : 2</p> <p>現在のタイムアウト倍率は 2 で設定されていることが分かります。</p>

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Specify a number in a valid range.	正しい範囲で数字を指定してください。
Specify a correct number.	正しい数字で指定してください。
Scale factor must be specified by integer value of 1 or more.	倍率は 1 以上の整数値で指定してください。
Specify scale factor in a range less than the maximum scale factor.	最大倍率を超えない範囲で倍率を指定してください。
Set the correct extension period.	正しい延長期間の設定をしてください。
Ex) 2m, 3h, 4d	最大延長期間を超えない範囲で延長期間を設定してください。
Set the extension period in a range less than the maximum extension period.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster daemon is active.	クラスタ内に CLUSTERPRO デーモンが停止しているサーバがないか確認してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster daemon is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO デーモンが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してみてください。
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	処理に失敗したサーバが存在します。 クラスタ内のサーバの状態を確認してください。クラスタ内の全てのサーバが起動した状態で実行してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

ログレベル/サイズを変更する(clplogcf コマンド)

clplogcf ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。

コマンドライン

`clplogcf -t type -l level -s size`

説明 ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定を変更します。
現在の設定値を表示します。

オプション	-t type	設定を変更するモジュールタイプを指定します。 -l と -s のいずれも省略した場合は、指定したモジュールタイプに設定されている情報を表示します。指定可能なタイプは「-t オプションに指定可能なタイプ」の表を参照してください。
	-l level	ログレベルを指定します。 指定可能なログレベルは以下のいずれかです。 1、2、4、8、16、32 数値が大きいほど詳細なログが出力されます。 各モジュールタイプの初期値は「ログレベル、ログファイルサイズの既定値」の表を参照してください。
	-s size	ログを出力するファイルのサイズを指定します。 単位は byte です。
	なし	現在設定されている全情報を表示します。

戻り値	0	成功
	0 以外	異常

備考 CLUSTERPRO X SingleServerSafe が出力するログは、各タイプで 4 つのログファイルを使用します。このため-s で指定したサイズの 4 倍のディスク容量が必要です。

注意事項 本コマンドは root 権限をもつユーザで実行してください。

本コマンドの実行には CLUSTERPRO イベントサービスが動作している必要があります。

サーバを再起動すると設定は元に戻ります。

実行例 例 1:pm のログレベルを変更する場合

```
# clplogcf -t pm -l 8
```

例 2:pm のログレベル、ログファイルサイズを参照する場合

```
# clplogcf -t pm
TYPE, LEVEL, SIZE
pm, 8, 1000000
```

例 3:現在の設定値を表示する場合

```
# clplogcf
TYPE, LEVEL, SIZE
trnsv, 4, 1000000
xml, 4, 1000000
logcf, 4, 1000000
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	rootユーザで実行してください。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
Failed to change the configuration. Check if clpevent is running.	clpeventが起動されていない可能性があります。
Invalid level	指定したレベルが不正です。
Invalid size	指定したサイズが不正です。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	生成されていないサーバです。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to print the configuration. Check if clpevent is running.	clpeventが起動されていない可能性があります。

-t オプションに指定可能なタイプ

タイプ	モジュール	説明	本体
apicl	libclpapi.so.1.0	APIクライアントライブラリ	○
apisv	libclpapisv.so.1.0	APIサーバ	○
bmcconf	clpbmccnf	BMC情報更新コマンド	○
cl	clpcl	サーバ起動、停止コマンド	○
cfctrl	clpcfctrl	サーバ生成、サーバ情報バックアップコマンド	○
cfmgr	libclpcfmgr.so.1.0	構成情報操作ライブラリ	○
cpufreq	clpcpufreq	CPUクロック制御コマンド	○
grp	clpgrp	グループ起動、停止、コマンド	○
rsc	clprsc	グループリソース起動、停止コマンド	○
haltp	clpuserw	シャットダウンストール監視	○

lcns	libclplcns.so.1.0	ライセンスライブラリ	○
lcnsc	clplcnsc	ライセンス登録コマンド	○
logcc	clplogcc	ログ収集コマンド	○
logcf	clplogcf	ログレベル、サイズ変更コマンド	○
logcmd	clplogcmd	アラート出力コマンド	○
mail	clpmail	Mail通報	○
mgmtmib	libclpmgmtmib.so.1.0	SNMP 連携ライブラリ	○
monctrl	clpmonctrl	監視制御コマンド	○
nm	clpnm	ノードマップ管理	○
pm	clppm	プロセス管理	○
rc/rc_ex	clprc	グループ、グループリソース管理	○
reg	libclpreg.so.1.0	再起動回数制御ライブラリ	○
regctrl	clpregctrl	再起動回数制御コマンド	○
rm	clprm	モニタ管理	○
roset	clproset	ディスク制御	○
relpath	clprelpath	プロセス強制終了コマンド	○
scrpc	clpscrpc	スクリプトログローテート実行コマンド	○
stat	clpstat	ステータス表示コマンド	○
stdn	clpstdn	サーバシャットダウンコマンド	○
toratio	clptoratio	タイムアウト倍率変更コマンド	○
trap	clptrap	SNMP トラップ送信コマンド	○
trncl	libclptrncl.so.1.0	トランザクションライブラリ	○
rexec	clprexec	外部監視連動処理要求コマンド	○
trnsv	clptrnsv	トランザクションサーバ	○
volmgrc	clpvolmgrc	VxVMディスクグループ import/deportコマンド	○
alert	clpaltinsert	アラート	○
webmgr	clpwebmc	WebManager	○
webalert	clpaltd	アラート同期	○
exec	clpexec	EXECリソース	○
vm	clpvm	仮想マシンリソース	○
diskw	clpdiskw	ディスクモニタリソース	○
ipw	clpipw	IPモニタリソース	○
miiw	clpmiiw	NIC Link Up/Downモニタリソース	○
mtw	clpmtw	マルチターゲットモニタリソース	○
pidw	clppidw	PIDモニタリソース	○
volmgrw	clpvolmgrw	ボリュームマネージャモニタリソース	○
userw	clpuserw	ユーザ空間モニタリソース	○

vmw	clpvmw	仮想マシンモニタリソース	○
mrw	clpmrw	メッセージ受信モニタリソース	○
snmpmgr	libclp snmpmgr	SNMP トラップ受信ライブラリ	○
lanhb	clplanhb	LANハートビート	○
oraclew	clp_oraclew	Oracleモニタリソース	○
oracleasw	clp_oracleasw	OracleASモニタリソース	○
db2w	clp_db2w	DB2モニタリソース	○
psqlw	clp_psqlw	PostgreSQLモニタリソース	○
mysqlw	clp_mysqlw	MySQLモニタリソース	○
sybasew	clp_sybasew	Sybaseモニタ	○
sambaw	clp_sambaw	Sambaモニタリソース	○
nfs	clp_nfs	NFSモニタリソース	○
httpw	clp_httpw	HTTPモニタリソース	○
ftpw	clp_ftpw	FTPモニタリソース	○
smtpw	clp_smtpw	SMTPモニタリソース	○
pop3w	clp_pop3w	POP3モニタリソース	○
imap4w	clp_imap4w	IMAP4モニタリソース	○
tuxw	clp_tuxw	Tuxedoモニタリソース	○
wls	clp_wls	WebLogicモニタリソース	○
was	clp_was	WebSphereモニタリソース	○
otx	clp_otx	WebOTXモニタリソース	○
jraw	clp_jraw	JVM モニタリソース	○
sraw	clp_sraw	システムモニタリソース	○
psw	clppsw	プロセス名モニタリソース	○
vmctrl	libclpvmctrl.so.1.0	VMCTRL ライブラリ	○
vmwcmd	clpvmwcmd	VMW コマンド	○

ログレベル・ログファイルサイズの既定値

タイプ	レベル	サイズ(バイト)
apicl	4	5000000
apisv	4	5000000
bmccnf	4	1000000
cfmgr	4	1000000
cl	4	1000000
cfctrl	4	1000000
cpufreq	4	1000000
down	4	1000000
grp	4	1000000
rsc	4	1000000
haltp	4	1000000
lcns	4	1000000
lcnsc	4	1000000
ledctrl	4	1000000
logcc	4	1000000
logcf	4	1000000
logcmd	4	1000000
mail	4	1000000
mgtmib	4	1000000
mm	4	2000000
monctrl	4	1000000
nm	4	2000000
pm	4	1000000
rc	4	5000000
rc_ex	4	5000000
rd	4	1000000
rdl	4	1000000
reg	4	1000000
regctrl	4	1000000
rm	4	5000000
roset	4	1000000
relpath	4	1000000
scrpc	4	1000000
stat	4	1000000
stdn	4	1000000
toratio	4	1000000
trap	4	1000000

trncl	4	2000000
trnreq	4	1000000
rexec	4	1000000
trnsv	4	2000000
volmgrc	4	1000000
alert	4	4000000
webmgr	4	1000000
webalert	4	1000000
exec	4	1000000
fipw	4	1000000
vm	4	1000000
bwctrl	4	1000000
arpw	4	1000000
db2w	4	1000000
diskw	4	1000000
ftpw	4	1000000
httpw	4	1000000
imap4w	4	1000000
ipw	4	1000000
miiw	4	1000000
mtw	4	1000000
mysqlw	4	1000000
nfs	4	1000000
oraclew	4	1000000
oracleasw	4	1000000
otxw	4	1000000
pidw	4	1000000
pop3w	4	1000000
psqlw	4	1000000
volmgrw	4	1000000
sambaw	4	1000000
smtpw	4	1000000
sybasew	4	1000000
tuxw	4	1000000
userw	4	1000000
vipw	4	1000000
vmw	4	1000000
ddnsw	4	1000000
mrw	4	1000000
genw	4	1000000

wasw	4	1000000
wls	4	1000000
jraw	4	1000000
sraw	4	1000000
psw	4	1000000
bmccmd	4	1000000
snmpmgr	4	1000000
lanhb	4	1000000
vmctrl	4	10000000
vmwcmd	4	1000000
clpka ※1	-	0
clpkhb ※1	-	0

※ サイズが 0 のモジュールはログを出力しません。

※1 ログは syslog に出力されます。

ライセンスを管理する(clplcncsc コマンド)

clplcncsc ライセンスの管理を行います。

コマンドライン:

```
clplcncsc -i [licensefile] -p productid
clplcncsc -l -p productid
clplcncsc -d -p productid
clplcncsc -d -p productid -t
clplcncsc -v
```

説明 本製品の製品版・試用版ライセンスの登録、参照、削除を行います。

オプション	-i [licensefile]	ライセンスを登録します。 ライセンスファイルを指定すると、そのファイルよりライセンス情報を取得し、登録します。指定しなければ、対話形式によりライセンス情報を入力し登録します。
	-l	ライセンスを参照します。
	-d	ライセンスを削除します。
	-t	指定した製品IDの使用版ライセンスのみを削除します。 -d オプションと一緒に指定してください。
	-v	登録されている全てのライセンス一覧を表示します。
	-p productid	ライセンス製品の製品IDを指定します。

製品

製品ID	ライセンス製品名
XSS31	CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.1 for Linux
XSS31	CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.1 for Linux VM
DBAG31	CLUSTERPRO X Database Agent 3.1 for Linux
ISAG31	CLUSTERPRO X Internet Server Agent 3.1 for Linux
FSAG31	CLUSTERPRO X File Server Agent 3.1 for Linux
ASAG31	CLUSTERPRO X Application Server Agent 3.1 for Linux
ALRT31	CLUSTERPRO X Alert Service 3.1 for Linux
JRAG31	CLUSTERPRO X Java Resource Agent 3.1 for Linux
SRAG31	CLUSTERPRO X System Resource Agent 3.1 for Linux

戻り値	0	正常終了
	1	正常終了(ライセンス非同期状態) ※ ライセンス登録時、サーバ内でライセンスの同期が失敗したことを意味します。 この状態での対処方法は、『インストールガイド』の「付録 ライセンス関連のトラブルシューティング」を参照してください。
	2	初期化エラー
	4	オプション不正
	7	その他内部エラー

実行例 登録 対話形式

```
# clplcncsc -i -p XSSS31
```

製品版

製品区分選択

Selection of License Version

1. Product Version

2. Trial Version

Select License Version. [1 or 2] ...

ライセンス数入力

Enter number of license [0(Virtual OS) or 1 to 99 (default:2)] ...

シリアルNo入力

Enter serial number [Ex. XXX0000000] ...

ライセンスキー入力

Enter license key

[Ex. XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX] ...

試用版

製品区分選択

Selection of License Version

1. Product Version

2. Trial Version

Select License Version. [1 or 2] ...

ユーザ名入力

Enter user name [1 to 64byte] ...

試用開始日入力

Enter trial start date [Ex. yyyy/mm/dd] ...

試用終了日入力

Enter trial end date [Ex. yyyy/mm/dd] ...

ライセンスキー入力

Enter license key

[Ex. XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX] ...

ライセンスファイル指定

```
# clplcncsc -i /tmp/cpulcns.key -p XSS31
```

参照 # clplcncsc -l -p XSS30

製品版

```
< Cluster CPU License CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.1  
for Linux <PRODUCT> >
```

```
Seq... 1
```

```
Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
```

```
The number of license... 2
```

```
Status... valid
```

試用版

```
< Cluster CPU License CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.1 for  
Linux <TRIAL> >
```

```
Seq... 1
```

```
Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
```

```
User name... NEC
```

```
Start date..... 2003/01/01
```

```
End date..... 2003/12/31
```

```
Status..... valid
```

注意事項

本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

ライセンス登録時はライセンス同期を行うため、データ転送サーバの起動、サーバ生成が行われていることを確認してください。

ライセンス同期する際、サーバへの接続は以下の順で行い接続が成功した経路を使用します。

1. インタコネクトLAN側のIPアドレス
2. パブリックLANのIPアドレス
3. 構成情報のサーバ名で名前解決したIPアドレス

削除指定した製品IDのライセンス情報が複数ある場合は、その製品IDのライセンス情報は全て削除されます。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Command failed.	コマンドは失敗しました。
Command succeeded. But the license was not applied to all the servers in the cluster because there are one or more servers that are not started up.	ダウンしているサーバが存在します。サーバ生成手順を実行してください。サーバ生成手順については、『インストール & 設定ガイド』の「第 3 章 CLUSTERPRO をインストールする」を参照してください。
Log in as root.	コマンドの実行権がありません。root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check it by using the Builder.	構成情報が不正です。Builderで構成情報を確認してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
The command is already run.	コマンドは、既に実行されています。ps コマンドなどで実行状態を確認してください。
The license is not registered.	ライセンスが未登録状態です。ライセンスを登録してください。
Could not opened the license file. Check if the license file exists on the specified path.	ライセンスファイルへの I/O ができません。ライセンスファイルが指定されたパスに存在するか確認してください。
Could not read the license file. Check if the license file exists on the specified path.	
The field format of the license file is invalid. The license file may be corrupted. Check the destination from where the file is sent.	ライセンスファイルのフィールド形式が不正です。ライセンスファイルが壊れている可能性があります。ファイルの送付元に確認してください。
The cluster configuration data may be invalid or not registered.	構成情報が不正または、未登録状態が考えられます。確認してください。
Failed to terminate the library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to register the license. Check if the optional product ID and entered license information is correct.	オプションの製品IDまたは、入力したライセンス情報が正しいか確認してください。
Failed to open the license. Check if the optional product ID and entered license information is correct.	
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)

clplogcmd 指定した文字列をsyslog,alertに登録する、またはmail通報するコマンドです。

コマンドライン

```
clplogcmd -m message [--syslog] [--alert] [--mail] [-i eventID] [-l level]
```

注: 通常、サーバの構築や運用ではこのコマンドの実行は不要です。EXEC リソースのスクリプトに記述して使用するコマンドです。

説明 EXECリソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。

オプション	-m <i>message</i>	出力する文字列を <i>message</i> に指定します。省略できません。 <i>message</i> の最大サイズは511バイトです。(出力先にsyslogを指定した場合は485バイトです。) 最大サイズ以降の文字列は表示されません。
	--syslog	文字列には英語、数字、記号 ¹ が使用可能です。 syslog、alert、mail、trapの中から出力先を指定します (複数指定可能です。)
	--alert	このパラメータは省略可能です。省略時には
	--mail	syslogとalertが出力先になります。
	--trap	
	-i <i>eventID</i>	イベントIDを指定します。イベントIDの最大値は10000です。 このパラメータは省略可能です。省略時にはeventIDに1が設定されます。
	-l <i>level</i>	出力するアラートのレベルです。 ERR、WARN、INFOのいずれかを指定します。 このレベルによってWebManagerでのアラートビューのアイコンを指定します。 このパラメータは省略可能です。省略時にはlevelにINFOが設定されます。 詳細は「第1章 WebManagerの機能 WebManagerでアラートを確認する」を参照してください。

戻り値 0 成功
 0 以外 異常

注意事項 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。
 出力先にmailを指定する場合、mailコマンドでmail送信ができる設定を行ってください。

実行例

例 1: メッセージのみ指定する場合 (出力先 syslog,alert)


EXEC リソースのスクリプトに下記を記述した場合、syslog、alert に文字列を出力します。

```
clplogcmd -m test1
```

syslog には、下記のログが出力されます。

```
Sep 1 14:00:00 server1 clusterpro: <type: logcmd><event: 1> test1
```

WebManager のアラートビューには、下記の alert が出力されます。

	Receive Time	Time ▼	Server Name	Module Name	Event ID	Message
	2004/09/01 14:00:00	2004/09/01 14:00:00	server1	logcmd	1	test1

例 2: メッセージ、出力先、イベント ID、レベルを指定する場合 (出力先 mail)

EXEC リソースのスクリプトに下記を記述した場合、Builder のクラスタプロパティで設定したメールアドレスに文字列が送信されます。

```
clplogcmd -m test2 --mail -i 100 -l ERR
```

mail の送信先には、下記の内容のメールが送信されます。

```
Message:test2
Type: logcmd
ID: 100
Host: server1
Date: 2004/09/01 14:00:00
```

例 3: メッセージ、出力先、イベント ID、レベルを指定する場合 (出力先 trap)

EXEC リソースのスクリプトに下記を記述した場合、Builder のクラスタプロパティで設定した SNMP トラップ送信先に文字列が送信されます。

```
clplogcmd -m test3 --trap -i 200 -l ERR
```

SNMP トラップの送信先には、下記の内容の SNMP トラップが送信されます。

```
Trap OID: clusterEventError
添付データ 1: clusterEventMessage = test3
添付データ 2: clusterEventID = 200
添付データ 3: clusterEventDateTime = 2011/08/01 09:00:00
添付データ 4: clusterEventServerName = server1
添付データ 5: clusterEventModuleName = logcmd
```

- ¹ 文字列に記号を含む場合の注意点は以下のとおりです。

""で囲む必要がある記号

& ' () ~ | ; : * < > , .
(例 “#”をメッセージに指定すると、#が出力されます。)

¥ を前につける必要がある記号

¥ ! " & ' () ~ | ; : * < > , .
(例 ¥¥をメッセージに指定すると、¥が出力されます。)

""で囲む必要がありかつ¥を前につける必要がある記号

`
(例 “¥”をメッセージに指定すると、`が出力されます。)

- ◆ 文字列にスペースを含む場合、""で囲む必要があります。
- ◆ 文字列に % は使用できません。

監視リソースを制御する (clpmonctrl コマンド)

clpmonctrl 監視リソースの制御を行います。

コマンドライン:

```
clpmonctrl -s[-m resource_name ...] [-w wait_time]
clpmonctrl -r[-m resource_name ...] [-w wait_time]
clpmonctrl -c[-m resource_name ...]
clpmonctrl -v[-m resource_name ...]
clpmonctrl -e -m resource_name
clpmonctrl -n [-m resource_name]
```

説明 監視リソースの一時停止/再開を行います。

オプション	-s	監視を一時停止します。
	-r	監視を再開します。
	-c	回復動作の回数カウンタをリセットします。
	-v	回復動作の回数カウンタを表示します。
	-e	障害検証機能を有効にします。必ず-mオプションで監視リソース名を指定してください。
	-n	障害検証機能を無効にします。-mオプションで監視リソース名を指定した場合は、そのリソースのみが対象となります。-mオプションを省略した場合は、全監視リソースが対象となります。
	-m resource_name ...	制御する監視リソースを単数または、複数で指定します。 省略可能で、省略時は全ての監視リソースに対して制御を行います。
	-w wait_time	監視リソース単位で監視制御を待たせます。(秒) 省略可能で、省略時は5秒が設定されます。

戻り値	0	正常終了
	1	実行権限不正
	2	オプション不正
	3	初期化エラー
	4	構成情報不正
	5	監視リソース未登録
	6	指定監視リソース不正
	10	CLUSTERPRO未起動状態
	11	CLUSTERPROデーモンサスペンド状態

90	監視制御待ちタイムアウト
128	二重起動
255	その他内部エラー

実行例

監視リソース構成

```
# clpstat -m
=== MONITOR RESOURCE STATUS ===
Cluster : cluster
*server0 : server1
Monitor0 [ipw1 : Normal]
-----
server0 [o]: Online
Monitor1 [miiw1 : Normal]
-----
server0 [o]: Online
Monitor2 [userw : Normal]
-----
server0 [o]: Online
=====
```

例1 - 4は、server1の監視リソースを制御します。

server2の監視リソースを制御する場合は、server2で本コマンドを実行してください。

例1:全監視リソースを一時停止する場合

```
# clpmonctrl -s
Command succeeded.
```

```
# clpstat -m
=== MONITOR RESOURCE STATUS ===
Cluster : cluster
*server0 : server1
Monitor0 [ipw1 :Caution]
-----
server0 [o]: Suspend
Monitor1 [miiw1:Caution]
-----
server0 [o]: Suspend
Monitor2 [userw :Caution]
-----
server0 [o]: Suspend
=====
```

例2:全監視リソースを再開する場合

```
# clpmonctrl -r
Command succeeded.
# clpstat -m
=== MONITOR RESOURCE STATUS ===
Cluster : cluster
*server0 : server1

Monitor0 [ipw1 :Normal]
-----
server0 [o]:      Online
-----
Monitor1 [miiw1:Normal]
-----
server0 [o]:      Online
-----
Monitor2 [userw :Normal]
-----
server0 [o]:      Online
=====
```

例3:全監視リソースの回復動作の回数カウンタを表示する場合

```
# clpmonctrl -v
-----
Resource      : ipw1
Script Count   : 0/0
Restart Count  : 1/1
Failover Count : 3/3
Final Action Count : 0[No Operation]
-----
Resource      : miiw1
Script Count   : 0/0
Restart Count  : 0/0
Failover Count : 1/1
Final Action Count : 0[No Operation]
-----
Resource      : userw
Script Count   : 0/0
Restart Count  : 0/0
Failover Count : 0/0
Final Action Count : 0[-]
-----

Command succeeded.
```

例4:全監視リソースの回復動作の回数カウンタをリセットする場合

```
# clpmonctrl -c
Command succeeded.
# clpmonctrl -v
```

Resource	: ipw1
Script Count	: 0/0
Restart Count	: 0/1
Failover Count	: 0/3
Final Action Count	: 0 [No Operation]

Resource	: miiw1
Script Count	: 0/0
Restart Count	: 0/0
Failover Count	: 0/1
Final Action Count	: 0 [No Operation]

Resource	: userw
Script Count	: 0/0
Restart Count	: 0/0
Failover Count	: 0/0
Final Action Count	: 0 [-]


```
Command succeeded.
```

例5:IPモニタリソース(ipw1)のみを一時停止する場合

```
# clpmonctrl -s -m ipw1
Command succeeded.
# clpstat -m
=== MONITOR RESOURCE STATUS ===
Cluster : cluster
*server0 : server1
```

Monitor0 [ipw1 :Caution]

server0 [o]: Suspend

Monitor1 [miiw1:Normal]

server0 [o]: Online

Monitor2 [userw :Normal]

server0 [o]: Online

```
=====
```


例6:IPモニタリソース(ipw1)のみを再開する場合

```
# clpmonctrl -r -m ipw1
Command succeeded.
# clpstat -m
=== MONITOR RESOURCE STATUS ===
Cluster : cluster
*server0 : server1

Monitor0 [ipw1 :Normal]
-----
server0 [o]:      Online

Monitor1 [miiw1:Normal]
-----
server0 [o]:      Online

Monitor2 [userw :Normal]
-----
server0 [o]:      Online
=====
```

例7:IPモニタリソース(ipw1)の回復動作の回数カウンタを表示する場合

```
# clpmonctrl -v -m ipw1
-----
Resource                : ipw1
Script Count             : 0/0
Restart Count            : 1/1
Failover Count           : 3/3
Final Action Count       : 0[No Operation]
-----

Command succeeded.
```

例8:IPモニタリソース(ipw1)の回復動作の回数カウンタをリセットする場合

```
# clpmonctrl -c -m ipw1
Command succeeded.
# clpmonctrl -v -m ipw1
-----
Resource                : ipw1
Script Count             : 0/0
Restart Count            : 0/1
Failover Count           : 0/3
Final Action Count       : 0[No Operation]
-----

Command succeeded.
```

備考 既に一時停止状態にある監視リソースに一時停止を行った場合や既に起動済状態にある監視リソースに再開を行った場合は、本コマンドは正常終了し、監視リソース状態は変更しません。

注意事項 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

監視リソースの状態は、状態表示コマンドまたは WebManagerで確認してください。

clpstatコマンドまたは、WebManagerで監視リソースの状態が"起動済"または、
"一時停止"であることを確認後、実行してください。

モニタリソースの回復動作が下記のように設定されている場合、-vオプションで
表示される "FinalAction Count" には「最終動作前スクリプト」の実行回数が
表示されます。

- 最終動作前にスクリプトを実行する：有効
- 最終動作："何もしない"

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Log in as root.	コマンドの実行権がありません。root 権限を持つユーザで実行してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Invalid cluster configuration data. Check it by using the Builder.	クラスタ構成情報が不正です。Builder でクラスタ構成情報を確認してください。
Monitor resource is not registered.	監視リソースが登録されていません。
Specified monitor resource is not registered. Check the cluster configuration information by using the Builder.	指定された監視リソースは、登録されていません。 Builder でクラスタ構成情報を確認してください。
The cluster has been stopped. Check the active status of the cluster daemon by using the command such as ps command.	クラスタは、停止状態です。 ps コマンドなどで CLUSTERPRO デーモンの起動状態を確認してください。
The cluster has been suspended. The cluster daemon has been suspended. Check activation status of the cluster daemon by using a command such as the ps command.	CLUSTERPRO デーモンは、サスペンド状態です。ps コマンドなどで CLUSTERPRO デーモンの起動状態を確認してください。
Waiting for synchronization of the cluster... The cluster is waiting for synchronization. Wait for a while and try again.	クラスタは、同期待ち状態です。 クラスタ同期待ち完了後、再度実行してください。
Monitor %1 was unregistered, ignored. The specified monitor resources %1 is not registered, but continue processing. Check the cluster configuration data by using the Builder.	指定された監視リソース中に登録されていない監視リソースありますが、無視して処理を継続します。 Builder でクラスタ構成情報を確認してください。 %1 : 監視リソース名
Monitor %1 denied control permission, ignored. but continue processing.	指定された監視リソース中に制御できない監視リソースがありますが、無視して処理を継続します。 %1 : 監視リソース名
This command is already run.	コマンドは、既に行われています。ps コマンドなどで実行状態を確認してください。

メッセージ	原因/対処
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

-m オプションに指定可能なモニタリソースタイプ

タイプ	監視の一時停止/再開	回復動作の 回数カウンタ/リセット	障害検証機能の 有効化/無効化
diskw	○	○	○
ipw	○	○	○
miiw	○	○	○
mtw	○	○	○
pidw	○	○	○
volmgrw	○	○	○
userw	○	○	×
vmw	○	○	×
mrw	○	○	×
genw	○	○	○
oraclew	○	○	○
oracleasw	○	○	○
db2w	○	○	○
psqlw	○	○	○
mysqlw	○	○	○
sybasew	○	○	○
sambaw	○	○	○
nfs	○	○	○
httpw	○	○	○
ftpw	○	○	○
smtpw	○	○	○
pop3w	○	○	○
imap4w	○	○	○
tuxw	○	○	○
wls	○	○	○
was	○	○	○
otxw	○	○	○
jraw	○	○	○
sraw	○	○	○
psw	○	○	○

グループリソースを制御する (clprsc コマンド)

clprsc グループリソースの制御を行います。

コマンドライン:

clprsc -s *resource_name* [-f]

clprsc -t *resource_name* [-f]

説明 グループリソースを起動/停止します。

オプション -s グループリソースを起動します。
 -t グループリソースを停止します。
 -f グループリソース起動時は、指定したグループリソースが
 依存する全グループリソースを起動します。
 グループリソース停止時は、指定したグループリソースに
 依存している全グループリソースを停止します。

戻り値 0 正常終了
 0以外 異常終了

実行例 グループリソース構成

```
# clpstat
===== CLUSTER STATUS =====
Cluster : cluster
<server>
  *server1 ..... : Online
    lanhb1 ..... : Normal
    lanhb2 ..... : Normal
<group>
  ManagementGroup..... : Online
    current ..... : server1
    ManagementIP ..... : Online
  failover1 ..... : Online
    current ..... : server1
    exec1 ..... : Online
<monitor>
  ipw1 ..... : Normal
=====
```

例1:グループfailover1のリソースexec1を停止する場合

```
# clprsc -t exec1
Command succeeded.

# clpstat
===== CLUSTER STATUS =====
<省略>
<group>
  ManagementGroup ..... : Online
    current                : server1
  ManagementIP            : Online
  failover1 .....         : Online
    current                : server1
    exec1                  : Offline
<省略>
```

例2:グループfailover1のリソースexec1を起動する場合

```
# clprsc -s exec1
Command succeeded.

# clpstat
===== CLUSTER STATUS =====
<省略>
<group>
  ManagementGroup ..... : Online
    current                : server1
  ManagementIP            : Online
  failover1 .....         : Online
    current                : server1
    exec1                  : Online
<省略>
```

注意事項 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。
グループリソースの状態は、状態表示コマンドまたは WebManagerで確認してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check it by using the Builder.	クラスタ構成情報が不正です。Builder でクラスタ構成情報を確認してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server status. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。

メッセージ	原因/対処
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
The group resource is busy. Try again later.	グループリソースが起動処理中、もしくは停止処理中のため、しばらく待ってから実行してください。
An error occurred on group resource. Check the status of group resource.	WebManager や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Could not start the group resource. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち時間が タイムアウトするのを待って、グループリソースを起動させてください。
No operable group resource exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループリソースが存在するか確認してください。
The group resource has already been started on the local server.	WebManager や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
The group resource has already been started on the other server.	WebManager や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。 グループリソースをローカルサーバで起動するには、グループを停止してください。
The group resource has already been stopped.	WebManager や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Failed to start group resource. Check the status of group resource.	WebManager や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Failed to stop resource. Check the status of group resource.	WebManager や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Depended resource is not offline. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が停止済でないため、グループリソースを停止できません。 依存しているグループリソースを停止するか、-f オプションを指定してください。
Depending resource is not online. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が起動済でないため、グループリソースを起動できません。 依存しているグループリソースを起動するか、-f オプションを指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	グループリソースが登録されていません。

メッセージ	原因/対処
Server is not in a condition to start resource or any critical monitor error is detected.	WebManager や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。 グループリソースを起動しようとしたサーバで除外モニタに含まれるモニタの異常が検出されています。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

CPU クロックを制御する (clpcpufreq コマンド)

clpcpufreq	CPUクロックの制御を行います。	
コマンドライン:	<pre>clpcpufreq --high clpcpufreq --low clpcpufreq -i clpcpufreq -s</pre>	
説明	CPUクロック制御による省電力モードの有効化/無効化を制御します。	
オプション	<pre>--high --low -i -s</pre>	<p>CPUクロック数を最大にします。</p> <p>CPUクロック数を下げて省電力モードにします。</p> <p>CPU ク ロ ッ ク の 制 御 を CLUSTERPRO X SingleServerSafe に戻します。</p> <p>現在の設定状態を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • performance クロック数を最大にしています。 • powersave クロック数を下げて省電力モードにしています。
戻り値	<pre>0 0以外</pre>	<p>正常終了</p> <p>異常終了</p>
備考	<p>CPUクロック制御用ドライバがロードされていない場合にはエラーとなります。</p> <p>サーバのプロパティの省電力の設定で、「CPUクロック制御機能を使用する」にチェックを入れていない場合、本コマンドを実行するとエラーとなります。</p>	
注意事項	<p>本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。</p> <p>CPUクロック制御機能を使用する場合、BIOSの設定でクロックの変更が可能になっていることと、CPUがOSの電源管理機能によるクロック制御をサポートしていることと、カーネルが対応していることが必要となります。</p>	

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Invalid mode. Check if --high or --low or -i or -s option is specified.	--high, --low, -i, -s いずれかのオプションが指定されているか確認してください。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the all.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Failed to load the cpufreq.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Failed to get the install path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Failed to get the cpufreq path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Failed to initialize the apicl library. Reinstall the RPM.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change CPU frequency settings. Check the BIOS settings and the OS settings. Check if the cluster is started. Check if the setting is configured so that CPU frequency control is used.	BIOS の設定、OS の設定を確認してください。 CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。 CPU クロック制御機能を使用する設定になっているか確認してください。
Failed to acquire CPU frequency settings. Check the BIOS settings and the OS settings. Check if the cluster is started. Check if the setting is configured so that CPU frequency control is used.	BIOS の設定、OS の設定を確認してください。 CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。 CPU クロック制御機能を使用する設定になっているか確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

クラスタ間連携を行う (clptrnreq コマンド)

clptrnreq サーバへ処理実行を要求します。

コマンドライン:

```
clptrnreq -t request_code -h IP [-r resource_name] [-s script_file] [-w timeout]
```

説明 指定した処理実行要求を他クラスタのサーバに発行します。

オプション	-t request_code	<p>実行する処理のリクエストコードを指定します。以下のリクエストコードを指定することができます。</p> <p>GRP_FAILOVER グループフェイルオーバー</p> <p>EXEC_SCRIPT スクリプトの実行</p>
	-h IP	<p>処理実行要求を発行するサーバをIPアドレスで指定します。カンマ区切りで複数指定することが可能です。指定可能なIPアドレスの最大数は32です。</p> <p>リクエストコードにグループフェイルオーバーを指定する場合、クラスタ内の全てのサーバのIPアドレスを指定してください。</p>
	-r resource_name	<p>リクエストコードにGRP_FAILOVERを指定した場合に、処理要求の対象となるグループに属するリソース名を指定します。</p> <p>GRP_FAILOVERを指定した場合、-rは省略できません。</p>
	-s script_file	<p>リクエストコードにEXEC_SCRIPTを指定した場合に、実行するスクリプト(シェルスクリプトや実行可能ファイル等)のファイル名を指定します。スクリプトは-hで指定した各サーバのCLUSTERPROインストールディレクトリ配下のwork/trnreqディレクトリに作成しておく必要があります。</p> <p>EXEC_SCRIPTを指定した場合、-sは省略できません。</p>
	-w timeout	<p>コマンドのタイムアウト値を秒単位で指定します。</p> <p>タイムアウト値で指定可能な最小値は5秒です。</p> <p>-wオプションを指定しない場合、30秒待ち合わせます。</p>

戻り値	0	正常終了
	0以外	異常終了

注意事項 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

-hで指定するIPアドレスのサーバ上でCLUSTERPRO データ転送サービスが起動していない場合は実行できません。また、この対象サーバ側でクライアントIPアドレスによってWebManagerの接続制限を行っている場合、コマンドを実行するサーバのアドレスに対して接続が許可されている必要があります。

実行例

例1: 他クラスタのexec1リソースを持つグループをフェイルオーバーさせる場合

```
# clptrnreq -t GRP_FAILOVER -h 10.0.0.1,10.0.0.2 -r exec1
```

Command succeeded.

例2: IPアドレス10.0.0.1のサーバにスクリプトscript1.shを実行させる場合

```
# clptrnreq -t EXEC_SCRIPT -h 10.0.0.1 -s script1.sh
```

Command Succeeded.

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as root.	root権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	コマンドラインオプションが不正です。正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the data transfer servers. Check if the servers have started up.	サーバが起動しているか確認してください。
Could not connect to all data transfer server. Check if the servers have started up.	クラスタ内の全てのサーバが起動しているか確認してください。
Command timeout.	OSに負荷がかかっているなどの原因が考えられます。確認してください。
All servers are busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
GRP_FAILOVER %s : Group that specified resource(%s) belongs to is offline.	指定されたリソースが属するグループは停止状態のため、フェイルオーバー処理は行われませんでした。
EXEC_SCRIPT %s : Specified script(%s) does not exist.	指定したスクリプトが存在しません。確認してください。
EXEC_SCRIPT %s : Specified script(%s) does not executable.	指定したスクリプトが実行できませんでした。実行権限があるか確認してください。
%s %s : This server is not permitted to execute clptrnreq.	コマンドを実行したサーバに実行権限がありません。WebManagerの接続制限のIP一覧に登録されているか確認してください。
GRP_FAILOVER %s : Specified resource(%s) does not exist.	指定したリソースが存在しません。確認してください。
%s %s : %s failed in execute..	指定された処理実行に失敗しました。
Internal error. Check if memory or OS resource is sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

クラスタサーバに処理を要求する(clprexec コマンド)

clprexec CLUSTERPROがインストールされた他サーバへ処理実行を要求します。

コマンドライン:

```
clprexec --failover [group_name] -h IP [-r resource_name] [-w timeout] [-p port_number]
[-o logfile_path]

clprexec --script script_file -h IP [-p port_number] [-w timeout] [-o logfile_path]
clprexec --notice [mrw_name] -h IP [-k category[keyword]] [-p port_number] [-w timeout]
[-o logfile_path]
clprexec --clear [mrw_name] -h IP [-k category[keyword]] [-p port_number] [-w
timeout] [-o logfile_path]
```

説明 従来のclptrnreqコマンドに外部監視からCLUSTERPROサーバへ処理要求を発行する機能(異常発生通知)などを追加したコマンドです。

オプション	--failover	<p>グループフェイルオーバー要求を行います。 group_nameにはグループ名を指定してください。</p> <p>グループ名を省略する場合は、-rオプションによりグループに属するリソース名を指定してください。</p>
	--script script_name	<p>スクリプト実行要求を行います。</p> <p>script_nameには、実行するスクリプト(シェルスクリプトや実行可能ファイル等)のファイル名を指定します。</p> <p>スクリプトは-hで指定した各サーバのCLUSTERPROインストールディレクトリ配下のwork/rexecディレクトリ配下に作成しておく必要があります。</p>
	--notice	<p>CLUSTERPROサーバへ異常発生通知を行います。</p> <p>mrw_nameにはメッセージ受信モニタリソース名を指定してください。</p> <p>モニタリソース名を省略する場合、-kオプションでメッセージ受信モニタリソースのカテゴリ、キーワードを指定してください。</p>
	--clear	<p>メッセージ受信モニタリソースのステータスを"異常"から"正常"へ変更する要求を行います。</p> <p>mrw_nameにはメッセージ受信モニタリソース名を指定してください。</p> <p>モニタリソース名を省略する場合、-kオプションでメッセージ受信モニタリソースのカテゴリ、キーワードを指定してください。</p>
	-h IP Address	<p>処理要求発行先のCLUSTERPROサーバのIPアドレスを指定してください。</p> <p>カンマ区切りで複数指定可能、指定可能なIPアドレス</p>

		数は32個です。
		※ 本オプションを省略する場合、処理要求発行先は自サーバになります。
	-r resource_name	--failoverオプションを指定する場合に、処理要求の対象となるグループに属するリソース名を指定します。
	-k category[.keyword]	--noticeまたは--clearオプションを指定する場合、categoryに外部連携モニタリソースに設定しているカテゴリを指定してください。 外部連携モニタリソースのキーワードを指定する場合は、categoryのあとにドット区切りで指定してください。
	-p port_number	ポート番号を指定します。 port_numberに処理要求発行先サーバに設定されているデータ転送ポート番号を指定してください。 本オプションを省略した場合、デフォルト29002を使用します。
	-o logfile_path	logfile_pathには、本コマンドの詳細ログを出力するファイルpathを指定します。 ファイルにはコマンド1回分のログが保存されます。 ※ CLUSTERPROがインストールされていないサーバで本オプションを指定しない場合、標準出力のみとなります。
	-w timeout	コマンドのタイムアウトを指定します。指定しない場合は、デフォルト180秒です。 5～MAXINTまで指定可能です。
戻り値	0	正常終了
	0以外	異常終了
注意事項	<p>clprexecコマンドを使って異常発生通知を発行する場合、CLUSTERPROサーバ側で実行させたい異常時動作を設定したメッセージ受信モニタリソースを登録/起動しておく必要がある。</p> <p>コマンド実行時に、コマンドのバージョンを標準出力する。</p> <p>--scriptオプションで指定された文字列に"¥"、"/"または".."が含まれているかどうかのチェックを行う。(相対path指定をNGとするため)</p> <p>-hオプションで指定するIPアドレスを持つサーバは、下記の条件を満たす必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> = CLUSTERPRO X3.0以降がインストールされていること = CLUSTERPROが起動していること = mrwが設定/起動されていること = TransactionServerが起動していること 	
実行例	例1: CLUSTERPROサーバ1(10.0.0.1)に対して、グループfailover1のフェイルオーバー要求を発行する場合	

```
# clprexec --failover failover1 -h 10.0.0.1 -p 29002
```

例2: CLUSTERPROサーバ1(10.0.0.1)に対して、グループリソース(exec1)が属するグループのフェイルオーバー要求を発行する場合

```
# clprexec --failover -r exec1 -h 10.0.0.1
```

例3: CLUSTERPROサーバ1(10.0.0.1)に対して、スクリプト(script1.sh)実行要求を発行する場合

```
# clprexec --script script1.sh -h 10.0.0.1
```

例4: CLUSTERPROサーバ1(10.0.0.1)に対して異常発生通知を発行する

※ mrw1設定 カテゴリ:earthquake、キーワード:scale3

- 外部連携モニタリソース名を指定する場合

```
# clprexec --notice mrw1 -h 10.0.0.1 -w 30 -p /tmp/clprexec/
  lprexec.log
```

- 外部連携モニタリソースに設定されているカテゴリとキーワードを指定する場合

```
# clprexec --notice -h 10.0.0.1 -k earthquake.scale3 -w 30
  -p /tmp/clprexec/clprexec.log
```

例5: CLUSTERPROサーバ1(10.0.0.1)に対してmrw1のモニタステータス変更要求を発行する

※ mrw1の設定 カテゴリ:earthquake、キーワード:scale3

- 外部連携モニタリソース名を指定する場合

```
# clprexec --clear mrw1 -h 10.0.0.1
```

- 外部連携モニタリソースに設定されているカテゴリとキーワードを指定する場合

```
# clprexec --clear -h 10.0.0.1 -k earthquake.scale3
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
rexec_ver:%s	-
%s %s : %s succeeded.	-
%s %s : %s will be executed from now.	要求発行先のサーバで処理結果を確認してください。
%s %s : Group Failover did not execute because Group(%s) is offline.	-
%s %s : Group migration did not execute because Group(%s) is offline.	-
Invalid option.	コマンドの引数を確認してください。
Could not connect to the data transfer servers. Check if the servers have started up.	指定した IP アドレスが正しいかまたは IP アドレスを持つサーバが起動しているか確認してください。
Command timeout.	指定した IP アドレスを持つサーバで処理が完了しているか確認してください。
All servers are busy.Check if this command is already run.	既に本コマンドが実行されている可能性があります。確認してください。
%s %s : This server is not permitted to execute clprexec.	WebManager 接続制限のクライアント IP アドレス一覧にコマンドを実行するサーバの IP アドレスが登録されているか確認してください。
%s %s : Specified monitor resource(%s) does not exist.	コマンドの引数を確認してください。
%s failed in execute.	要求発行先の CLUSTERPRO サーバの状態を確認してください。

BMC 情報を変更する(clpbmccnf コマンド)

clpbmccnf BMCユーザ名・パスワード情報を変更します。

コマンドライン:

```
clpbmccnf [-u username] [-p password]
```

説明 CLUSTERPROが使用するベースボード管理コントローラー(BMC)のLANアクセス用のユーザ名/パスワードを変更します。

オプション	-u <i>username</i>	CLUSTERPROが使用するBMC LANアクセス用のユーザ名を指定します。root権限を持つユーザ名を指定する必要があります。
		-uオプションは省略可能です。省略時に-pオプションが指定されている場合、ユーザ名は現在設定されている値を使用します。オプション指定がない場合は対話形式で設定します。
	-p <i>password</i>	CLUSTERPROが使用するBMC LANアクセス用のパスワードを指定します。-pオプションは省略可能です。省略時に-uオプションが指定されている場合、パスワードは現在設定されている値を使用します。オプション指定がない場合は対話形式で設定します。

戻り値	0	正常終了
	0以外	異常終了

注意事項

- 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。
- 本コマンドはサーバが正常な状態で実行してください。
- 本コマンドによるBMC情報の更新は、次回サーバ起動時/リブーム時に有効になります。
- 本コマンドはBMCの設定を変更するものではありません。BMCのアカウント設定の確認・変更にはサーバ付属のツールかIPMI規格に準拠した他のツールを使用してください。

実行例 server1のBMCのIPMIアカウントのパスワードをmypasswordに変更した場合、
server1上で下記を実行します。

```
# clpbmccnf -p mypassword
```

または、以下のように対話形式で入力します。

```
# clpbmccnf
```

New user name: ←変更がない場合はリターンキーを押下してスキップ

New password: *****

Retype new password: *****

Cluster configuration updated successfully.

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	コマンドラインオプションが不正です。 正しいオプションを指定してください。
Failed to download the cluster configuration data. Check if the cluster status is normal.	クラスタ構成情報のダウンロードに失敗しました。 クラスタの状態が正常か確認してください。
Failed to upload the cluster configuration data. Check if the cluster status is normal.	クラスタ構成情報のアップロードに失敗しました。 クラスタの状態が正常か確認してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	クラスタ構成情報が不正です。Builder でクラスタ構成情報を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

再起動回数を制御する(clpregctrl コマンド)

clpregctrl 再起動回数制限の制御を行います。

コマンドライン:

clpregctrl --get

clpregctrl -g

clpregctrl --clear -t *type* -r *registry*

clpregctrl -c -t *type* -r *registry*

説明 サーバ上で再起動回数の表示/初期化を行います。

オプション	-g, --get	再起動回数情報を表示します。
	-c, --clear	再起動回数を初期化します。
	-t <i>type</i>	再起動回数を初期化するタイプを指定します。指定可能なタイプはrcまたはrmです。
	-r <i>registry</i>	レジストリ名を指定します。指定可能なレジストリ名はhaltcountです。

戻り値	0	正常終了
	1	実行権限不正
	2	二重起動
	3	オプション不正
	4	構成情報不正
	10～17	内部エラー
	20～22	再起動回数情報取得失敗
	90	メモリアロケート失敗
	91	ワークディレクトリ変更失敗

実行例 再起動回数情報表示

```
# clpregctrl -g

*****
-----
type      : rc
registry  : haltcount
comment   : halt count
kind      : int
value     : 0
default   : 0

-----
type      : rm
registry  : haltcount
comment   : halt count
kind      : int
value     : 3
default   : 0

*****
Command succeeded.(code:0)
#
```

例1、2は、再起動回数を初期化します。

例1:グループリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rc -r haltcount
Command succeeded.(code:0)
#
```

例2:モニタリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rm -r haltcount
Command succeeded.(code:0)
#
```

注意事項 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Log in as root.	コマンドの実行権がありません。 root 権限を持つユーザで実行してください。
The command is already executed. Check the execution state by using the "ps" command or some other command.	コマンドは、既に実行されています。 ps コマンドなどで実行状態を確認してください。
Invalid option.	オプションが不正です。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考え られます。確認してください。

リソース使用量を予測する (clpprer コマンド)

clpprer 与えられたリソース使用量データの傾向から将来値を予測します。

コマンドライン:

```
clpprer -i <inputfile> -o <outputfile> [-p <number>] [-t <number> [-l]]
```

説明 与えられたリソース使用量データの傾向から将来値を予測します。

オプション

- i <inputfile> 将来の値を求めたいリソースデータを指定します。
- o <outputfile> 予測結果を出力するファイル名を指定します。
- p <number> 予測データ数を指定します。指定がない場合は、30 件の予測データを求めます。
- t <number> 予測データと比較するしきい値を指定します。
- l [-t]オプションでしきい値の設定を行った場合のみ有効になるオプションです。しきい値を下回った場合を異常と判定します。

戻り値

0	しきい値判定を行わず正常終了した場合
1	異常が発生した場合
2	入力データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
3	予測データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
4	しきい値判定の結果、しきい値を超えていないと判断した場合
5	分析対象データ数が分析推奨データ数(120)に足りていない場合に、入力データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
6	分析対象データ数が分析推奨データ数(120)に足りていない場合に、予測データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
7	分析対象データ数が分析推奨データ数(120)に足りていない場合に、しきい値判定の結果、しきい値を超えていないと判断した場合

注意事項 本コマンドは、システム監視リソース(System Resource Agent)のライセンスを登録している場合のみ利用することができます。

オプション `-i` で指定するリソースデータファイルの入力データ数は最大で 500 件となります。リソース使用量の予測にはある程度の入力データ数が必要となります。ただし、入力データ数が多い場合は分析に要する処理時間も長くなるため、入力データ数は 120 件程度を推奨します。また、オプション `-p` に指定可能な出力データ数も最大で 500 件となります。

入力ファイルの時刻データが昇順に並んでいない場合は正しく予測を行うことができません。入力ファイルには昇順に並んでいる時刻データを設定してください。

入力ファイル 入力ファイルのフォーマットについて説明します。

入力ファイルは CSV 形式で、1 個のデータを [日時,数値] の形で記載します。

また、日時のフォーマットは YYYY/MM/DD hh:mm:ss です。

ファイル例

```
2012/06/14 10:00:00,10.0
2012/06/14 10:01:00,10.5
2012/06/14 10:02:00,11.0
```

実行例 将来の値の予測を簡単な例で説明します。

入力データで異常を検出した場合

入力データの最新の値がしきい値を超えていた場合は、異常と判断して戻り値 2 を返却します。入力データ数が推奨値(=120)未満の場合は戻り値 5 を返却します。

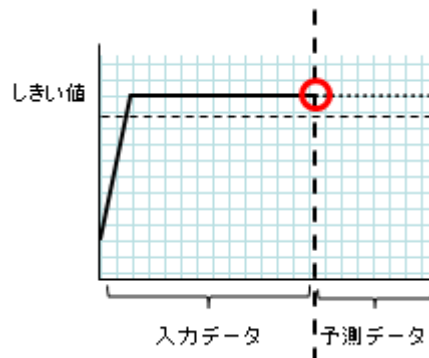


図 入力データで異常を検出

予測データで異常を検出

予測データがしきい値を超えていた場合は、異常と判断して戻り値 3 を返却します。入力データ数が推奨値(=120)未満の場合は戻り値 6 を返却します。

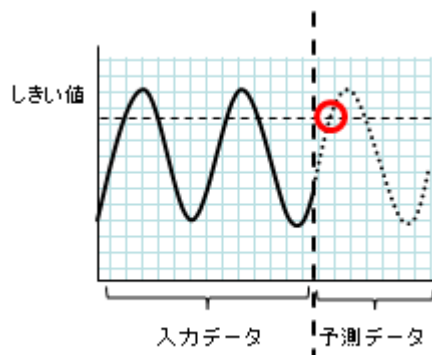


図 予測データで異常を検出

しきい値異常を検出しない

入力データ、予測データともにしきい値を超えなかった場合は、戻り値 4 を返却します。入力データ数が推奨値(=120)未満の場合は戻り値 7 を返却します。

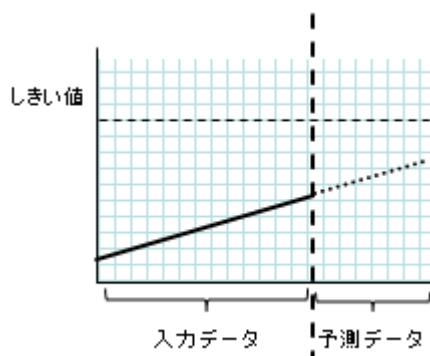


図 しきい値異常を検出しない

-I オプションを利用した場合

-I オプションを利用した場合は、しきい値を下回った場合を異常と判定します。

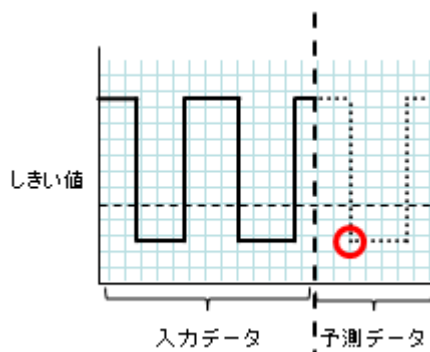


図 -I オプションを利用

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Normal state.	しきい値判定の結果、しきい値を超えるデータはありませんでした。
Detect over threshold. datetime = %s, data = %s, threshold = %s	しきい値判定の結果、しきい値を超えるデータを検出しました。
Detect under threshold. datetime = %s, data = %s, threshold = %s	-l オプションによるしきい値判定の結果、しきい値を下回るデータを検出しました。
License is nothing.	有効なSystem Resource Agentのライセンスが登録されていません。ライセンスを確認してください。
Inputfile is none.	指定した入力データファイルが存在しません。
Inputfile length error.	指定した入力データファイルのパスが長すぎます。1023 バイト以下で指定してください。
Output directory does not exist.	出力ファイルで指定されているディレクトリが存在しません。指定したディレクトリが存在するか確認してください。
Outputfile length error.	指定した出力ファイルのパスが長すぎます。1023 バイト以下で指定してください。
Invalid number of -p.	-p オプションに指定した値が不正です。
Invalid number of -t.	-t オプションに指定した値が不正です。
Not analyze under threshold(not set -t).	-t オプションが指定されていません。-l オプションを使用する場合 -t オプションも指定してください。
File open error [%s]. errno = %s	ファイルオープンに失敗しました。メモリ不足やOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Inputfile is invalid. cols = %s	入力データ数が正しくありません。入力データ数は2件以上に設定してください。
Inputfile is invalid. rows = %s	入力データのフォーマットが正しくありません。1行は2列にする必要があります。
Invalid date format. [expected YYYY/MM/DD HH:MM:SS]	入力データの日付が不正なフォーマットになっています。データを確認してください。
Invalid date format. Not sorted in ascending order.	入力データの日時が昇順に並んでいません。データを確認してください。
File read error.	入力データに不正な値が設定されています。データを確認してください。
Too large number of data [%s]. Max number of data is %s.	入力データ数が最大値(500)を超えています。データ数を減らしてください。
Input number of data is smaller than recommendable number.	入力データ数が分析推奨データ数(120)より少ないです。 ※分析推奨データが少ない場合でも、分析は行われます。
Internal error.	内部エラーが発生しました。

セクション III リリースノート

このセクションでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の制限事項や、既知の問題とその回避策について説明します。

- 第 3 章 注意制限事項
- 第 4 章 エラーメッセージ一覧

第 3 章 注意制限事項

本章では、注意事項や既知の問題とその回避策について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- システム運用後 142
- WebManagerについて 146

システム運用後

運用を開始した後に発生する事象で留意して頂きたい事項です。

ドライバロード時のメッセージについて

clpka ドライバを load した際に、以下のメッセージがコンソール、syslog に表示されることがあります。この現象は異常ではありません。

```
kernel: clpka: no version for "struct_module" found: kernel tainted.  
kernel: clpka: module license 'unspecified' taints kernel.
```

ipmiのメッセージについて

ユーザ空間モニタリソースに IPMI を使用する場合、syslog に下記の kernel モジュール警告ログが多数出力されます。

```
modprobe: modprobe: Can't locate module char-major-10-173
```

このログ出力を回避したい場合は、/dev/ipmikcs を rename してください。

回復動作中の操作制限

モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース(EXECリソース、仮想マシンリソース)を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中(再活性化 → 最終動作)には、以下のコマンドまたは、WebManager からのサーバ及びグループへの制御は行わないでください。

- ◆ サーバの停止 / サスペンド
- ◆ グループの開始 / 停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて

インストールディレクトリ配下にコマンド編に記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からは実行しないでください。

実行した場合の影響については、サポート対象外となります。

ログ収集時のメッセージ

ログ収集を実行した場合、コンソールに以下のメッセージが表示されることがありますが、異常ではありません。ログは正常に収集されています。

```
hd#: bad special flag: 0x03
ip_tables: (C) 2000-2002 Netfilter core team
```

(hd#にはサーバ上に存在する IDE のデバイス名が入ります)

```
kernel: Warning: /proc/ide/hd?/settings interface is obsolete,
and will be removed soon!
```

サービス起動/停止用スクリプトについて

以下の場合に、サービスの起動/停止スクリプトでエラーが出力されます。

- ◆ CLUSTERPRO Server インストール直後 (SUSE Linux の場合)
OSシャットダウン時に下記のサービス停止スクリプトでエラーが出力されます。各サービスが起動されていないことが原因で出力されるエラーのため問題はありません。
 - clusterpro_alertsync
 - clusterpro_webmgr
 - clusterpro
 - clusterpro_trn
 - clusterpro_evt
- ◆ サービスの手動停止後のOSシャットダウン (SUSE Linux の場合)
clpclコマンドやWebManagerからサービスを停止後、OSシャットダウン時に停止したサービスの停止スクリプトでエラーが出力されます。サービスが停止していることが原因で出力されるエラーのため問題はありません。
 - clusterpro

以下の場合に、サービスの停止スクリプトが不正な順序で実行されます。

- ◆ **chkconfig --del name** を実行し全サービスを無効化した後のOSシャットダウン
CLUSTERPROのサービスを無効化した後、OSシャットダウン時にCLUSTERPROのサービスが不正な順序で停止されます。OSシャットダウン時に無効化したCLUSTERPROのサービスが停止されないことが原因で発生します。
WebManagerから実行するサーバシャットダウンや、clpstdnコマンドなどCLUSTERPROのコマンドを使用するサーバシャットダウンの場合は不正な順序で停止されても問題ありません。

EXECリソースで使用するスクリプトファイルについて

EXEC リソースで使用するスクリプトファイルはサーバ上の下記のディレクトリに配置されます。

`/インストールパス/scripts/グループ名/EXEC リソース名/`

構成変更時に下記の変更を行った場合、変更前のスクリプトファイルはサーバ上からは削除されません。

- EXEC リソースを削除した場合や EXEC リソース名を変更した場合
- EXEC リソースが所属するグループを削除した場合やグループ名を変更した場合

変更前のスクリプトファイルが必要ない場合は、削除しても問題ありません。

活性時監視設定のモニタリソースについて

活性時監視設定のモニタリソースの一時停止/再開には下記の制限事項があります。

- ◆ モニタリソースの一時停止後、監視対象リソースを停止させた場合モニタリソースは停止状態となります。そのため、監視の再開はできません。
- ◆ モニタリソースを一時停止後、監視対象リソースを停止/起動させた場合、監視対象リソースが起動したタイミングで、モニタリソースによる監視が開始されます。

システムモニタリソースの注意事項について

- ◆ 設定内容の変更時にはクラスタサスペンドを行う必要があります。
- ◆ モニタリソースの遅延警告には対応していません。
- ◆ SELinux の設定は permissive または disabled にしてください。
enforcing に設定すると CLUSTERPRO で必要な通信が行えない場合があります。
- ◆ 動作中に OS の日付/時刻を変更した場合、10 分間隔で行っている解析処理のタイミングが日付/時刻変更後の最初の一回だけずれてしまいます。以下のようなことが発生するため、必要に応じてクラスタのサスペンド・リジュームを行ってください。
 - ・ 異常として検出する経過時間を過ぎても、異常検出が行われない。
 - ・ 異常として検出する経過時間前に、異常検出が行われる。
- ◆ ディスクリソース監視機能で同時に監視できる最大のディスク数は 64 台です。

JVMモニタリソースの注意事項について

- ◆ 監視対象の Java VM を再起動する場合はクラスタサスペンドするか、クラスタ停止を行った後に行ってください。
- ◆ 設定内容の変更時にはクラスタサスペンドを行う必要があります。
- ◆ モニタリソースの遅延警告には対応していません。
- ◆ JVM モニタリソースを登録後に Builder の言語(クラスタプロパティ情報タブ→言語)を変更する場合(例: 日本語→中国語)、JVM モニタリソースを一旦削除し、再度 JVM

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.1 for Linux 操作ガイド

モニタリソースを登録してください。

モニタリソース異常検出時の最終動作(グループ停止)の注意事項について(対象バージョン3.1.5-1～3.1.6-1)

- ◆ 最終動作(グループ停止)が実行された場合、クラスタサスペンド、リジュームまたはそのサーバのクラスタ再起動を行ってください。
- ◆ 最終動作(グループ停止)が実行されたサーバでグループを起動した場合、そのグループに対するモニタリソースからの回復動作が実行されなくなります。

WebManager について

- ◆ WebManager で表示される内容は必ずしも最新の状態を示しているわけではありません。最新の情報を取得したい場合、ツールバーの [リロード] アイコン、または [ツール] メニューの [リロード] をクリックして最新の情報を取得してください。
- ◆ WebManager が情報を取得している間にサーバダウンが発生すると、情報の取得に失敗し、一部オブジェクトが正しく表示されない場合があります。次回の自動更新まで待つか、ツールバーの [リロード] アイコン、または [ツール] メニューの [リロード] をクリックして最新の情報を再取得してください。
- ◆ Linux上のブラウザを利用する場合、ウィンドウマネージャの組み合わせによっては、ダイアログが背後に回ってしまう場合があります。[ALT]+[TAB]キーなどでウィンドウを切り替えてください。
- ◆ CLUSTERPRO X SingleServerSafe のログ収集は複数のWebManagerから同時に実行することはできません。
- ◆ 接続先と通信できない状態で操作を行うと、制御が戻ってくるまでしばらく時間がかかる場合があります。
- ◆ マウスポインタが処理中を表す腕時計や砂時計になっている状態で、ブラウザ外にカーソルを移動すると、処理中であってもカーソルが矢印の状態に戻ってしまうことがあります。
- ◆ ログ収集を実行すると、サーバ側のコンソールに以下のようなメッセージが表示される場合があります。

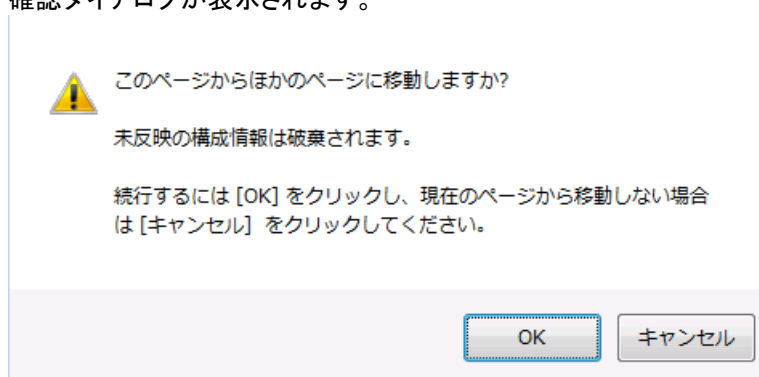
```
hda: bad special flag: 0x03
ip_tables: (C) 2000-2002 Netfilter core team
```

ログ収集に問題はありませんので、本メッセージは無視してください。

- ◆ Proxy サーバを経由する場合は、WebManager のポート番号を中継できるように、Proxy サーバの設定をしてください。
- ◆ Reverse Proxy サーバを経由する場合、WebManager は正常に動作しません。
- ◆ CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートを行った場合は、ブラウザを終了し、Java のキャッシュをクリアしてからブラウザを再起動してください。
- ◆ Javaのアップデートを行った場合、起動している全てのブラウザを一旦終了してください。Javaのキャッシュとブラウザ側のキャッシュをクリアして、ブラウザを起動してください。

Builder について

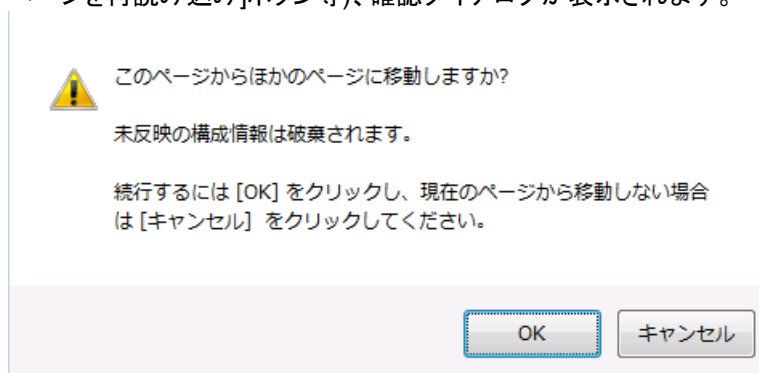
- ◆ 以下の製品とは構成情報の互換性がありません。
 - CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.1 for Linux 以外の Builder
- ◆ 本製品より新しいバージョンで作成されたクラスタ構成情報は、本製品で利用することはできません。
- ◆ CLUSTERPRO X SingleServerSafe 1.0 / 2.0 / 2.1 / 3.0 / 3.1 for Linux のクラスタ構成情報は本製品で利用することができます。
利用する場合は、Builder の [ファイル] メニューで [設定のインポート] をクリックします。
- ◆ Webブラウザを終了すると(ファイルメニューの[終了]やウィンドウフレームの[X]ボタン等)、確認ダイアログが表示されます。



設定を続行する場合は [キャンセル] を選択してください。

注:JavaScript を無効にしている場合、本画面は表示されません。

- ◆ Webブラウザをリロードすると(メニューの[最新の情報に更新]やツールバーの[現在のページを再読み込み]ボタン等)、確認ダイアログが表示されます。



設定を続行する場合は [キャンセル] を選択してください。

注:JavaScript を無効にしている場合、本画面は表示されません。

- ◆ Builderでの構成情報作成時には下記の点に注意してください。
 - 数値を入力するテキストボックス
0 で始まる数値は入力しないでください。

例えば、タイムアウトに 10 秒を設定する場合には「010」ではなく、「10」を入力してください。

- ◆ Reverse Proxy サーバを経由する場合、Builder は正常に動作しません。
- ◆ Java(TM) Runtime Environment Version 7.0 Update2 (1.7.0_2)以降を使用している場合、ニーモニックキーが正常に動作しない場合があります。

第 4 章

エラーメッセージ一覧

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- syslog、アラート、メール通報、SNMP トラップメッセージ 150
- ドライバのsyslogメッセージ 196
- グループリソース活性/非活性時の詳細情報 200
- モニタリソース異常時の詳細情報..... 202
- JVM モニタリソースの ログ出力メッセージ..... 214

syslog、アラート、メール通報、SNMP トラップメッセージ

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のメッセージは以下の通りです。

注: syslog に facility = daemon(0x00000018), identity = "clusterpro" で出力します。以下の表の「イベント分類」が syslog のログレベルに相当します。

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
sss	エラー	8	Failed to update config file.	コンフィグファイルの更新が失敗しました。	構成情報を確認してください。	●	●		
sss	情報	10	Updated config file successfully.	コンフィグファイルが更新されました。	—		●		
sss	エラー	12	Information in config file is invalid.	コンフィグファイルの内容が不正です。	構成情報を確認してください。		●		
sss	エラー	14	Failed to obtain server name.	サーバ名の取得が失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●		
sss	情報	16	Server name is updated.	サーバ名が更新されました。	—	●	●		
pm	情報	1	Starting the cluster daemon...	CLUSTERPRO デーモンが正常に起動されました。	—	●	●		
pm	情報	2	Shutting down the cluster daemon...	CLUSTERPRO デーモンを停止しています。	—	●	●		
pm	情報	3	Shutdown monitoring is started...	シャットダウン監視が開始されました。	—	●	●		
pm	エラー	10	The cluster daemon has already started.	CLUSTERPRO デーモンは、既に起動されています。	CLUSTERPRO デーモンの状態を確認してください。	●	●		
pm	エラー	11	A critical error occurred in the cluster daemon.	CLUSTERPRO デーモンで重大なエラーが発生しました。	実行ユーザが root 権限を持っていないか或いは、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●	●
pm	エラー	12	A problem was detected in XML library.	XML ライブラリ内で問題が検出されました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
pm	エラー	13	A problem was detected in cluster configuration data.	構成情報で問題が検出されました。	Builder で構成情報を確認してください。	●	●	●	●

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
pm	エラー	14	No cluster configuration data is found.	構成情報が存在しません。	Builder でサーバ構成を作成し、サーバにアップロードしてください。	●	●		
pm	エラー	15	No information about this server is found in the cluster configuration data.	自サーバが構成情報に存在しません。	Builder で構成情報を確認してください。	●	●		
pm	エラー	20	Process %1 was terminated abnormally.	%1 プロセスが異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●	●
pm	エラー	21	The system will be stopped because the cluster daemon process terminated abnormally.	CLUSTERPRO デーモンのプロセスが異常終了したため、システムを停止します。	グループリソースの非活性失敗が考えられます。グループリソースのメッセージに従って対処を行ってください。	●	●		
pm	エラー	22	An error occurred when initializing process %1.(return code:%2)	%1 プロセスの初期化エラーです。	イベントプロセスが起動されていない事が考えられます。	●	●	●	●
pm	情報	23	The system will be stopped.	システムを停止します。	—	●	●		
pm	情報	24	The cluster daemon will be stopped.	CLUSTERPRO デーモンを停止します。	—	●	●		
pm	情報	25	The system will be rebooted.	システムを再起動します。	—	●	●		
pm	情報	26	Process %1 will be restarted.	%1 プロセスを再起動します。	—	●	●		
pm	情報	30	Received a request to stop the system from %1.	%1 からシステム停止要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	情報	31	Received a request to stop the cluster daemon from %1.	%1 から CLUSTERPRO デーモン停止要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	情報	32	Received a request to reboot the system from %1.	%1 からシステム再起動要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	情報	33	Received a request to restart the cluster daemon from %1.	%1 から CLUSTERPRO デーモン再起動要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	情報	34	Received a request to resume the cluster daemon from %1.	%1 からサーバリジューム要求を受け取りました。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
pm	情報	35	Received a request to suspend the cluster daemon from %1.	%1 からサーバサスペンド要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	情報	36	Received a request to panic by sysrq from %1.	%1 から sysrq によるパニック要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	情報	37	Received a request to reset by keepalive driver from %1.	%1 から keepalive ドライバによるリセット要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	情報	38	Received a request to panic by keepalive driver from %1.	%1 から keepalive ドライバによるパニック要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	情報	39	Received a request to reset by BMC from %1.	%1 から BMC によるリセット要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	情報	40	Received a request to power down by BMC from %1.	%1 から BMC によるパワーダウン要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	情報	41	Received a request to power cycle by BMC from %1.	%1 から BMC によるパワーサイクル要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	情報	42	Received a request to send NMI by BMC from %1.	%1 から BMC による NMI 送信要求を受け取りました。	—	●	●		
pm	エラー	66	An attempt to panic by sysrq from %1 failed.	%1 からの sysrq によるパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●		
pm	エラー	67	An attempt to reset by keepalive driver from %1 failed.	%1 からの keepalive ドライバによるリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●		
pm	エラー	68	An attempt to panic by keepalive driver from %1 failed.	%1 からの keepalive ドライバによるパニックをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●		
pm	エラー	69	An attempt to reset by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC によるリセットをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
pm	エラー	70	An attempt to power down by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC によるパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
pm	エラー	71	An attempt to power cycle by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC によるパワーサイクルをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
pm	エラー	72	An attempt to send NMI by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC による NMI 送信をしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
nm	情報	1	Server %1 has started.	サーバ %1 が起動しました。	—	●	●		
nm	情報	2	Server %1 has been stopped.	サーバ %1 が停止しました。	—	●	●	●	●
nm	情報	3	Resource %1 of server %2 has started.	サーバ %2 の %1 リソースが起動しました。	—	●	●		
nm	情報	4	Resource %1 of server %2 has stopped.	サーバ %2 の %1 リソースが停止しました。	—	●	●		
nm	情報	5	Waiting for all servers to start.	サーバの起動待ち合わせを開始しました。	—	●	●		
nm	情報	6	All servers have started.	サーバが起動しました。	—	●	●		
nm	情報	7	Timeout occurred during the wait for startup of all servers.	全サーバの起動待ち合わせがタイムアウトしました。	—	●	●		
nm	エラー	8	Timeout occurred during the wait for startup of all servers. (Cannot communicate with some servers.)	全サーバの起動待ち合わせがタイムアウトしました。(いくつかのサーバとの内部通信ができない状態です。)	ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●		
nm	情報	9	Waiting for startup of all servers has been canceled.	サーバの起動待ち合わせをキャンセルしました。	—	●	●		
nm	エラー	10	Status of resource %1 of server %2 is unknown.	サーバ %2 の %1 リソースの状態が不明です。	%1 リソースに関するケーブルまたは、ネットワークの設定が正しいか確認してください。	●	●	●	●
nm	エラー	20	Process %1 was terminated abnormally.	%1 プロセスが異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●	●

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
nm	情報	21	The system will be stopped.	システムを停止します。	—	●	●		
nm	情報	22	The cluster daemon will be stopped.	CLUSTERPRO デーモンを停止します。	—	●	●		
nm	情報	23	The system will be rebooted.	システムを再起動します。	—	●	●		
nm	情報	24	Process %1 will be restarted.	%1 プロセスを再起動します。	—	●	●		
nm	エラー	30	Network partition was detected. Shut down the server %1 to protect data.	ネットワークパーティションを検出しました。データ保護のためサーバ%1 をシャットダウンします。	全てのハートビートがしようできない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。 DISKHB を使用している場合には共有ディスクの状態を確認してください。 COMHB を使用している場合には COM ケーブルが正しく接続されているか確認してください。	●	●		
nm	エラー	31	An error occurred while confirming the network partition. Shut down the server %1.	ネットワークパーティションの確認時に問題が発生しました。データ保護のためサーバ%1 をシャットダウンします。	ネットワークパーティション解決リソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●		
nm	エラー	32	Shut down the server %1. (reason:%2)	サーバ%1 をシャットダウンします。(理由:%2)	全てのハートビートがしようできない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。 DISKHB を使用している場合には共有ディスクの状態を確認してください。 COMHB を使用している場合には COM ケーブルが正しく接続されているか確認してください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
nm	エラー	33	Cluster service will be stopped. (reason:%1)	サービスを停止します。(理由:%1)	理由に示す要因を取り除いてください。	●	●		
nm	エラー	34	The combination of the network partition resources is invalid. (server name:%1)	ネットワークパーティション解決リソースの組み合わせが不正です。(サーバ名:%1)	構成情報を確認してください。	●	●		
nm	エラー	35	Failed to start the resource %1. Server name:%2	リソース%1 の起動に失敗しました。(サーバ名:%2)	ネットワークパーティション解決リソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●		
nm	情報	36	The network partition %1 of the server %2 has been recovered to the normal status.	サーバ%2 のネットワークパーティション%1 が正常状態に復帰しました。	—	●	●		
nm	エラー	37	The network partition %1 of the server %2 has an error.	サーバ%2 のネットワークパーティション%1 が異常です。	ネットワークパーティション解決リソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●		
nm	エラー	38	The resource %1 of the server %2 is unknown.	サーバ%2 のリソース%1 が不明です。	構成情報を確認してください。	●	●		
nm	情報	39	The server %1 cancelled the pending failover.	サーバ%1 がフェイルオーバーをキャンセルしました。	—	●	●		
nm	エラー	80	Cannot communicate with server %1.	サーバ%1 との内部通信ができない状態です。	ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●		
nm	情報	81	Recovered from internal communication error with server %1.	サーバ%1 との内部通信が異常状態から復帰しました。	—	●	●		
rc	情報	10	Activating group %1 has started.	%1 グループの起動処理を開始しました。	—	●	●		
rc	情報	11	Activating group %1 has completed.	%1 グループの起動処理が終了しました。	—	●	●		
rc	エラー	12	Activating group %1 has failed.	%1 グループの起動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	15	Waiting for group %1 to start has started.	グループの起動待ち合わせ処理を開始しました。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	情報	16	Waiting for group %1 to start has been completed.	グループの起動待ち合わせ処理が正常に完了しました。	—	●	●		
rc	エラー	17	Group start has been cancelled because waiting for group %1 to start has timed out.	グループの起動待ち合わせ処理でタイムアウトが発生しました。	起動待ち合わせ先グループの状態を確認してください。グループが起動されていない場合は、そのグループを起動後に再度グループ操作を実行してください。	●	●		
rc	警告	18	Waiting for group %1 to start has timed out. However, group start continues.	グループの起動待ち合わせ処理でタイムアウトが発生しましたが、グループの起動を継続します。	—	●	●		
rc	情報	20	Stopping group %1 has started.	%1 グループの停止処理を開始しました。	—	●	●		
rc	情報	21	Stopping group %1 has completed.	%1 グループの停止処理が終了しました。	—	●	●		
rc	エラー	22	Stopping group %1 has failed.	%1 グループの停止処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	警告	23	Server %1 is not in a condition to start group %2.	サーバ%1 は グループ%2 を起動できる状態ではありません。	すでに完全排他グループが起動しているサーバでは完全排他グループを起動することはできません。完全排他グループを停止して再度実行してください。	●	●		
rc	情報	25	Waiting for group %1 to stop has started.	グループの停止待ち合わせ処理を開始しました。	—	●	●		
rc	情報	26	Waiting for group %1 to stop has been completed.	依存しているグループの停止待ち合わせ処理が正常に完了しました。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	エラー	27	Group stop has been cancelled because waiting for group %1 to stop has timed out.	グループの停止待ち合わせ処理でタイムアウトが発生しました。	停止待ち合わせ先グループの状態を確認してください。グループが停止されていない場合は、そのグループを停止後に再度グループ操作を実行してください。	●	●		
rc	警告	28	Waiting for group %1 to stop has timed out. However, group stop continues.	停止待ち合わせ処理でタイムアウトが発生しましたが、グループの停止を継続します。	—	●	●		
rc	情報	30	Activating %1 resource has started.	%1 リソースの起動処理を開始しました。	—		●		
rc	情報	31	Activating %1 resource has completed.	%1 リソースの起動処理が終了しました。	—		●		
rc	エラー	32	Activating %1 resource has failed.(%2 : %3)	%1 リソースの起動処理が失敗しました。	200 ページの「グループリソース活性/非活性時の詳細情報」を参照してください。起動処理でストールが発生した場合には Activating %1 resource has failed.(99 : command is timeout)が出力されます。	●	●	●	●
rc	情報	40	Stopping %1 resource has started.	%1 リソースの停止処理を開始しました。	—		●		
rc	情報	41	Stopping %1 resource has completed.	%1 リソースの停止処理が終了しました。	—		●		
rc	エラー	42	Stopping %1 resource has failed.(%2 : %3)	%1 リソースの停止処理が失敗しました。	200 ページの「グループリソース活性/非活性時の詳細情報」を参照してください。停止処理でストールが発生した場合には Stopping %1 resource has failed.(99 : command is timeout)が出力されます。	●	●	●	●

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	情報	50	Moving group %1 has started.	%1 グループの移動処理を開始しました。	—	●	●		
rc	情報	51	Moving group %1 has completed.	%1 グループの移動処理が終了しました。	—	●	●		
rc	エラー	52	Moving group %1 has failed.	%1 グループの移動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	55	Migrating group %1 has started.	%1 グループのマイグレーション処理を開始しました。	—	●	●		
rc	情報	56	Migrating group %1 has completed.	%1 グループのマイグレーション処理が終了しました。	—	●	●		
rc	エラー	57	Migrating group %1 has failed.	%1 グループのマイグレーション処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	警告	58	Server %1 is not in a condition to migrate group %2.	サーバ %1 はグループ %2 をマイグレーションできる状態ではありません。	マイグレーション先サーバの状態を確認してください。マイグレーション先サーバが存在しない場合には %1 にサーバ名は出力されません。	●	●		
rc	情報	60	Failover group %1 has started.	%1 グループのフェイルオーバー処理を開始しました。	—	●	●		
rc	情報	61	Failover group %1 has completed.	%1 グループのフェイルオーバー処理が終了しました。	—	●	●		
rc	エラー	62	Failover group %1 has failed.	%1 グループのフェイルオーバー処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	警告	63	Server %1 is not in a condition to move group %2.	サーバ %1 はグループ %2 を移動できる状態ではありません。	移動先サーバの状態を確認してください。移動先サーバが存在しない場合には %1 にサーバ名は出力されません。	●	●		
rc	情報	64	Server %1 has been set as the destination for the group %2 (reason: %3).	サーバ %1 をグループ %2 のフェイルオーバー先に設定しました。(理由: %3)	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	エラー	65	There is no appropriate destination for the group %1 (reason: %2).	グループ%1の適切なフェイルオーバー先がありません。(理由: %2)	フェイルオーバー可能なサーバがありません。サーバが停止しているか、フェイルオーバーができないモニタリソース異常が発生しています。サーバを起動するか、モニタリソース異常の原因を取り除くか、異常を検出しているモニタリソースを停止してください。	●	●		
rc	警告	66	Server %1 is not in a condition to start group %2 (reason: %3).	サーバ%1はグループ%2を起動できる状態ではありません。(理由: %2)	グループの起動ができないモニタリソース異常が発生しています。モニタリソース異常の原因を取り除くか、異常を検出しているモニタリソースを停止してください。	●	●		
rc	情報	67	Server %1 in the same server group (%2) has been set as the destination for the group %3.	同じサーバグループ%2内のサーバ%1をグループ%3のフェイルオーバー先に設定しました。	—	●	●		
rc	情報	68	Server %1 not in the same server group (%2) has been set as the destination for the group %3.	サーバグループ%2とは別のサーバグループ内のサーバ%1をグループ%3のフェイルオーバー先に設定しました。	—	●	●		
rc	警告	69	Can not failover the group %1 because there is no appropriate destination in the same server group %2.	サーバグループ%2内にグループ%1をフェイルオーバーできるサーバがありません。	サーバグループ内のサーバを起動してからグループを起動するか、別のサーバグループ内のサーバでグループを起動してください。	●	●		
rc	情報	70	Restarting group %1 has started.	%1 グループの再起動処理を開始しました。	—	●	●		
rc	情報	71	Restarting group %1 has completed.	%1 グループの再起動処理が終了しました。	—	●	●		
rc	エラー	72	Restarting group %1 has failed.	%1 グループの再起動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	情報	74	Failback group %s has started.	%1 グループのフェイルバック処理を開始しました。	—	●	●		
rc	情報	75	Failback group %s has completed.	%1 グループのフェイルバック処理が終了しました。	—	●	●		
rc	情報	76	Failback group %s has failed.	%1 グループのフェイルバック処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	80	Restarting resource %1 has started.	%1 リソースの再起動処理を開始しました。	—	●	●		
rc	情報	81	Restarting resource %1 has completed.	%1 リソースの再起動処理が終了しました。	—	●	●		
rc	エラー	82	Restarting resource %1 has failed.	%1 リソースの再起動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	83	Starting a single resource %1.	リソース%1 を単体起動しています。	—	●	●		
rc	情報	84	A single resource %1 has been started.	リソース%1 の単体起動が完了しました。	—	●	●		
rc	エラー	85	Failed to start a single resource %1.	リソース%1 の単体起動に失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	警告	86	Server %1 is not in a condition to start a single resource %2.	サーバ %1 はリソース%2 を単体起動できる状態ではありません。	サーバおよびグループの状態を確認してください。	●	●		
rc	情報	87	Stopping a single resource %1.	リソース%1 を単体停止しています。	—	●	●		
rc	情報	88	A single resource %1 has been stopped.	リソース%1 の単体停止が完了しました。	—	●	●		
rc	エラー	89	Failed to stop a single resource %1.	リソース%1 の単体停止に失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	90	All the servers in the cluster were shut down.	サーバを停止しました。	—	●	●		
rc	情報	91	The server was shut down.	サーバを停止しました。	—	●	●		
rc	警告	100	Restart count exceeded the maximum value %1. Final action of resource %2 will not be executed.	再起動回数が最大値 %1 を超えました。リソース %2 の最終アクションは実行されません。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	情報	121	The CPU frequency has been set to high.	CPU クロックレベルを最高に設定しました。	—	●	●		
rc	情報	122	The CPU frequency has been set to low.	CPU クロックレベルを最低に設定しました。	—	●	●		
rc	情報	124	CPU frequency setting has been switched to automatic control by cluster.	CPU クロック設定をサーバによる自動制御に切り替えました。	—	●	●		
rc	エラー	140	CPU frequency control cannot be used.	CPU クロック制御機能は使用できません。	BIOS の設定、カーネルの設定を確認してください。	●	●		
rc	エラー	141	Failed to set the CPU frequency to high.	CPU クロックレベルを最高に設定できませんでした。	BIOS の設定、カーネルの設定を確認してください。 CLUSTERPRO デモンが起動しているか確認してください。 CPU クロック制御機能を使用する設定になっているか確認してください。	●	●		
rc	エラー	142	Failed to set the CPU frequency to low.	CPU クロックレベルを最低に設定できませんでした。	同上	●	●		
rc	エラー	144	Failed to switch the CPU frequency setting to automatic control by cluster.	CPU クロック設定をサーバによる自動制御に切り替えられませんでした。	CLUSTERPRO デモンが起動しているか確認してください。 CPU クロック制御機能を使用する設定になっているか確認してください。	●	●		
rc	情報	160	Script before final action upon activation failure in resource %1 started.	リソース(%1)の活性異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	—	●	●		
rc	情報	161	Script before final action upon activation failure in resource %1 completed.	リソース(%1)の活性異常時最終動作前スクリプトが完了しました。	—	●	●		
rc	情報	160	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 started.	リソース(%1)の非活性異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	—	●	●		
rc	情報	161	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 completed.	リソース(%1)の非活性異常時最終動作前スクリプトが完了しました。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	情報	162	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 started.	リソース(%1)の非活性異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	—	●	●		
rc	情報	163	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 completed.	リソース(%1)の非活性異常時最終動作前スクリプトが完了しました。	—	●	●		
rc	エラー	180	Script before final action upon activation failure in resource %1 failed.	リソース(%1)の活性異常時最終動作前スクリプトが失敗しました。	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●		
rc	エラー	181	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 failed.	リソース(%1)の非活性異常時最終動作前スクリプトが失敗しました。	同上	●	●		
rc	情報	200	Resource(%1) will be reactivated since activating resource(%2) failed.	リソース %1 の活性処理失敗によりリソース %2 を再活性化します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	201	Group(%1) will be moved to server(%2) since activating resource(%3) failed.	リソース %3 の活性処理失敗によりグループ %1 をサーバ %2 に移動します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	202	Group(%1) will be stopped since activating resource(%2) failed.	リソース %2 の活性処理失敗によりグループ %1 を停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	203	Cluster daemon will be stopped since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性処理失敗により CLUSTERPRO サーバデーモンを停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	204	System will be halted since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性処理失敗により OS をシャットダウンします。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	205	System will be rebooted since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性処理失敗により OS を再起動します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	206	Activating group(%1) will be continued since failover process failed.	フェイルオーバーに失敗したため、グループ %1 の起動処理を継続します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	情報	220	Resource(%1) will be stopping again since stopping resource(%2) failed.	リソース %2 の非活性処理失敗によりリソース %1 の非活性をリトライします。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	222	Group(%1) will be stopped since stopping resource(%2) failed.	リソース %2 の非活性処理失敗によりグループ %1 を停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	223	Cluster daemon will be stopped since stopping resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性処理失敗によりサーバデーモンを停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	224	System will be halted since stopping resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性処理失敗により OS を停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	225	System will be rebooted since stopping resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性処理失敗により OS を再起動します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	240	System panic by sysrq is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により sysrq によるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	241	System reset by keepalive driver is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	242	System panic by keepalive driver is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	243	System reset by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	244	System power down by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーダウンが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	情報	245	System power cycle by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーサイクルが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	246	NMI send by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により BMC による NMI 送信が要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	エラー	260	An attempt to panic system by sysrq due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により sysrq によるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●		
rc	エラー	261	An attempt to reset system by keepalive driver due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	262	An attempt to panic system by keepalive driver due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	263	An attempt to reset system by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	264	An attempt to power down system by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	265	An attempt to power cycle system by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーサイクルをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	エラー	266	An attempt to send NMI by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により BMC による NMI 送信をしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	情報	280	System panic by sysrq is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性異常により sysrq によるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	281	System reset by keepalive driver is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	282	System panic by keepalive driver is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	283	System reset by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性異常により BMC によるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	284	System power down by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性異常により BMC によるシステムのパワーダウンが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	285	System power cycle by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性異常により BMC によるシステムのパワーサイクルが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	情報	286	Sending NMI by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性異常により BMC による NMI 送信が要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
rc	エラー	300	An attempt to panic system by sysrq due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性異常により sysrq によるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	エラー	301	An attempt to reset system by keepalive driver due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	302	An attempt to panic system by keepalive driver due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	303	An attempt to reset system by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性異常により BMC によるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	304	An attempt to power down system by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	305	An attempt to power cycle system by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性異常により BMC によるシステムのパワーサイクルをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	306	An attempt to send NMI by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性異常により BMC による NMI 送信をしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	340	Group start has been cancelled because waiting for group %1 to start has failed.	グループの起動待ち合わせ処理でエラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
rc	情報	400	System power down by BMC is requested. (destination server : %1)	BMC によるシステムのパワーダウンを要求しました。(対象サーバ : %1)	—	●	●		
rc	情報	401	System power cycle by BMC is requested. (destination server : %1)	BMC によるシステムのパワーサイクルを要求しました。(対象サーバ : %1)	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	情報	402	System reset by BMC is requested. (destination server : %1)	BMC によるシステムのリセットを要求しました。(対象サーバ : %1)	—	●	●		
rc	情報	403	Sending NMI by BMC is requested. (destination server : %1)	BMC による NMI 送信が要求されました。(対象サーバ : %1)	—	●	●		
rc	情報	410	Forced stop of virtual machine is requested. (destination server : %s)	仮想マシンの強制停止を要求しました。(対象サーバ : %1)	—	●	●		
rc	エラー	420	An attempt to power down system by BMC failed. (destination server : %1)	BMC によるシステムのパワーダウンを要求しましたが、失敗しました。(対象サーバ : %1)	ipmitool コマンドまたは hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	421	An attempt to power cycle system by BMC failed. (destination server : %1)	BMC によるシステムのパワーサイクルを要求しましたが、失敗しました。(対象サーバ : %1)	ipmitool コマンドまたは hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	422	An attempt to reset system by BMC failed. (destination server : %1)	BMC によるシステムのリセットを要求しましたが、失敗しました。(対象サーバ : %1)	ipmitool コマンドまたは hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	423	An attempt to send NMI by BMC failed. (destination server : %1)	BMC による NMI 送信を要求しましたが、失敗しました。(対象サーバ : %1)	ipmitool コマンドまたは hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	エラー	430	An attempt to force stop virtual machine failed. (destination server : %s)	仮想マシンの強制停止を要求しましたが、失敗しました。(対象サーバ : %1)	VMware vSphere CLI が使用可能であるか確認してください。	●	●		
rc	警告	441	Waiting for group %1 to stop has failed. However, group stop continues.	グループの停止待ち合わせ処理でエラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
rc	警告	500	Since there is no other normally running server, the final action for an activation error of group resource %1 was suppressed.	正常に稼働しているサーバが他に存在しないためグループリソース %1 の活性異常の最終動作を抑制しました。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rc	警告	501	Since there is no other normally running server, the final action for a deactivation error of group resource %1 was suppressed.	正常に稼動しているサーバが他に存在しないためグループリソース %1 の非活性異常の最終動作を抑制しました。	—	●	●		
rm	情報	1	Monitoring %1 has started.	%1 の監視を開始しました。	—	●	●		
rm	情報	2	Monitoring %1 has stopped.	%1 の監視を停止しました。	—	●	●		
rm	情報	3	%1 is not monitored by this server.	%1 の監視は、当サーバでは行いません。	—	●	●		
rm	警告	4	Warn monitoring %1. (%2 : %3)	%1 の監視を警告します。	202ページの「モニタリソース異常時の詳細情報」を参照してください。 モニタリソースが監視準備中の場合、()内は以下のメッセージが設定されることがあります。このメッセージに対する対処は必要ありません。 (100 : not ready for monitoring.)	●	●		
rm	警告	5	The maximum number of monitor resources has been exceeded. (registered resource is %1)	最大モニタリソース数を超えています。	Builder で構成情報を確認してください。	●	●		
rm	警告	6	Monitor configuration of %1 is invalid. (%2 : %3)	%1 のモニタ構成が不正です。	Builder で構成情報を確認してください。	●	●		
rm	エラー	7	Failed to start monitoring %1.	%1 の監視の開始に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●	●
rm	エラー	8	Failed to stop monitoring %1.	%1 の監視の停止に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rm	エラー	9	Detected an error in monitoring %1. (%2 : %3)	%1 の監視で異常を検出しました。	202ページの「モニタリソース異常時の詳細情報」を参照してください。 監視タイムアウトを検出した場合、()内は以下のメッセージが設定されます。 (99 : Monitor was timeout.) 擬似障害発生中の場合、()内は以下のメッセージが設定されます。この場合の対処は必要ありません。 (201: Monitor failed for failure verification.) モニタリソースから一定時間応答がなかった場合、()内は以下のメッセージが設定されます。 (202: couldn't receive reply from monitor resource in time.)	●	●	●	●
rm	情報	10	%1 is not monitored.	%1 を監視していません。	—	●	●		
rm / mm	情報	12	Recovery target %1 has stopped because an error was detected in monitoring %2.	%2 の監視で異常を検出したため、回復対象 %1 が停止されました。	—	●	●		
rm / mm	情報	13	Recovery target %1 has restarted because an error was detected in monitoring %2.	%2 の監視で異常を検出したため、回復対象 %1 が再起動されました。	—	●	●		
rm / mm	情報	14	Recovery target %1 failed over because an error was detected in monitoring %2.	%2 の監視で異常を検出したため、回復対象 %1 がフェイルオーバーされました。	—	●	●		
rm / mm	情報	15	Stopping the cluster has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、サーバの停止が要求されました。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rm / mm	情報	16	Stopping the system has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、システムの停止が要求されました。	—	●	●		
rm / mm	情報	17	Rebooting the system has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、システムの再起動が要求されました。	—	●	●		
rm / mm	エラー	18	Attempted to stop the recovery target %1 due to the error detected in monitoring %2, but failed.	%2 の監視異常により回復対象 %1 を停止しようとしたが、失敗しました。	%1 リソースの状態を確認してください。	●	●		
rm / mm	エラー	19	Attempted to restart the recovery target %1 due to the error detected in monitoring %2, but failed.	%2 の監視異常により回復対象 %1 を再起動しましたが、失敗しました。	%1 リソースの状態を確認してください。	●	●		
rm / mm	エラー	20	Attempted to fail over %1 due to the error detected in monitoring %2, but failed.	%2 の監視異常により回復対象 %1 をフェイルオーバーしようとしたが、失敗しました。	%1 リソースの状態を確認してください。	●	●		
rm / mm	エラー	21	Attempted to stop the cluster due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常によりサーバを停止しようとしたが、失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
rm / mm	エラー	22	Attempted to stop the system due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常によりシステムを停止しようとしたが、失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
rm / mm	エラー	23	Attempted to reboot the system due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常によりシステムを再起動しようとしたが、失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
rm	エラー	24	The group of %1 resource is unknown.	%1 リソースが所属するグループが不明です。	構成情報が不整合である可能性があります。確認してください。	●	●		
rm / mm	警告	25	Recovery will not be executed since the recovery target %1 is not active.	回復対象%1 が非活性のため回復動作を行いません。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rm / mm	情報	26	%1 status changed from error to normal.	%1 の監視が異常から正常に復帰しました。	—	●	●		
rm / mm	情報	27	%1 status changed from error or normal to unknown.	%1 の監視が異常または、正常から不明になりました。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
rm	エラー	28	Initialization error of monitor process. (%1 : %2)	モニタプロセスの初期化エラーです。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
rm	情報	29	Monitoring %1 was suspended.	%1 の監視を一時停止しました。	—	●	●		
rm	情報	30	Monitoring %1 was resumed.	%1 の監視を再開しました。	—	●	●		
rm	情報	31	All monitors were suspended.	全ての監視を一時停止しました。	—	●	●		
rm	情報	32	All monitors were resumed.	全ての監視を再開しました。	—	●	●		
rm / mm	情報	35	System panic by sysrq has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、sysrq によるシステムのパニックが要求されました。	—	●	●		
rm / mm	エラー	36	Attempted to panic system by sysrq due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により sysrq によるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●		
rm / mm	情報	37	System reset by keepalive driver has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、keepalive ドライバによるシステムのリセットが要求されました。	—	●	●		
rm / mm	エラー	38	Attempted to reset system by keepalive driver due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●		
rm / mm	情報	39	System panic by keepalive driver has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、keepalive ドライバによるシステムのパニックが要求されました。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rm / mm	エラー	40	Attempted to panic system by keepalive driver due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●		
rm / mm	情報	41	System reset by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムのリセットが要求されました。	—	●	●		
rm / mm	エラー	42	Attempted to reset system by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rm / mm	情報	43	System power down by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムのパワーダウンが要求されました。	—	●	●		
rm / mm	エラー	44	Attempted to power down system by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rm / mm	情報	45	System power cycle by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムのパワーサイクルが要求されました。	—	●	●		
rm / mm	エラー	46	Attempted to power cycle system by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		
rm / mm	情報	47	NMI send by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムの NMI が要求されました。	—	●	●		
rm / mm	エラー	48	Attempted to send NMI by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムの NMI をしようとしたが、失敗しました。	ipmitool コマンドまたは hwreset コマンド、ireset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rm	情報	49	%1 status changed from warning to normal.	%1 の監視が警告から正常に復帰しました。	—	●	●		
rm	情報	50	The number of licenses is %1. (%2)	サーバのライセンス数は、%1 です。	—	●	●		
rm	情報	51	The trial license is effective until %.4s/%.2s/%.2s. (%1)	試用版ライセンスの有効期間は、%1 までです。	—	●	●		
rm	警告	52	The number of licenses is insufficient. The number of insufficient licenses is %1. (%2)	ライセンスが不足しています。	不足数分のライセンスを購入して登録してください。	●	●		
rm	エラー	53	The license is not registered. (%1)	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを購入して登録してください。	●	●		
rm	エラー	54	The trial license has expired in %.4s/%.2s/%.2s. (%1)	試用版ライセンスの有効期限切れです。	有効なライセンスを登録してください。	●	●		
rm	エラー	55	The registered license is invalid. (%1)	登録されているライセンスが無効状態です。	有効なライセンスを登録してください。	●	●		
rm	エラー	56	The registered license is unknown. (%1)	登録されているライセンスが不明な状態です。	有効なライセンスを登録してください。	●	●		
rm	エラー	57	Stopping the cluster is required since license (%1) is invalid.	ライセンス不正により、サーバ停止が要求されました。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●	●
rm	エラー	58	Stopping the cluster due to invalid license (%1) failed.	ライセンス不正によるサーバ停止が成功しませんでした。	有効なライセンスを登録してください。	●	●		
rm	エラー	59	The trial license is valid from %.4s/%.2s/%.2s. (%1)	試用版ライセンスの有効期間に到達していません。	有効なライセンスを登録してください。	●	●		
rm	警告	71	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2 (秒) x %3 (1 秒あたりの tick count) です。遅延検出時の実測値が %4 (tick count) となり、遅延警告割合 %5 (%) を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要となります。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rm/mm	情報	81	Script before %1 upon failure in monitor resource %2 started.	%1 モニタリソースの異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	—	●	●		
rm/mm	情報	82	Script before %1 upon failure in monitor resource %2 completed.	%1 モニタリソースの異常時最終動作前スクリプトが完了しました。	—	●	●		
rm/mm	エラー	83	Script before %1 upon failure in monitor resource %2 failed.	%1 モニタリソースの異常時最終動作前スクリプトが失敗しました。	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●		
rm	警告	100	Restart count exceeded the maximum of %1. Final action of monitoring %2 will not be executed.	再起動回数が最大値%1を超えたので、%1 の最終動作は実行されませんでした。	—	●	●		
rm	警告	120	The virtual machine (%1) has been migrated to %2 by an external operation.	%1 リソースが管理している仮想マシンが外部操作によりサーバ%2へマイグレーションされました。	—	●	●		
rm	警告	121	The virtual machine (%1) has been started by an external operation.	%1 リソースが管理している仮想マシンが外部操作により起動されました。	—	●	●		
rm	情報	130	The collecting of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been started (timeout=%2).	モニタリソース\$1 の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取を開始しました。タイムアウトは%2 秒です。	—	●	●		
rm	情報	131	The collection of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been completed.	モニタリソース%1 の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取が完了しました。	—	●	●		
rm	警告	132	The collection of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been failed (%2).	モニタリソース%1 の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取が失敗しました。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rm	情報	140	Process %1 has started.	プロセス%1 を起動しました。	-	●	●		
rm	警告	141	Process %1 has restarted.	プロセス%1 を再起動しました。	-	●	●		
rm	警告	142	Process %1 does not exist.	プロセス%1 が消滅しました。	-	●	●		
rm	異常	143	Process %1 was restarted %2 times, but terminated abnormally.	プロセス%1 を%2 回再起動しましたが、異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
rm	異常	150	The cluster is stopped since process %1 was terminated abnormally.	プロセス%1 が異常終了したので、クラスタを停止します。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
rm	エラー	151	The server is shut down since process %1 was terminated abnormally.	プロセス%1 が異常終了したので、サーバをシャットダウンします。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
rm	エラー	152	The server is restarted since process %1 was terminated abnormally.	プロセス%1 が異常終了したので、サーバを再起動します。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
rm	エラー	160	Monitor resource %1 cannot be controlled since the license is invalid.	ライセンスが有効でないため、モニタリソース%1 を制御できません。	有効なライセンスを登録してください。	●	●		
rm	正常	170	Recovery script has been executed since an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、回復スクリプトが実行されました。	-	●	●		
rm	エラー	171	An attempt was made to execute the recovery script due to a %1 monitoring failure, but failed.	%1 の監視異常により回復スクリプトを実行しましたが、失敗しました。	回復スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●		
rm	情報	180	Dummy Failure of monitor resource %1 is enabled.	モニタリソース%1 の擬似障害を開始しました。	-	●	●		
rm	情報	181	Dummy Failure of monitor resource %1 is disabled.	モニタリソース%1 の擬似障害を停止しました。	-	●	●		
rm	情報	182	Dummy Failure of all monitor will be enabled.	全モニタリソースの擬似障害を開始します。	-	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
rm	情報	183	Dummy Failure of all monitor will be disabled.	全モニタリソースの擬似障害を停止します。	-	●	●		
rm	警告	184	An attempt was made to enable Dummy Failure of monitor resource %1, but failed.	モニタリソース %1 の擬似障害の開始に失敗しました。	モニタリソース %1 が擬似障害に対応しているか確認してください。	●	●		
rm	警告	185	An attempt was made to disable Dummy Failure of monitor resource %1, but failed.	モニタリソース %1 の擬似障害の停止に失敗しました。	モニタリソース %1 が擬似障害に対応しているか確認してください。	●	●		
rm	情報	190	Recovery action caused by monitor resource error is disabled.	モニタリソース異常時の回復動作を無効にしました。	-	●	●		
rm	情報	191	Recovery action caused by monitor resource error is enabled.	モニタリソース異常時の回復動作を有効にしました。	-	●	●		
rm	警告	192	Ignored the recovery action in monitoring %1 because recovery action caused by monitor resource error is disabled.	モニタ異常時の回復動作が無効になっているため、モニタリソース %1 の回復動作が無視されました。	-	●	●		
rm	警告	200	Since there is no other normally running server, the final action(%1) for the error detection of monitor resource %2 was suppressed.	正常に稼動しているサーバが他に存在しないためモニタリソース %2 の異常検出による最終動作(%1)を抑制しました。	-	●	●		
mm	情報	901	Message monitor has been started.	メッセージモニタ (外部連携モニタの関連モジュール) が開始されました。	-	●	●		
mm	エラー	902	Failed to initialize message monitor. (%1 : %2)	メッセージモニタ (外部連携モニタの関連モジュール) の初期化に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
mm	警告	903	An error of %1 type and %2 device has been detected. (%3)	カテゴリ %1、キーワード %2 の外部エラー %3 を受信しました。	-	●	●		
mm	エラー	905	An error has been detected in monitoring %1. (%2)	モニタリソース %1 の監視で異常を検出しました。	%2 のメッセージに従った対処を実施してください。	●	●	●	●

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
mm	エラー	906	Message monitor was terminated abnormally.	メッセージモニタ (外部連携モニタの関連モジュール) が異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
mm	エラー	907	Failed to execute action. (%1)	回復動作の実行に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
mm	情報	908	The system will be stopped.	OS のシャットダウンが実行されます。	-	●	●		
mm	情報	909	The cluter daemon will be stopped.	クラスタ停止が実行されます。	-	●	●		
mm	情報	910	The system will be rebooted.	OS のリブートが実行されます。	-	●	●		
mm	情報	911	Message monitor will be restarted.	メッセージモニタ (外部連携モニタの関連モジュール) が再起動されます。	-	●	●		
mm	情報	912	Received a message by SNMP Trap from external. (%1 : %2)	SNMP Trap のメッセージを受信しました。メッセージは、項目 (%1) の情報 (%2) を含みます。	-	●	●		
trnsv	エラー	1	There was a notification from external (IP=%1), but it was denied.	%1 から通知を受付ましたが、許可されませんでした。	-	●	●		
trnsv	情報	10	There was a notification (%1) from external (IP=%2).	%2 から通知(%1)を受け付けました。	-	●	●		
trnsv	情報	20	Recovery action (%1) of monitoring %2 has been executed because a notification arrived from external.	外部通知によりモニタリソース%2 の異常時動作(%1)の実行を開始しました。	-	●	●		
trnsv	情報	21	Recovery action (%1) of monitoring %2 has been completed.	モニタリソース%2 の異常時動作(%1)が成功しました。	-	●	●		
trnsv	エラー	22	Attempted to recovery action (%1) of monitoring %2, but it failed.	モニタリソース%2 の異常時動作(%1)を実行しましたが、失敗しました。	異常時動作が実行可能な環境か確認してください。	●	●		
trnsv	情報	30	Action (%1) has been completed.	動作(%1)の実行に成功しました。	-	●	●		
trnsv	エラー	31	Attempted to execute action (%1), but it failed.	動作(%1)を実行しましたが、失敗しました。	動作が実行可能な環境か確認してください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
trnsv	情報	40	Script before action of monitoring %1 has been executed.	モニタリソース(%1)の異常時動作前スクリプトを実行しました。	-	●			
trnsv	情報	41	Script before action of monitoring %1 has been completed.	モニタリソース(%1)の異常時動作前スクリプトの実行に成功しました。	-	●			
trnsv	エラー	42	Attempted to execute script before action of monitoring %1, but it failed.	モニタリソース(%1)の異常時動作前スクリプトの実行に失敗しました。	異常時動作前スクリプトが実行可能かどうか確認してください。	●			
lanhb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of server %2 are delayed.(timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	サーバ %2 の HB リソース %1 からのハートビートに遅延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。	●	●		
					HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。				
lanhb	警告	72	Heartbeats sent from HB resource %1 are delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	HB リソース %1 のハートビート送信で遅延が発生しました。送信先サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。				
					HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。				
lanhb	警告	73	Heartbeats received by HB resource %1 are delayed.(server=	HB リソース %1 のハートビート受信で遅延が発生しました。送信元サーバ	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。				

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
			%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	は %2 です。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count)となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。				
lankhb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of server %2 are delayed.(timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	サーバ %2 の HB リソース %1 からのハートビートに遅延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count)となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。	●	●		
lankhb	警告	73	Heartbeats received from HB resource %1 is delayed.(timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	HBリソース %1 のハートビート受信で遅延が発生しました。送信元サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count)となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。				
diskhb	エラー	10	Device(%1) of resource(%2) does not exist.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●		
diskhb	エラー	11	Device(%1) of resource(%2) is not a block device.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●		
diskhb	エラー	12	Raw device(%1) of resource(%2) does not exist.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●		
diskhb	エラー	13	Binding device(%1) of resource(%2) to raw device(%3) failed.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
diskhb	エラー	14	Raw device(%1) of resource(%2) has already been bound to other device.	リソース %2 の raw デバイス %1 は別のデバイスにバインドされています。	使用していない raw デバイスを設定してください。	●	●		
diskhb	エラー	15	File system exists on device(%1) of resource(%2).	リソース %2 のデバイス %1 にはファイルシステムが存在します。	デバイス %1 を使用する場合はファイルシステムを削除してください。	●	●		
diskhb	情報	20	Resource %1 recovered from initialization error.	リソース%1 が初期化エラーから復帰しました。	—	●	●		
diskhb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of server %2 are delayed.(timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	サーバ %2 の HB リソース %1 からのハートビートに遅延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。	●	●		
					HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。				
diskhb	警告	72	Heartbeat write of HB resource %1 is delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6).	HB リソース %1 のハートビート書き込みで遅延が発生しました。書き込み先サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。				
					HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。				
diskhb	警告	73	Heartbeat read of HB resource %1 is delayed.(server=%2	HB リソース %1 のハートビート読み込みで遅延が発生しました。読み込み元	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。				

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
			timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count)となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。				
comhb	情報	1	Device (%1) does not exist.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●		
comhb	情報	2	Failed to open the device (%1).	デバイスのオープンに失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
comhb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of server %2 are delayed.(timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	サーバ %2 の HB リソース %1 からのハートビートに遅延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count)となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。	●	●		
comhb	警告	72	Heartbeat write of HB resource %1 is delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6).	HBリソース %1 のハートビート書き込みで遅延が発生しました。送信先サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count)となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。				
comhb	警告	73	Heartbeat read of HB resource %1 is delayed.(server=%2	HBリソース %1 のハートビート読み込みで遅延が発生しました。送信元サーバ	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。				

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
			timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	バは %2 です。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count)となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。				
bmchb	エラー	10	Failed to initialize to BMC.	BMC の初期化に失敗しました。	ハードウェアが BMC 連携機能を使用可能か確認してください。	●	●		
bmchb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of server %2 are delayed.(timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	サーバ %2 の HB リソース %1 からのハートビートに遅延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count)となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。	●	●		
monp	エラー	1	An error occurred when initializing monitored process %1. (status=%2)	監視対象プロセス %1 の初期化エラーです。	メモリ不足、OS のリソース不足、または、構成情報が不整合である可能性が考えられます。確認してください。	●	●		
					構成情報が未登録状態であれば、以下のプロセスのメッセージが出力されますが、問題ありません。				
					+ mdagnt				
					+ webmgr + webalert				
monp	エラー	2	Monitor target process %1 terminated abnormally. (status=%2)	監視対象プロセス %1 が異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
monp	情報	3	Monitor target process %1 will be restarted.	監視対象プロセス %1 を再起動します。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
monp	情報	4	The cluster daemon will be stopped since the monitor target process %1 terminated abnormally.	監視対象プロセス %1 の異常終了により、サーバを停止します。	—	●	●		
monp	エラー	5	Attempted to stop the cluster daemon, but failed.	サーバを停止しようとしたが、失敗しました。	サーバが未起動状態、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
monp	情報	6	The system will be stopped since the monitor target process %1 terminated abnormally.	監視対象プロセス %1 の異常終了により、システムを停止します。	—	●	●		
monp	エラー	7	Attempted to stop the system, but failed. (status=%#x)	システムを停止しようとしたが、失敗しました。	サーバが未起動状態、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
monp	情報	8	System will be rebooted since monitor target process %1 terminated abnormally.	監視対象プロセス %1 の異常終了により、システムを再起動します。	—	●	●		
monp	エラー	9	Attempted to reboot the system, but failed. (status=%#x)	システムを再起動しようとしたが、失敗しました。	サーバが未起動状態、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●		
disk	情報	10	%1 of %2 has started.	デバイス %2 のコマンド %1 を開始しました。	—	●	●		
disk	情報	11	%1 of %2 was successful.	デバイス %2 のコマンド %1 に成功しました。	—	●	●		
disk	エラー	12	%1 of %2 failed (ret=%3).	デバイス %2 のコマンド %1 に戻り値 %3 で失敗しました。	%1 コマンドのマニュアルを参照してください。	●	●		
disk	警告	13	Executing %1 of %2 with %3 option is necessary. Execute the command manually.	%3 オプションを指定してデバイス %2 のコマンド %1 を実行する必要があります。手動でコマンドを実行してください。	手動で %3 オプションを指定して %1 コマンドを実行してください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
disk	情報	14	%1 of %2 with %3 option has started.	%3 オプションを指定してデバイス %2 のコマンド %1 を開始しました。	—	●	●		
cl	情報	1	There was a request to start %1 from the %2.	%2 から%1 の起動要求がありました。	—	●	●		
cl	情報	2	There was a request to stop %1 from the %2.	%2 から%1 の停止要求がありました。	—	●	●		
cl	情報	3	There was a request to suspend %1 from the %2.	%2 から%1 のサスペンド要求がありました。	—	●	●		
cl	情報	4	There was a request to resume %s from the %s.	%2 から%1 のリジューム要求がありました。	—	●	●		
cl	エラー	11	A request to start %1 failed(%2).	%1 の起動要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
cl	エラー	12	A request to stop %1 failed(%2).	%1 の停止要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
cl	エラー	13	A request to suspend %1 failed(%2).	%1 のサスペンド要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
cl	エラー	14	A request to resume %1 failed(%2).	%1 のリジューム要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
cl	エラー	15	A request to %1 cluster failed on some servers(%2).	サーバの%1 要求がいくつかのサーバで失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
cl	エラー	16	A request to start %1 failed on some servers(%2).	%1 の起動が失敗したサーバがあります。	%1 の状態を確認してください。	●	●		
cl	エラー	17	A request to stop %1 failed on some servers(%2).	%1 の停止が失敗したサーバがあります。	%1 の状態を確認してください。	●	●		
cl	警告	18	Automatic start is suspended because the cluster service was not stopped according to the normal procedure.	「ダウン後自動起動する」が設定されていないため自動起動を中止しました。	クラスタサービスを起動するためには WebManager または clpcl コマンドでクラスタサービスを起動してください。	●	●		
cl	警告	20	A request to start %1 failed because cluster is running(%2).	クラスタが起動しているため、%1 の起動に失敗しました。	クラスタの状態を確認してください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
cl	警告	21	A request to stop %1 failed because cluster is running(%2).	クラスタが起動しているため、%1 の停止に失敗しました。	クラスタの状態を確認してください。	●	●		
mail	エラー	1	The license is not registered. (%1)	ライセンスを購入して登録してください。	—	●	●		
mail	エラー	2	The trial license has expired in %1. (%2)	有効なライセンスを登録してください。	—	●	●		
mail	エラー	3	The registered license is invalid. (%1)	有効なライセンスを登録してください。	—	●	●		
mail	エラー	4	The registered license is unknown. (%1)	有効なライセンスを登録してください。	—	●	●		
mail	エラー	5	mail failed(%s).(SMTP server: %s)	メール通報が失敗しました。	SMTP サーバにエラーが発生していないか、あるいは SMTP サーバとの通信に問題がないか確認してください。	●	●		
mail	情報	6	mail succeeded.(SMTP server: %s)	メール通報が成功しました。	—	●	●		
userw	警告	1	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2(秒) × %3 (1 秒あたりの tick count) です。遅延検出時の実測値が %4(tick count) となり、遅延警告割合 %5(%)を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要となります。	●	●		
vipw	警告	1	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2(秒) × %3 (1 秒あたりの tick count) です。遅延検出時の実測値が %4(tick count) となり、遅延警告割合 %5(%)を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要となります。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
ddnsw	警告	1	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。 現在のタイムアウト値は %2(秒) x %3 (1 秒あたりの tick count) です。遅延検出時の実測値が %4(tick count) となり、遅延警告割合 %5(%) を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要となります。	●	●		
vmw	警告	1	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。 現在のタイムアウト値は %2(秒) x %3 (1 秒あたりの tick count) です。遅延検出時の実測値が %4(tick count) となり、遅延警告割合 %5(%) を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要となります。	●	●		
apisv	情報	1	There was a request to stop cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバ停止の要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	2	There was a request to shutdown cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバシャットダウンの要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	3	There was a request to reboot cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバリブートの要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	4	There was a request to suspend cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバサスペンドの要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	10	There was a request to stop server from the %1(IP=%2).	%1 からサーバ停止の要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	11	There was a request to shutdown server from the %1(IP=%2).	%1 からサーバシャットダウンの要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	12	There was a request to reboot server from the %1(IP=%2).	%1 からサーバリブートの要求がありました。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
apisv	情報	30	There was a request to start group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1の起動要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	31	There was a request to start all groups from the %1(IP=%2).	%1 から全グループの起動要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	32	There was a request to stop group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1の停止要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	33	There was a request to stop all groups from the %1(IP=%2).	%1 から全グループの停止要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	34	There was a request to restart group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1の再起動要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	35	There was a request to restart all groups from the %1(IP=%2).	%1 から全グループの再起動要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	36	There was a request to move group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1の移動要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	37	There was a request to move group from the %1(IP=%2).	%1 からグループの移動要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	38	There was a request to failover group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1のフェイルオーバー要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	39	There was a request to failover group from the %1(IP=%2).	%1 からグループのフェイルオーバー要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	40	There was a request to migrate group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1のマイグレーション要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	41	There was a request to migrate group from the %1(IP=%2).	%2 からグループのマイグレーション要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	42	There was a request to failover all groups from the %1(IP=%2).	%2 から全グループのフェイルオーバー要求がありました。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
apisv	情報	43	There was a request to cancel waiting for the dependence destination group of group the %1 was issued from %2.	%2 からグループ%1 の依存先グループ待ち合わせ処理のキャンセル要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	50	There was a request to start resource(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からリソース%1 の起動要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	51	There was a request to start all resources from the %1(IP=%2).	%1 から全リソースの起動要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	52	There was a request to stop resource(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からリソース%1 の停止要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	53	There was a request to stop all resources from the %1(IP=%2).	%1 から全リソースの停止要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	54	There was a request to restart resource(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からリソース%1 の再起動要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	55	There was a request to restart all resources from the %1(IP=%2).	%1 から全リソースの再起動要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	60	There was a request to suspend monitor resources from the %1(IP=%2).	%1 からモニタリソースのサスペンド要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	61	There was a request to resume monitor resources from the %1(IP=%2).	%1 からモニタリソースのリジューム要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	62	There was a request to enable Dummy Failure of monitor resources from the %1(IP=%2).	%1 からモニタリソースの擬似障害の開始要求がありました。	—	●	●		
apisv	情報	63	There was a request to disable Dummy Failure of monitor resources from the %1(IP=%2).	%1 からモニタリソースの擬似障害の停止要求がありました。	—	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
apisv	情報	70	There was a request to set CPU frequency level from the %1(IP=%2).	%1 から CPU クロックの設定要求がありました。	—	●	●		
apisv	エラー	101	A request to stop cluster was failed(0x%08x).	サーバ停止に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	102	A request to shutdown cluster was failed(0x%08x).	サーバシャットダウンに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	103	A request to reboot cluster was failed(0x%08x).	サーバリブートに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	104	A request to suspend cluster was failed(0x%08x).	サーバサスペンドに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	110	A request to stop server was failed(0x%08x).	サーバ停止に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	111	A request to shutdown server was failed(0x%08x).	サーバシャットダウンに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	112	A request to reboot server was failed(0x%08x).	サーバリブートに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	113	A request to server panic was failed(0x%08x).	サーバパニックに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	114	A request to server reset was failed(0x%08x).	サーバリセットに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	115	A request to server sysrq was failed(0x%08x).	SYSRQ パニックに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	116	A request to KA RESET was failed(0x%08x).	Keepalive リセットに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	117	A request to KA PANIC was failed(0x%08x).	Keepalive パニックに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	118	A request to BMC RESET was failed(0x%08x).	BMC リセットに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	119	A request to BMC PowerOff was failed(0x%08x).	BMC パワーオフに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	120	A request to BMC PowerCycle was failed(0x%08x).	BMC パワーサイクルに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	121	A request to BMC NMI was failed(0x%08x).	BMC NMI に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
apisv	エラー	130	A request to start group(%1) was failed(0x%08x).	グループ(%1)の起動に失敗しました。	rc が出力するグループ起動失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
apisv	エラー	131	A request to start all groups was failed(0x%08x).	全グループの起動に失敗しました。	同上	●	●		
apisv	エラー	132	A request to stop group(%1) was failed(0x%08x).	グループ(%1)の停止に失敗しました。	rc が出力するグループ停止失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
apisv	エラー	133	A request to stop all groups was failed(0x%08x).	全グループの停止に失敗しました。	同上	●	●		
apisv	エラー	134	A request to restart group(%1) was failed(0x%08x).	グループ(%1)の再起動に失敗しました。	rc が出力するグループ停止失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
apisv	エラー	135	A request to restart all groups was failed(0x%08x).	全グループの再起動に失敗しました。	同上	●	●		
apisv	エラー	136	A request to move group(%1) was failed(0x%08x).	グループ(%1)の移動に失敗しました。	rc が出力するグループ移動失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
apisv	エラー	137	A request to move all groups was failed(0x%08x).	全グループの移動に失敗しました。	同上	●	●		
apisv	エラー	138	A request to failover group(%1) was failed(0x%08x).	グループ(%1)のフェイルオーバーに失敗しました。	rc が出力するグループフェイルオーバー失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
apisv	エラー	139	A request to failover group was failed(0x%08x).	全グループのフェイルオーバーに失敗しました。	同上	●	●		
apisv	エラー	140	A request to migrate group(%1) was failed(0x%08x).	グループ(%1)のマイグレーションに失敗しました。	rc が出力するグループフェイルオーバー失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
apisv	エラー	141	A request to migrate all groups was failed(0x%08x).	全グループのマイグレーションに失敗しました。	同上	●	●		
apisv	エラー	142	A request to failover all groups was failed(0x%08x).	全グループのフェイルオーバーに失敗しました。	同上	●	●		
apisv	エラー	143	A request to cancel waiting for the dependency destination group of group %1 has failed(0x%08x).	グループ%1 の依存先グループ待ち合わせ処理のキャンセルに失敗しました。	同上	●	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
apisv	エラー	150	A request to start resource(%1) was failed(0x%08x).	リソース(%1)の起動に失敗しました。	rc が出力するリソース起動失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
apisv	エラー	152	A request to stop resource(%1) was failed(0x%08x).	リソース(%1)の停止に失敗しました。	rc が出力するリソース停止失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
apisv	エラー	154	A request to restart resource(%1) was failed(0x%08x).	リソース(%1)の再起動に失敗しました。	rc が出力するリソース再起動失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
apisv	エラー	155	A request to restart all resources was failed(0x%08x).	全リソースの再起動に失敗しました。	同上	●	●		
apisv	エラー	160	A request to suspend monitor resource was failed(0x%08x).	モニタリソースのサスペンドに失敗しました。	モニタリソースの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	161	A request to resume monitor resource was failed(0x%08x).	モニタリソースのリジュームに失敗しました。	同上	●	●		
apisv	エラー	162	A request to enable Dummy Failure of monitor resource was failed(0x%08x).	モニタリソースの擬似障害の開始に失敗しました。	モニタリソースの状態を確認してください。	●	●		
apisv	エラー	163	A request to disable Dummy Failure of monitor resource was failed(0x%08x).	モニタリソースの擬似障害の停止に失敗しました。	同上	●	●		
apisv	エラー	170	A request to set CPU frequency was failed(0x%08x).	CPU クロックレベルの設定に失敗しました。	rc が出力する CPU クロックレベル設定失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●		
cfmgr	情報	1	The cluster configuration data has been uploaded by %1.	構成情報がアップロードされました。	—	●	●		
sra	エラー	1	system monitor closed because reading the SG file failed.	SG ファイルの読み込み処理で異常がありました。	別途出力されているメッセージを確認してください。		●		
sra	エラー	2	Opening an ignore file failed. file name = %1, errno = %2. %1:ファイル名 %2:errno	SGファイル(%1)をオープンできませんでした。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●		
sra	エラー	3	Reading a configuration file failed.	SG ファイルの読み込み処理で異常がありました。	別途出力されているメッセージを確認してください。		●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
sra	エラー	4	Trace log initialization failed.	内部ログファイルの初期化に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●		
sra	エラー	5	Creating a daemon process failed.	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●		
sra	エラー	6	Reading a service cofiguration file failed.	SG ファイルの読み込み処理で異常がありました。	別途出力されているメッセージを確認してください。		●		
sra	エラー	7	mlock() failed.	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●		
sra	エラー	8	A daemon process could not be created.	SystemResourceAgent の起動（プロセスのデーモン化）に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●		
sra	エラー	9	stdio and stderr could not be closed.	SystemResourceAgent の起動（標準入出力のclose）に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●		
sra	エラー	10	A signal mask could not be set up.	SystemResourceAgent の起動（シグナルマスクの設定）に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●		
sra	エラー	11	A configuration file error occurred. (1) [line = %1, %2] %1:行 %2:設定値	SystemResourceAgent の起動（SG ファイルの読み込み）に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●		
sra	エラー	12	A configuration file error occurred. (2) [line=%1, %2] %1:行 %2:設定値	SystemResourceAgent の起動（SG ファイルの読み込み）に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●		
sra	エラー	13	A plugin event configuration file error occurred. The DLL pointer was not found. [line = %1, %2] %1:行 %2:設定値	SystemResourceAgent の起動（プラグインイベント登録）に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●		
sra	エラー	14	malloc failed. [event structure]	SystemResourceAgent の起動（プラグインイベント登録）に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
sra	エラー	15	A service configuration file error occurred due to an invalid event. [%1] %1:設定値	SystemResourceAgentの起動(サービスファイルの読み込み)に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●		
sra	エラー	16	A plugin event configuration file error occurred due to %1. %1:エラー原因	SystemResourceAgentの起動(プラグインイベントファイルの読み込み)に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●		
sra	エラー	17	Internal error occurred.	共有メモリアクセスエラーが発生しました。	—		●		
sra	警告	101	Opening an SG file failed. file name = %1, errno = %2 %1:ファイル名 %2:errno	SGファイル (%1) をオープンできませんでした。	SGファイルを再作成し、クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●		
sra	警告	102	malloc(3) fail(1) . [%1] %1:関数名	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。		●		
sra	警告	103	malloc(3) fail(2). [%1] %1:関数名	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。		●		
sra	警告	104	An internal error occurred. rename(2) error (errno = %1) %1:errno	本製品が異常終了しました。	直前に出力されているシステムログメッセージを参照してください。		●		
sra	警告	105	realloc(3) fail. [%1]. %1:関数名	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。		●		
sra	警告	106	A script timed out. (%1 %2) %1:スクリプトファイル名 %2:引数	内部エラーが発生しました。	サーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。		●		
sra	警告	107	[%1] execvp(2) fail (%2). %1:スクリプト名 %2:errno	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。		●		
sra	警告	108	[%1] fork fail (%2). Suspended. %1:スクリプト名 %2:errno	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。		●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
sra	警告	109	malloc(3) fail. [%1] %1:関数名	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考え られます。確認してく ださい。		●		
sra	情報	201	A script was executed. (%1) %1:スクリプト名	スクリプト (%1) を 実行しました。	—		●		
sra	情報	202	Running a script finished. (%1) %1:スクリプト名	スクリプトが正常に 終了しました。	—		●		
sra	情報	203	An %1 event succeeded. %1:実行したイベン ト種別	運用管理コマンドを 実行しました。 %1 は実行したイ ベント種別 (boot, shutdown, stop, start, flush) が出力 されます。	—		●		
sra	エラー	301	A process resource error was detected. (type = %1, pid = %2, %3) %1:リソース種別 %2:プロセス ID %3:プロセス名	プロセスリソース異 常を検出しました。	監視異常の原因を確 認してください。	●	●		
sra	エラー	302	A system resource error was detected. (type = %1) %1:リソース種別	システムリソース異 常を検出しました。	監視異常の原因を確 認してください。	●	●		
sra	エラー	303	A system resource error was detected. (type = %1, user name = %2) %1:リソース種別 %2:ユーザ名	システムリソース異 常を検出しました。	監視異常の原因を確 認してください。	●	●		
sra	エラー	304	A disk resource error was detected. (type = %1, level = %2, %3) %1:リソース種別 %2:監視レベル %3:マウントポイン ト名	ディスクリソース異 常を検出しました。	監視異常の原因を確 認してください。	●	●		
jra	情報	1	%1: The JVM status changed to normal.	監視対象の Java VM の状態は正常 です。 %1: 監視対象の Java VM 名称	—		●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先			
						alert	syslog	mail	SNMP
jra	エラー	2	%1: The JVM status changed to abnormal. cause = %2.	監視対象のJava VMの状態が異常です。 %1: 監視対象のJava VM名称 %2: 異常発生時のエラー発生箇所	監視対象のJava VM上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。		●	●	
jra	エラー	3	%1: Connecting to JVM was not possible.	監視対象のJava VMへの接続が不正です。 %1: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMが起動していることを確認してください。		●	●	
jra	警告	4	Writing jragent.log failed. %1,code = %2.	ログファイルの書き込みエラーです。 %1: 例外内容 %2: エラーコード	ディスク空き容量が十分か確認してください。		●		
jra	警告	5	Opening jragent.log failed.	ログファイルオープンエラーです。	ディスク空き容量が十分か確認してください。		●		
jra	警告	6	%1: Creating a monitor status file failed.	ファイル作成エラーです。 %1: 監視対象のJava VM名称	ディスク空き容量やボリュームのファイル最大数が十分か確認してください。		●		
jra	警告	7	%1: Deleting a monitor status file failed.	ファイル削除エラーです。 %1: 監視対象のJava VM名称	ハードディスクに問題がないか確認してください。		●		
jra	情報	8	JRAgent was started.	Java Resource Agent が起動しました。	—		●		
jra	エラー	9	Setting is wrong.[Java install path]	Javaインストールパスが不正です。	クラスタ構成情報を確認してください。		●		

ドライバの syslog メッセージ

カーネルモードLANハートビートドライバ

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	情報	101	Kernel Heartbeat was initialized successfully. (major=%1, minor=%2)	clpkhb ドライバのロードが成功しました。	—
clpkhb	情報	102	Kernel Heartbeat was released successfully.	clpkhb ドライバのアンロードが成功しました。	—
clpkhb	エラー	103	Can not register miscdev on minor=%1. (err=%2)	clpkhb ドライバのロードに失敗しました。	—
clpkhb	エラー	104	Can not deregister miscdev on minor=%1. (err=%2)	clpkhb ドライバのアンロードに失敗しました。	—
clpkhb	情報	105	Kernel Heartbeat was initialized by %1.	clpkhb ドライバは[%1]モジュールにより正常に初期化されました。	—
clpkhb	情報	106	Kernel Heartbeat was terminated by %1.	clpkhb ドライバは[%1]モジュールにより正常に終了されました。	—
clpkhb	エラー	107	Can not register Kernel Heartbeat proc file!	clpkhb ドライバ用の proc ファイルの作成に失敗しました。	—
clpkhb	エラー	108	Version error.	clpkhb ドライバの内部バージョン情報が不正です。	CLUSTERPROを再インストールしてください。
clpkhb	情報	110	The send thread has been created. (PID=%1)	clpkhb ドライバの送信スレッドは正常に作成されました。 プロセス ID は[%1]です。	—
			The recv thread has been created. (PID=%1)	clpkhb ドライバの受信スレッドは正常に作成されました。 プロセス ID は[%1]です。	
clpkhb	エラー	111	Failed to create send thread. (err=%1)	エラー[%1]により、clpkhb ドライバの送信スレッドの作成に失敗しました。	—
			Failed to create recv thread. (err=%1)	エラー[%1]により、clpkhb ドライバの受信スレッドの作成に失敗しました。	
clpkhb	情報	112	Killed the send thread successfully.	clpkhb ドライバの送信スレッドは正常に停止されました。	—
			Killed the recv thread successfully.	clpkhb ドライバの受信スレッドは正常に停止されました。	
clpkhb	情報	113	Killed the recv thread successfully.	clpkhb ドライバを終了しています。	—
clpkhb	情報	114	Killed the recv thread successfully.	clpkhb ドライバを停止しています。	—
clpkhb	情報	115	Kernel Heartbeat has been stopped	clpkhb ドライバは正常に停止しました。	—

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	エラー	120	Failed to create socket to send %1 packet. (err=%2)	エラー [%2] により、[%1] (HB/DOWN/KA) パケット送信用のソケットの作成に失敗しました。	—
			Failed to create socket to receive packet. (err=%2)	エラー [%2] により、パケット受信用のソケットの作成に失敗しました。	
clpkhb	エラー	121	Failed to create sending %1 socket address. (err=%2)	[%1] (HB/DOWN/KA) 送信用ソケットの設定に失敗しました。	物理メモリが不足している可能性があります。 物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpkhb	エラー	122	Failed to create %1 socket address. (err=%2)	[%1] (HB/DOWN/KA) 送信用ソケットの設定に失敗しました。	物理メモリが不足している可能性があります。 物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpkhb	エラー	123	Failed to bind %1 socket. (err=%2)	[%1] (HB/DOWN/KA/recv) 用ソケットのバインドに失敗しました。	OS の状態を確認してください。 clpkhb 用の通信ポートが既に他のアプリケーション等により利用されている可能性があります。通信ポートの使用状況を確認してください。 インタコネクトLAN I/Fに設定したIPアドレスに誤りがないか、クラスタ構成情報のサーバのプロパティを確認してください。
clpkhb	エラー	125	Failed to send %1 data to %2. (err=%3)	[%1] (HB/DOWN/KA) データを [%2] へ送信できませんでした。	clpkhb 通信用のネットワークの状態を確認してください。
					相手サーバの状態を確認してください。
					設定情報に問題がないか、確認してください。
clpkhb	エラー	126	Failed to receive data. (err=%3)	データ受信に失敗しました。	相手サーバがダウンしている可能性があります。確認してください。
					相手サーバがダウンしていない場合には、clpkhb 用のネットワークの状態を確認してください。
clpkhb	情報	127	Received an invalid packet. magic is not correct!	不正なパケットを受信しました。 無視します。	別のアプリケーションが、clpkhb 用のポートにデータを送信している可能性があります。ポートの使用状況を確認してください。

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	エラー	128	Received an invalid packet. %1 is not correct!	不正なパケットを受信しました。パケット内の不正箇所は [%1] (Resource priority/Source ip address) です。	同上。
clpkhb	情報	129	Receiving operation was interrupted by ending signal!	受信スレッドは終了シグナルにより終了します。	—
clpkhb	情報	130	clpka: <server priority: %1> <reason: %2> <process name: %3> system reboot.	他サーバからのリセット通知を受信しました。プライオリティ[%1]のサーバは、[%3] プロセスに [%2]の異常が発生したため、リセットします。	リセットが発生したサーバの状態を確認してください。
clpkhb	情報	131	clpka: <server priority: %1> <reason: %2> <process name: %3> system panic.	他サーバからのパニック通知を受信しました。プライオリティ[%1]のサーバは、[%3] プロセスに [%2]の異常が発生したため、パニックします。	パニックが発生したサーバの状態を確認してください。
clpkhb	エラー	140	Reference an inaccessible memory area!	ioctl()によるアプリケーションとのデータの受け渡しに失敗しました。	OS の状態を確認してください。
clpkhb	エラー	141	Failed to allocate memory!	メモリの確保に失敗しました。	物理メモリが不足している可能性があります。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpkhb	エラー	142	Invalid argument, %1!	clpkhb ドライバに渡されたパラメータが正しくありません。	設定が正しく行われているか、確認してください。
clpkhb	警告	143	Local node has nothing with current resource.	clpkhb ドライバに渡されたハートビートリソース情報が正しくありません。	同上。

キープアライブドライバ

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpka	情報	101	Kernel Keepalive was initialized successfully. (major=%1, minor=%2)	clpkaドライバは正常にロードされました。	—
clpka	情報	102	Kernel Keepalive was released successfully.	clpkaドライバは正常にアンロードされました。	—
clpka	エラー	103	Can not register miscdev on minor=%1. (err=%2)	clpkaドライバのロードに失敗しました。	カーネルモードLANハートビートが対応しているディストリビューション、カーネルであるか確認してください。
clpka	情報	105	Kernel Keepalive was initialized by %1.	clpkaドライバは正常に初期化されました。	—
clpka	エラー	107	Can not register Kernel Keepalive proc file!	clpkaドライバ用のprocファイルの作成に失敗しました。	メモリ不足等によってカーネルが正常に動作していない可能性があります。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpka	エラー	108	Version error.	clpkaドライバのバージョンが不正です。	インストールされているclpkaドライバが正規のものか確認してください。
clpka	エラー	111	Failed to create notify thread. (err=%1)	clpkaドライバのスレッドの生成に失敗しました。	メモリ不足等によってカーネルが正常に動作していない可能性があります。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpka	情報	130	Reboot tried.	設定に従い、clpkaドライバがマシンの再起動を試みました。	—
clpka	情報	132	Kernel do nothing.	設定に従い、clpkaドライバは何も行いませんでした。	—
clpka	エラー	140	Reference an inaccessible memory area!	clpkaドライバのバージョン情報をクラスタ本体へ渡せませんでした。	インストールされているclpkaドライバが正規のものか確認してください。
clpka	エラー	141	Failed to allocate memory!	物理メモリが不足しています。	物理メモリが不足しています。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpka	エラー	142	Invalid argument, %1!	clpkaドライバへクラスタ本体から不正な情報が渡されました。	インストールされているclpkaドライバが正規のものか確認してください。
clpka	エラー	144	Process (PID=%1) is not set.	clpkaドライバへクラスタ本体以外のプロセス(%1)から操作が行われようとしていました。	clpkaドライバへ誤ってアクセスしようとしたアプリケーション(%1)がないか確認してください。

グループリソース活性/非活性時の詳細情報

EXECリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
exec	エラー	1	Termination code %1 was returned.	同期型のスクリプトまたは アプリケーションの実行結 果として0以外の終了コー ドが戻されました。	スクリプトの場合、スクリプ トの内容に問題がある可 能性があります。スクリプ トが正しく記述されてい るか確認してください。 アプリケーションの場合、 アプリケーションが異常終 了した可能性があります。 アプリケーションの動作を 確認してください。
exec	エラー	1	Command was not completed within %1 seconds.	同期型のスクリプトまたは アプリケーションの実行が 指定時間以内に正常終了 しませんでした。	スクリプトの場合、スクリプ トの内容に問題がある可 能性があります。スクリプ トが正しく記述されてい るか確認してください。 アプリケーションの場合、 アプリケーションがストー ルした可能性があります。 アプリケーションの動作を 確認してください。 それぞれ、ログから原因を 特定できる可能性があり ます。
exec	エラー	1	Command was aborted.	同期型のスクリプトまたは アプリケーションが異常終 了しました。	アプリケーションの場合、 アプリケーションが異常終 了した可能性があります。 アプリケーションの動作を 確認してください。 メモリ不足またはOSのリ ソース不足が考えられま す。確認してください。
exec	エラー	1	Command was not found. (error=%1)	アプリケーションが存在し ませんでした。	アプリケーションのパスが 不正な可能性がありま す。構成情報のアプリ ケーションのパスを確認し てください。
exec	エラー	1	Command string was invalid.	アプリケーションのパスが 不正です。	構成情報のアプリケーション のパスを確認してくださ い。
exec	エラー	1	Log string was invalid.	ログ出力先のパスが不正 です。	構成情報のログ出力先の パスを確認してください。

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
exec	エラー	1	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

仮想マシンリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
vm	エラー	1~6,8	Initialize error occurred.	初期化中に異常を検出しました。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
vm	エラー	7	Parameter is invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
vm	エラー	9~13	Failed to %s virtual machine %s.	仮想マシンの制御に失敗しました。	仮想マシンの状態を確認してください。
vm	エラー	22	Datastore must be setted.	Builderでデータストア名の記入が必要です。	Builderの仮想マシンリソースのプロパティの詳細タブで、[データストア名]に仮想マシンの設定情報を格納しているデータストア名を記入して、[設定の反映]を実施してください。
vm	エラー	23	VM configuration file path must be setted.	BuilderでVM構成ファイルのパスの記入が必要です。	Builderの仮想マシンリソースのプロパティの詳細タブで、[VM構成ファイルのパス]に仮想マシンの設定情報を格納しているパスを記入して、[設定の反映]を実施してください。
vm	エラー	その他	Internal error occurred.	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

モニタリソース異常時の詳細情報

ソフトRAIDモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
lmdw	警告	100	Device=(%1): Mirror disk is in recovery process (%2).	ミラーディスクは[復帰中]です。	—
lmdw	警告	101	Device=(%1): Bad disks(%2) are detected in mirror disk.	ミラーディスクの配下の物理ディスクは一部壊れて、[警告]のステータスです。	ミラーディスク自身は使用可能ですが、壊れた物理ディスクの取替えを行う必要があります。
lmdw	エラー	3	Device=(%1): Mirror disk has a problem.	ミラーディスクの配下の物理ディスクは全て壊れて、[異常]のステータスです。	ミラーディスクが使用できない状態になっています。壊れた物理ディスクを取り替える必要があります。
lmdw	エラー	4	Soft RAID module has a problem. (err=%1)	Soft RAID関連のカーネルモジュールは異常である。	—
lmdw	エラー	5	Options or parameters are invalid.	コマンドパラメータエラーが発生したことを示します。	構成情報が正しいか確認してください。
lmdw	エラー	6	Failed to read config file.(err=%1)	構成ファイルの読み取りに失敗したことを示します。	構成情報が存在するか確認してください。
lmdw	エラー	7	Config file error.(err=%1)	構成情報の内容が異常であることを示します。	構成情報が正しいか確認してください。
lmdw	エラー	9	Internal error.err=%1	上記以外の内部エラーが発生したことを示します。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。

IPモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ipw	エラー	1	Ping cannot reach. (ret=%1) IP=%2...	pingコマンドによるパケットが届きませんでした。	該当IPアドレスへの ping コマンドが成功するか確認してください。pingコマンドが失敗した場合は、該当IPアドレスをもつ機器の状態、あるいはネットワークインターフェイスの状態を確認してください。
ipw	エラー	2	Ping was failed. (ret=%1) IP=%2...	pingコマンドが失敗しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ipw	エラー	5	Ping was failed by timeout. IP=%s...	pingコマンドがタイムアウトにより失敗しました。	システム高負荷、メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
ipw	エラー	6	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

ディスクモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	12	loctl was failed. (err=%1) Device=%2	デバイスの制御に失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。
diskw	エラー	13	loctl was failed by timeout. Device=%1	デバイスの制御がタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	14	Open was failed. (err=%1) File=%2	ファイルのオープンに失敗しました。	ファイル名と同じようなディレクトリが存在しているか、監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	15 48	Open was failed by timeout. File=%1	ファイルのオープンがタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足、またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	16	Read was failed. (err=%1) Device=%2	デバイスからの読み込みに失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	17	Read was failed by timeout. Device=%1	デバイスからの読み込みがタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	18	Write was failed. (err=% 1) File=%2	ファイルの書き込みに失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	19	Write was failed by timeout. File=%1	ファイルの書き込みがタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足、またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 34 40 43 44	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	41	SG_IO failed. (sg_io_hdr_t info:%1 SG_INFO_OK_MASK: %2)	SG_IOに失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。
diskw	エラー	42	Parameter was invalid. File=%1	指定されたファイル名が不正です。	/devで始まるデバイスファイルは指定しないでください。通常のファイルを指定してください。
diskw	エラー	47	Device was invalid. Device=%1	指定された実デバイスが不正です。	Builder でディスクモニタリソースのデバイス名を確認してください。
diskw	エラー	49	Already bound for other. Rawdevice=%1 Device=%2	RAWデバイスは既に他の実デバイスにバインドされています。	設定したRAWデバイスは既に他の実デバイスにバインドされています。 Builder でRAWデバイス名を変更してください

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	50	Popen was failed. (err=%1)	popenに失敗しました。	popenに失敗しました。メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	51	Bind was failed. Rawdevice=%1 Device=%2	バインドに失敗しました。	バインドに失敗しました。BuilderでRAWデバイス名を確認してください。
diskw	エラー	52	Stat was failed. (err=%1) Device=%2	statに失敗しました。	statに失敗しました。Builder でデバイス名を確認してください。
diskw	警告	100	Ignored disk full error.	ディスクフルエラーを無視しました。	デバイスの使用状況を確認してください。

PIDモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
pidw	エラー	1	Resource %1 was not found.	リソースが見つかりませんでした。	Builder で構成情報を確認してください。
pidw	エラー	1	Process does not exist. (pid=%1)	プロセスが存在しません。	監視対象プロセスが何らかの原因により消滅しました。確認してください。
pidw	エラー	1	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。

ユーザ空間モニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
userw	エラー	1	Initialize error. (%1)	プロセスの初期化中に異常を検出しました。	ユーザ空間モニタリソースが依存するドライバが存在するか、またはrpmがインストールされているかどうか確認してください。依存するドライバまたはrpmは監視方法によって異なります。

カスタムモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
genw	エラー	1	Initialize error. (status=%d)	初期化中に異常を検出しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
genw	エラー	2	Termination code %d was returned.	意図しない戻り値が返されました。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	3	User was not superuser.	rootユーザではありません。	rootユーザでログインしてください。
genw	エラー	4	Getting of config was failed.	クラスタ構成情報の取得に失敗しました。	クラスタ構成情報が存在するか確認してください。
genw	エラー	5	Parameter was invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	6	Option was invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	7	Monitor Resource %s was not found.	リソースが見つかりませんでした。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	8	Create process failed.	プロセスの生成に失敗しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
genw	エラー	9	Process does not exist. (pid=%d)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	10	Process aborted. (pid=%d)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	11	Asynchronous process does not exist. (pid=%d)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	12	Asynchronous process aborted. (pid=%d)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	13	Monitor path was invalid.	パスが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	その他	Internal error. (status=%d)	その他内部エラーが発生しました。	-

マルチターゲットモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
mtw	エラー	1	Option was invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
mtw	エラー	2	User was not superuser.	rootユーザではありません。	rootユーザでログインしてください。
mtw	エラー	3	Internal error. (status=%d)	その他内部エラーが発生しました。	-

JVMモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
jraw	エラー	11	An error was detected in accessing the monitor target.	監視対象のJava VMに接続できません。	監視対象のJava VMが起動されていることを確認してください。
jraw	エラー	12	JVM status changed to abnormal. cause = %1.	Java VMの監視で異常を検出しました。 %1: 異常発生原因 C-Heap GarbageCollection JavaMemoryPool Thread WorkManagerQueue WebOTXStall	メッセージを元に監視対象のJava VM上で動作しているJavaアプリケーションを確認してください。
jraw	エラー	99	Internal error occurred.	内部エラーが発生しました。	クラスタサスペンドおよびクラスタリジュームを実行してください。

システムモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
sraw	エラー	11	Detected an error in monitoring system resource	システムリソースの監視で異常を検出しました。	リソースに関する何らかの異常が考えられます。確認してください。

NIC Link Up/Downモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
miiw	エラー	1	Option was invalid.	オプションが不正です。	Builder で構成情報を確認してください。
miiw	エラー	4	Config was invalid. (err=%1) %2	構成情報が不正です。	Builder で構成情報を確認してください。
miiw	エラー	10	Get address information was failed. (err=%1)	IPv4または、IPv6アドレス ファミリーのソケットアドレ スの取得に失敗しました。	カーネルのコンフィグレー ションがTCP/IPネットワー キング(IPv4または、IPv6) をサポートしているか確認 してください。
miiw	エラー	11	Socket creation was failed. (err=%1)	ソケットの作成に失敗しま した。	メモリ不足またはOSのリ ソース不足が考えられま す。確認してください。
miiw	エラー	12	ioctl was failed. (err=%1) Device=%2 Request=%3	ネットワークドライバへの 制御リクエストが失敗しま した。	ネットワークドライバ が %3 の制御リクエスト をサポートしているか確認 してください。
miiw	エラー	13	MII was not supported or no such device. Device=%1	NICにMIIがサポートされ ていないかあるいは、監 視対象が存在しません。	監視対象が存在しない場 合は、ifconfig等でネット ワークインターフェイス名 を確認してください。
miiw	エラー	20	NIC %1 link was down.	NICのLinkがDownしまし た。	LANケーブルが正し接続 されているか確認してくだ さい。
miiw	エラー	98	Internal error. (status=%d)	その他内部エラーが発生 しました。	-

仮想マシンモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
vmw	エラー	1	initialize error occured.	初期化中に異常を検出し ました。	メモリ不足またはOSのリ ソース不足、仮想化環境 の問題が考えられます。 確認してください。
vmw	エラー	11	monitor success, virtual machine is not running.	仮想マシンの停止を検出 しました。	仮想マシンの状態を確認 してください。
vmw	エラー	12	failed to get virtual machine status.	仮想マシンの状態の取得 に失敗しました。	仮想マシンが存在してい るか確認してください。
vmw	エラー	13	timeout occured.	監視はタイムアウトしまし た。	OSが高負荷状態の可能 性があります。確認してく ださい。

ボリュームマネージャモニタリソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
volmgrw	警告	100	%1 %2 is %3 !	ボリュームマネージャ(%1)のターゲット(%2)のステータスが%3に遷移しました。	ボリュームマネージャターゲットの状態を確認してください。
volmgrw	エラー	10	Command was failed. Command=%1	%1のコマンドが失敗しました。	コマンドが失敗しました。ボリュームマネージャの動作状況を確認してください。
volmgrw	エラー	11	Option was invalid.	オプションが不正です。	Builder でクラスタ構成情報を確認してください。
volmgrw	エラー	その他	Internal error. (status=%1)	その他の内部エラーが発生しました。	-

プロセス名モニタリソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psw	エラー	11	Process[%1 (pid=%2)] Down	監視対象プロセスの消滅を検出しました。	監視対象プロセスが正しく動作しているか確認してください。
psw	エラー	12	Process count check error. Process count %1/%2 (%3)	監視対象プロセスの起動プロセス数が指定された下限値未満になっています。	監視対象プロセスが正しく動作しているか確認してください。
psw	エラー	13～51	Initialize error	初期化中に異常を検出しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
psw	エラー	13～51	Internal error	内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
psw	エラー	200	Monitoring timeout	監視はタイムアウトしました。	OSが高負荷状態の可能性があります。確認してください。

監視オプションモニタリソース

監視オプションモニタリソースは共通のメッセージを使用します。モジュールタイプは監視オプションモニタリソースごとに異なります。

監視オプションモニタリソース	モジュールタイプ
DB2モニタリソース	db2w
FTPモニタリソース	ftpw
HTTPモニタリソース	httpw

監視オプションモニタリソース	モジュールタイプ
IMAP4モニタリソース	imap4w
MySQLモニタリソース	mysqlw
NFSモニタリソース	nfs
Oracleモニタリソース	oraclew
OracleASモニタリソース	oracleasw
POP3モニタリソース	pop3w
PostgreSQLモニタリソース	psqlw
Sambaモニタリソース	sambaw
SMTPモニタリソース	smtpw
Sybaseモニタリソース	sybasew
Tuxedoモニタリソース	tuxw
Weblogicモニタリソース	wls
Websphereモニタリソース	was
WebOTXモニタリソース	otx

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
(別表)	エラー	1	Init error. [%1, ret=%2]	初期化中に異常を検出しました。 %1には license, library, XML, share memory, log の一つが入ります。	OSが高負荷状態の可能性がります。確認してください。
(別表)	エラー	2	Get config information error. [ret=%1]	設定情報の取得に失敗しました。	Builder で構成情報を確認してください。
(別表)	エラー	3	Invalid parameter.	Configファイル/Policyファイルの設定情報が不正です。 コマンドのパラメータが不正です。	Builder で構成情報を確認してください。
(別表)	エラー	4	Detected function exception. [%1, ret=%2]	異常を検出しました。 %1には監視対象が入ります。	Builder で構成情報を確認してください。 OSが高負荷状態の可能性がります。確認してください。
(別表)	エラー	5	Failed to connect to %1 server. [ret=%2]	監視対象への接続に失敗しました。 %1には、アプリケーション名が入ります。	監視対象の状態を確認してください。
(別表)	エラー	6	Detected authority error.	ユーザ認証が失敗しました。	ユーザ名・パスワード・アクセス権を確認してください。

(別表)	エラー	7	Failed to execute SQL statement (%1). [ret=%2]	SQL文の実行に失敗しました。 %1には、監視対象が入ります。	Builder で構成情報を確認してください。
(別表)	エラー	8	Failed to access with %1.	監視対象とのデータアクセスが失敗しました。 %1には、監視対象が入ります。	監視対象の状態を確認してください。
(別表)	エラー	9	Detected error in %1.	監視対象が異常です。 %1には、監視対象が入ります。	監視対象の状態を確認してください。
(別表)	エラー	10	User was not superuser.	ユーザはRoot権限を持っていません。	実行ユーザが root権限を持っていないか或いは、メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
(別表)	エラー	11	Detected timeout error.	監視対象と通信タイムアウトになりました。	OSが高負荷状態の可能性があります。確認してください。
(別表)	エラー	12	Can not found library. (libpath=%1, errno=%2)	指定した場所からライブラリをロードすることができませんでした。 %1にはライブラリのパスが入ります。	ライブラリの場所を確認してください。
(別表)	エラー	40	The license is not registered.	ライセンスが登録されていません。	正しいライセンスが登録されているか確認してください。
(別表)	エラー	41	The registration license overlaps.	登録したライセンスが重複しています。	正しいライセンスが登録されているか確認してください。
(別表)	エラー	42	The license is invalid.	ライセンスが不正です。	正しいライセンスが登録されているか確認してください。
(別表)	エラー	43	The license of trial expired by %1.	試用版ライセンスの試用期限が切れています。 %1には使用期限が入ります。	-
(別表)	エラー	44	The license of trial effective from %1.	試用版ライセンスの試用開始期限になっていません。 %1には使用期限が入ります。	-

(別表)	警告	71	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2(秒) x %3(1秒あたりの tick count)です。遅延検出時の実測値が %4(tick count)となり、遅延警告割合 %5(%)を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要となります。
(別表)	情報	81	The collecting of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been started (timeout=%2).	モニタリソース\$1の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取を開始しました。タイムアウトは%2秒です。	-
(別表)	情報	82	The collection of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been completed.	モニタリソース%1の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取が完了しました。	-
(別表)	警告	83	The collection of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been failed (%2).	モニタリソース%1の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取が失敗しました。(%2)	-
(別表)	エラー	99	Internal error. (status=%1)	内部エラーを検出しました。	-

JVM モニタリソースの ログ出力メッセージ

以下のメッセージはJVM モニタリソース独自のログファイルであるJVM運用ログ、JVMロードバランサ連携ログのメッセージ一覧です。

JVM運用ログ

メッセージ	発生原因	対処方法
Failed to write the %1\$s.stat.	JVM統計ログの書き込みに失敗しました。 %1\$s.stat: JVM統計ログファイル名	ディスク空き容量が十分か確認してください。
%1\$s: analyze finish[%4\$s]. state = %2\$s, cause = %3\$s	(監視対象のJava VMの状態が異常時)監視対象のJava VMでリソース使用量がしきい値を超えました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 監視対象のJava VMの状態 (1=正常,0=異常) %3\$s: 異常発生時のエラー発生箇所 %4\$s: 計測スレッド名	監視対象のJava VM上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
thread stopped by UncaughtException.	JVMモニタリソースのスレッドが停止しました。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、Java Resource Agentを再起動してください。
thread wait stopped by Exception.	JVMモニタリソースのスレッドが停止しました。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、Java Resource Agentを再起動してください。
%1\$s: monitor thread can't connect to JVM.	監視対象のJava VMへ接続できませんでした。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMが起動されていることを確認してください。
%1\$s: monitor thread can't get the JVM state.	監視対象のJava VMからリソース使用量が取得できませんでした。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMが起動されていることを確認してください。
%1\$s: JVM state is changed [abnormal -> normal].	監視対象のJava VMの状態が異常から正常へ変化しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	—
%1\$s: JVM state is changed [normal -> abnormal].	監視対象のJava VMの状態が正常から異常へ変化しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VM上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
%1\$s: Failed to connect to JVM.	監視対象のJava VMへ接続できませんでした。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMが起動されていることを確認してください。

Failed to write exit code.	JVMモニタリソースが終了コードを記録するファイルに書き込みできませんでした。	ディスク空き容量が十分か確認してください。
Failed to be started JVMsaver.	JVMモニタリソースの起動に失敗しました。	JVM運用ログを確認して開始できない原因を取り除いてから、クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、Java Resource Agentを再起動してください。
JVMsaver already started.	JVMモニタリソースはすでに起動しています。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、Java Resource Agentを再起動してください。
%1\$s: GARBAGE_COLLECTOR_MXBEAN_DOMAIN_TYPE is invalid.	監視対象のJava VMからGC情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: GarbageCollectorMXBean is invalid.	監視対象のJava VMからGC情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: Failed to measure the GC stat.	監視対象のJava VMからGC情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: GC stat is invalid. last.getCount = %2\$s, last.getTime = %3\$s, now.getCount = %4\$s, now.getTime = %5\$s.	監視対象のJava VMからGC発生回数、GC実行時間の計測に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 前回計測時点のGC発生回数 %3\$s: 前回計測時点のGC総実行時間 %4\$s: 今回計測時点のGC発生回数 %5\$s: 今回計測時点のGC総実行時間	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: GC average time is too long. av = %6\$s, last.getCount = %2\$s, last.getTime = %3\$s, now.getCount = %4\$s, now.getTime = %5\$s.	監視対象のJava VMでGC実行時間の平均がしきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 前回計測時点のGC発生回数 %3\$s: 前回計測時点のGC総実行時間 %4\$s: 今回計測時点のGC発生回数 %5\$s: 今回計測時点のGC総実行時間 %6\$s: 前回計測時点から今回計測時点までに実行されたGC実行時間の平均	監視対象のJava VM上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。

%1\$s: GC average time is too long compared with the last connection. av = %6\$s, last.getCount = %2\$s, last.getTime = %3\$s, now.getCount = %4\$s, now.getTime = %5\$s.	監視対象のJava VMへ再接続した後、監視対象のJava VMでGC実行時間の平均がしきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 前回計測時点のGC発生回数 %3\$s: 前回計測時点のGC総実行時間 %4\$s: 今回計測時点のGC発生回数 %5\$s: 今回計測時点のGC総実行時間 %6\$s: 前回計測時点から今回計測時点までに実行されたGC実行時間の平均	監視対象のJava VM上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
%1\$s: GC count is too frequently. count = %4\$s last.getCount = %2\$s, now.getCount = %3\$s.	監視対象のJava VMでGC発生回数がしきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 前回計測時点のGC発生回数 %3\$s: 今回計測時点のGC発生回数 %4\$s: 前回計測時点から今回計測時点までのGC発生回数	監視対象のJava VM上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
%1\$s: GC count is too frequently compared with the last connection. count = %4\$s last.getCount = %2\$s, now.getCount = %3\$s.	監視対象のJava VMへ再接続した後、監視対象のJava VMでGC発生回数がしきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 前回計測時点のGC発生回数 %3\$s: 今回計測時点のGC発生回数 %4\$s: 前回計測時点から今回計測時点までのGC発生回数	監視対象のJava VM上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
%1\$s: RUNTIME_MXBEAN_NAME is invalid.	監視対象のJava VMからヒープ情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: RuntimeMXBean is invalid.	監視対象のJava VMから情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: Failed to measure the runtime stat.	監視対象のJava VMから情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。 監視対象のJava VMで処理負荷が高くなっていないかを確認してください。

%1\$s: Process C-Heap capacity is too little. pname = %2\$s, pid = %4\$s, capacity = %3\$s.	監視対象のJava VMでCヒープ空き容量がしきい値を下回りました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 監視対象プロセスのコマンドライン %3\$s: Cヒープ空き容量 %4\$s: 監視対象プロセスのID	監視対象のJava VM上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
%1\$s: Failed to measure C-Heap capacity. stdout = %2\$s, stderr = %3\$s.	監視対象のJava VMのCヒープ空き容量の計測に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: Cヒープ計測プログラムの標準出力 %3\$s: Cヒープ計測プログラムの標準エラー出力	マシンの負荷が高くないか確認してください。
%1\$s: Failed to measure C-Heap capacity. timeout at gap_chk.	監視対象のJava VMのCヒープ空き容量の計測がタイムアウトのために失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	マシンの負荷が高くないか確認してください。
%1\$s: Failed to measure C-Heap capacity. execute error at gap_chk.stderr = %2\$s.	監視対象のJava VMのCヒープ空き容量の計測に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: Cヒープ計測プログラムの標準エラー出力	マシンの負荷が高くないか確認してください。
%1\$s: Failed to measure C-Heap capacity. execute error at gap_chk.cause = %2\$s.	監視対象のJava VMのCヒープ空き容量の計測に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: Cヒープ計測プログラム実行失敗の詳細エラー情報	マシンの負荷が高くないか確認してください。
%1\$s: MEMORY_MXBEAN_NAME is invalid. %2\$s, %3\$s.	監視対象のJava VMからメモリ情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: メモリプールの名称 %3\$s: メモリの名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: MemoryMXBean is invalid.	監視対象のJava VMからメモリ情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: Failed to measure the memory stat.	監視対象のJava VMからメモリ情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。 監視対象のJava VMで処理負荷が高くなっていないかを確認してください。

%1\$s: MemoryPool name is undefined. memory_name = %2\$s.	監視対象のJava VMからメモリ情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 計測対象のJavaメモリプール名	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: MemoryPool capacity is too little. memory_name = %2\$s, used = %3\$s, max = %4\$s, ratio = %5\$s%.	監視対象のJava VMのJavaメモリプールの空き容量がしきい値を下回りました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 計測対象のJavaメモリプール名 %3\$s: Javaメモリプールの使用量 %4\$s: Javaメモリプールの使用可能な最大量 %5\$s: Javaメモリプールの利用率	監視対象のJava VM上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
%1\$s: THREAD_MXBEAN_NAME is invalid.	監視対象のJava VMからスレッド情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: ThreadMXBean is invalid.	監視対象のJava VMからスレッド情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: Failed to measure the thread stat.	監視対象のJava VMからスレッド情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: Detect Deadlock. threads = %2\$s.	監視対象のJava VMでスレッドのデッドロックが発生しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: デッドロックしたスレッドのID	監視対象のJava VM上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
%1\$s: Thread count is too much(%2\$s).	監視対象のJava VMでスレッドの起動数がしきい値を超えました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 計測時点でのスレッド起動数	監視対象のJava VM上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。

%1\$s: ThreadInfo is null.Thread count = %2\$s.	監視対象のJava VMでスレッドの情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 計測時点でのスレッド起動数	監視対象のJava VMのバージョンの動作環境が正しいか確認してください
%1\$s: Failed to disconnect.	監視対象のJava VMからの切断に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	—
%1\$s: Failed to connect to WebLogicServer.	監視対象のWebLogic Serverの接続に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
%1\$s: Failed to connect to Sun JVM.	監視対象のJava VM、WebOTXの接続に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VM、WebOTX上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
Failed to open the %1\$s.	JVM統計ログの出力に失敗しました。 %1\$s: HA/JVMSaverJVM統計ログファイル名称	ディスク空き容量が十分か、オープン済みのファイル数が上限を超えていないか確認してください。
%1\$s: Can't find monitor file.	監視をしません。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	—
%1\$s: Can't find monitor file, monitor stopped[thread:%2\$s].	監視を停止します。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称 %2\$s: 計測スレッドの種類	—
%1\$s: Failed to create monitor status file.	内部ファイルの作成に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	ディスク空き容量やボリュームのファイル最大数が十分か確認してください。
%1\$s: Failed to delete monitor status file.	内部ファイルの削除に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	ハードディスクに問題がないか確認してください。
%1\$s: com.bea:Type=ServerRuntime is invalid.	監視対象のJava VMから情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のJava VMの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: WorkManagerRuntimeMBean or ThreadPoolRuntimeMBean is invalid.	監視対象のWebLogic Server から情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のWebLogic Server の動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: Failed to measure the WorkManager or ThreadPool stat.	監視対象のWebLogic Serverから情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象のJava VM名称	監視対象のWebLogic Server の動作環境が正しいか確認してください。

%1\$s: ThreadPool stat is invalid. last.pending = %2\$s, now.pending = %3\$s.	監視対象のWebLogic Serverのスレッドプールで待機リクエスト数の計測に失敗しました。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:前回計測時点の待機リクエスト数 %3\$s:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象のWebLogic Server のバージョンの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: WorkManager stat is invalid. last.pending = %2\$s, now.pending = %3\$s.	監視対象のWebLogic Serverのワークマネージャで待機リクエスト数の計測に失敗しました。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:前回計測時点の待機リクエスト数 %3\$s:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象のWebLogic Server のバージョンの動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: PendingRequest count is too much. count = %2\$s.	監視対象のWebLogic Serverのスレッドプールで待機リクエスト数が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
%1\$s: PendingRequest increment is too much. increment = %4\$s%, last.pending = %2\$s, now.pending = %3\$s.	監視対象のWebLogic Serverのスレッドプールで待機リクエスト数の増分が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:前回計測時点の待機リクエスト数 %3\$s:今回計測時点の待機リクエスト数 %4\$s:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分	監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。

<p>%1\$s: PendingRequest increment is too much compared with the last connection. increment = %4\$s, last.pending = %2\$s, now.pending = %3\$s.</p>	<p>監視対象のWebLogic Serverへ再接続した後、監視対象のWebLogic Serverのスレッドプールで待機リクエスト数の増分が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:前回計測時点の待機リクエスト数 %3\$s:今回計測時点の待機リクエスト数 %4\$s:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分</p>	<p>監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。</p>
<p>%1\$s: Throughput count is too much. count = %2\$s.</p>	<p>監視対象のWebLogic Serverのスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数</p>	<p>監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。</p>
<p>%1\$s: Throughput increment is too much. increment = %4\$s, last.throughput = %2\$s, now.throughput = %3\$s.</p>	<p>監視対象のWebLogic Serverのスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:前回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数 %3\$s:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数 %4\$s:前回計測時点から今回計測時点までの単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分</p>	<p>監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。</p>

<p>%1\$s: Throughput increment is too much compared with the last connection. increment = %4\$s, last.throughput = %2\$s, now.throughput = %3\$s.</p>	<p>監視対象のWebLogic Serverへ再接続した後、監視対象のWebLogic Serverのスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:前回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数 %3\$s:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数 %4\$s:前回計測時点から今回計測時点までの単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分</p>	<p>監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。</p>
<p>%1\$s: PendingRequest count is too much. appName = %2\$s, name = %3\$s, count = %4\$s.</p>	<p>監視対象のWebLogic Serverのワークマネージャで待機リクエスト数が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:アプリケーション名 %3\$s:ワークマネージャ名 %4\$s:待機リクエスト数</p>	<p>監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。</p>
<p>%1\$s: PendingRequest increment is too much. appName = %2\$s, name = %3\$s, increment = %6\$s%, last.pending = %4\$s, now.pending = %5\$s.</p>	<p>監視対象のWebLogic Serverのワークマネージャで待機リクエストの数の増分が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:アプリケーション名 %3\$s:ワークマネージャ名 %4\$s:前回計測時点の待機リクエスト数 %5\$s:今回計測時点の待機リクエスト数 %6\$s:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分</p>	<p>監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。</p>

%1\$s: PendingRequest increment is too much compared with the last connection. AppName = %2\$s, Name = %3\$s, increment = %6\$s, last.pending = %4\$s, now.pending = %5\$s.	監視対象のWebLogic Serverへ再接続した後、監視対象のWebLogic Serverのワークマネージャで待機リクエスト数の増分が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:アプリケーション名 %3\$s:ワークマネージャ名 %4\$s:前回計測時点の待機リクエストの数 %5\$s:今回計測時点の待機リクエストの数 %6\$s:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分	監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
%1\$s: Can't find WorkManager. appName = %2\$s, name = %3\$s.	設定したワークマネージャがWebLogic Serverから取得できません。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:アプリケーション名 %3\$s:ワークマネージャ名	[監視対象のWebLogicワークマネージャ]の設定を見直してください。
%1\$s: analyze of average start[%2\$s].	平均値の分析を開始しました。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:スレッド名	—
%1\$s: analyze of average finish[%2\$s].state = %3\$s.	平均値の分析が終了しました。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:スレッド名 %3\$s:監視対象の状態	—
%1\$s: Average of PendingRequest count is too much. count = %2\$s.	監視対象のWebLogic Serverのスレッドプールで待機リクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
%1\$s: Average of Throughput count is too much. count = %2\$s.	監視対象のWebLogic Serverのスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数	監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。

%1\$s: Average of PendingRequest count is too much. AppName = %2\$s, Name = %3\$s, count = %4\$s.	監視対象のWebLogic Serverのワークマネージャで待機リクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。 %1\$s:監視対象のJava VM名称 %2\$s:アプリケーション名 %3\$s:ワークマネージャ名 %4\$s:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象のWebLogic Server上で動作するJavaアプリケーションを見直してください。
Error: Failed to operate clpja_bigip.[%1\$s]	%1\$s:エラーコード	設定内容を見直してください。

JVMロードバランサ連携ログ

メッセージ	発生原因	対処方法
lbadmin command start.	ロードバランサ連携のコマンドの実行を開始しました。	—
lbadmin command finish.	ロードバランサ連携のコマンドの実行が終了しました。	—
Into HealthCheck mode.	ヘルスチェック機能が有効です。	—
Into Weight mode.	監視対象Java VMの負荷算出機能が有効です。	—
The PID of lbadmin.jar is "%1".	ロードバランサ連携関連のプロセスのプロセスIDです。 %1:lbadmin.jarのプロセスID	—
Thread wait stopped by Exception	ダウン判定の待機を中止しました。	—
Rename Command succeeded.	HTMLファイルのリネーム処理が成功しました。	—
Rename Command failed.	HTMLファイルのリネーム処理が失敗しました。	HTMLファイル名とHTMLリネーム先ファイル名を確認してください。
%1 doesn't exist.	リネーム元のHTMLファイルが存在しません。 %1:HTMLファイル名	HTMLファイル名を確認してください。
%1 already exists.	リネーム先のHTMLファイルが既に存在します。 %1:HTMLリネーム先ファイル名	HTMLリネーム先ファイル名を確認してください。
Can't rename file:%1.	HTMLファイルのリネーム処理に失敗しました。 %1:HTMLファイル名	HTMLリネーム先ファイル名を確認してください
The number of retries exceeded the limit.	HTMLファイルリネーム処理のリトライ回数が上限を超えました。	HTMLリネーム先ファイル名を確認してください。
The percent of the load is "%1".	監視対象Java VMの負荷算出に成功しました。 %1:監視対象Java VMの負荷	—

stat log (%1) doesn't exist.	JVM統計ログファイルがありません。 %1:JVM統計ログファイル名	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、Java Resource Agentを再起動してください。
stat log(%1:) cannot be opened for reading.	JVM統計ログファイルのオープンに失敗しました。 %1:JVM統計ログファイル名	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、Java Resource Agentを再起動してください。
format of stat log (%1) is wrong.	JVM統計ログファイルの自身が不正です。 %1:JVM統計ログファイル名	JVM統計ログファイルを削除した後、クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、Java Resource Agentを再起動してください。
Failed to get load of application server.	JVM統計ログファイルから負荷算出のためのデータ取得に失敗しました。	監視対象Java VMの負荷算出設定が正しいか見直してください。
Can't find lock file(%1s*.stat.lock), maybe HA/JVMSaver did not start yet.	JVM監視が起動していません。 %1:内部ファイル名	JVM監視を起動してください。

付録

- 付録 A 索引

付録 A 索引

B

BMC情報を変更, 129
Builder, 147

C

CLUSTERPROデーモンを操作, 59, 64
CPUクロックを制御, 121

E

EXECリソース, 200

I

ipmiのメッセージ, 142
IPモニタリソース, 202

J

JVM運用ログ, 214
JVMモニタリソース, 208
JVMモニタリソースの注意事項, 144
JVMモニタリソースのログ出力メッセージ, 214
JVMロードバランサ連携ログ, 224

N

NIC Link Up/Downモニタリソース, 209

P

PIDモニタリソース, 206

S

SNMPトラップメッセージ, 150
syslogの世代, 79
syslogメッセージ, 150

W

WebManager, 146
WebManager からクラスタサービスの操作, 30
WebManager から時刻情報を確認, 21, 28
WebManager から実行できる操作, 32
WebManager から統合マネージャを起動, 21, 30
WebManager からライセンスを確認, 31
WebManager でアラートの検索, 21, 23, 49
WebManager とは, 18
WebManager の画面レイアウトを変更, 21, 28
WebManager の権限切替え, 56

WebManager の情報を最新に更新, 21, 28
WebManager の接続制限、操作制限, 17, 53
WebManager の動作モードを切り替える, 21, 22
WebManager のメイン画面, 20
WebManager を手動で停止/開始, 17, 52
WebManager を使用してログを収集, 21, 24
WebManager を利用したくない場合, 52
WebManager を起動, 19
WebManagerでアラートを確認, 17, 22, 23, 49

あ

アラートビューの各フィールド, 49
アラートビューの操作, 50
アラートメール通報メッセージ, 150

い

異常発生時の情報採取, 80

か

カーネルモードLANハートビートドライバ, 196
回復動作中の操作制限, 142
各オブジェクトの状態を確認, 17, 22, 32
仮想マシンモニタリソース, 209
仮想マシンリソース, 201
活性時監視設定のモニタリソース, 144
監視オプションモニタリソース, 210
監視リソースを制御, 59, 109

き

キーブアライブドライバ, 199

く

クラスタ間連携を行う, 123
クラスタサーバに処理を要求, 125
グループオブジェクト, 34, 35
グループリソースオブジェクト, 35
グループリソース活性/非活性時の詳細情報, 200
グループリソースを制御, 59, 117
グループを操作, 59, 69

こ

構成情報の反映, 59, 81
構成情報バックアップ, 59, 81
構成情報をバックアップ, 88
コマンド, 59, 60
コマンドラインから操作, 59, 60

さ

サーバ全体の詳細情報をリスト表示, 41
サーバ全体の状態を確認, 47
サーバをシャットダウン, 59, 68
サービス起動/停止用スクリプト, 143
再起動回数を制御, 131
最終動作(グループ停止), 145

し

システムモニタリソース, 208
システムモニタリソースの注意事項, 144
実行形式ファイル, 142
使用制限の種類, 53
状態を確認, 17, 22, 41
状態を表示, 59, 62

す

スクリプトファイル, 142, 144

そ

ソフトRAIDモニタリソース, 202

た

タイプを指定したログの収集, 76
タイムアウトを一時調整コマンド, 92

つ

ツリービュー, 17, 22, 32

て

ディスクモニタリソース, 203

と

特定サーバのオブジェクト, 33

特定サーバの状態を確認, 47
ドライバsyslogメッセージ, 149, 196
ドライバロード時のメッセージ, 142

ふ

プロセス名モニタリソース, 210

ほ

ボリュームマネージャモニタリソース, 210

め

メッセージを出力, 106

も

モニタ全体の状態を確認, 48
モニタリソース, 144
モニタリソースオブジェクト, 38

ゆ

ユーザ空間モニタリソース, 206, 207

ら

ライセンスを管理, 102

り

リストビュー, 17, 22, 41
リソース使用量を予測, 59, 134

ろ

ログ収集時のメッセージ, 143
ログファイルの出力先, 79
ログレベル/サイズを変更コマンド, 95
ログを収集, 59, 73